

(目) 何々
(目) 何々
(目) 何々
以下 倣之

右之通有之候也

年月日

知事宛

何郡長(何署長)印

郡役所分

(用紙半紙野紙)

明治何年何月分調定額明細書

一金

違約金

内譯

金

額

事

由

住所氏名立木入札保証金沒收ノ分
何々

一金

内譯

物品拂下代

種

類

數量

金

額

右之通

備考(地所貸下料地所拂下代返納金ハ除ク)

警察署分

(用紙半紙野紙)

明治何年何月分調定額明細書 (明治二十七年三月廿八日訓令乙一七四号改正)

一金

罰金及科料

内譯

金

額

人

員

事

由

刑法違警罪ノ科料
何々規則違犯ノ科料

一金

沒收金

内譯

金

額

件

數

事

由

何々ニ依リ沒收金
何々

一金

物品拂下代

種類	數	量	金	額
烟草入	〇	〇		〇
何々				〇

右之通

收税署分 (用紙半紙野紙)

明治何年何月分調定額明細書 (全上)

一金 罰金及科料

内譯

金額 人員 事 由

酒造税則違犯ノ罰金 何々違犯ノ罰金

一金 沒收金

内譯

金額 件數 事 由

何税則違犯ノ沒收金 何々ノ沒收金

一金 違約金

内譯

金額 事 由

住所氏名何々入机保証金沒收ノ分 住所氏名何々ノ件ニ係ル

一金 國稅滯納所分費辦納金

内譯 (間接國稅犯則者所分費辦納金ハ之ニ做フ)

金額 事 由

督促令狀手数料 何々

右之通

○租稅外收入金調定其他報告ノ件 明治二十七年二月二十二日訓令乙第九一號

租稅外諸收入金調定及收入額不納款指額現金拂込額等其月中ニ無之ルハ其旨翌月三日マテニ報告ス

ヘシ

○計算書郡役所へ送付ノ件 明治二十六年三月廿二日訓令第三八號

會計規則第九十五條第九十七條第九十九條ニ依リ提出スヘキ計算書ハ西茨城、結城、岡田、豊田、西葛

飾、猿島、筑波、北相馬、新治、信太、河内、行方、鹿島、久慈、多賀、那珂郡長ヲシテ帳簿ト對照セシメ該條自今同郡長ヘ送付スヘシ

○出納官吏計算書帳簿對照ノ件

明治二十六年三月廿 全日第
二訓令第三六號 三八號
郡長 宛 (東茨城郡真壁郡ヲ除ク)

會計規則第九十五條第九十七條第九十九條ニ依リ等間下妻境谷田郡取手土浦江戸崎麻生鎌田太田松原管谷警察署出納官吏ヨリ提出スル計算書ハ自今該役所ニ送付セシメ候條計算書ノ各項目其他同書所載ノ事項金額總テ帳簿ト對照シ相違ナシト認ルルハ別紙書式ニ依リ保證金ヲ製シ計算書類ト共ニ差出スヘシ

(別紙)

保證書

出納官吏(元出納官吏)官氏名ノ證明ニ係ル明治何年度(一周年度ヲ通セサルモノハ自明治何年月日至明治何年月日)歳入歳出外現金出納計算書ト出納簿及計算書ノ現額ト現存額ノ符合ヲ認ム

明治何年月日

官 氏 名 印

保證書

收入官吏(元收入官吏)官氏名ノ證明ニ係ル明治何年度間(自何年月日至何年月日)現金出納計算書ト現金出納簿ノ符合ヲ認ム

明治何年月日

官 氏 名 印

保證書

收入官吏(元收入官吏)官氏名ノ證明ニ係ル明治何年度(自何年月日至何年月日)收入計算書ト收入簿ノ符合ヲ認ム

明治何年月日

官 氏 名 印

○附屬証據書類仕譯對照ノ件

明治二十六年五月
五日訓令第七號

郡長 宛 (東茨城郡真壁ヲ除ク)

計算書ト帳簿ト對照保證書差出方本年三月第三六號ヲ以テ訓令候所歳入歳出外現金出納計算書附屬証憑書トシテ提出スル受入及支出金仕譯書モ領置品臺帳ト對照別紙書式ニ依リ保證書ヲ作り計豫書類ト共ニ差出スヘシ

(別紙)

保證書

出納官吏官氏名歳入歳出外ニ係ル現金出納計算證明ノ爲メ提出スル受入金及支出金仕譯書ヲ領置品臺帳ト對照スルニ事項金額一モ相違ノ件ナシ

明治何年月日

官 氏 名

○歳入歳出外現金出納檢定書式

明治二十七年二月九 全日乙第
日訓令乙第六七號 六六號

明治廿五年四月訓令第五三號及廿六年三月縣令號外檢定書式別紙之通改定ス(別紙書式訓令乙第六

六號ニ全シ

訓令乙第六六號 (廿七年二月九日郡)

明治廿五年四月縣令丙第二一號及同廿六年三月縣令号外規定書式別紙之通改定ス

歳入歳出外現金出納檢定書モ之ニ倣フ

廳名 自明治何年月日 租稅外諸收入現金出納檢定書

一金 前年度(何年月日)ヨリ越高

一金 領收高

合計金

一金 仕拂高

一金 現在高

明治何年月日檢定候處書面之通相違無之候也

明治何年月日

檢査員 官 氏 名 印

(元)出納官吏

(元)官 氏 名 印

○地方稅送納仕譯書式

明治廿五年四月廿九日縣令丙第二十二號

郡市役所

本年縣令丙第六號地方稅送納仕譯書式左ノ通更正ス

但納額並増減報告誤納更訂下戻其他缺損報告モ本文ニ準ス

明治何年度何郡市地方稅營業稅送納仕譯書

一金何程

內 譯

營業稅

金何程

內

商業稅

金何程

金何程

納期豫定

隨時收入

金何程

內

工業稅

金何程

金何程

納期豫定

隨時收入

右之通候也

年 月 日

明治何年度何郡市地方稅雜種稅送納仕譯書

一金何程

內 譯

雜種稅

金何程

內

料理屋稅

金何程

金何程

納期豫定

隨時收入

金何程 飲食店税
 内
 金何程 納期豫定
 金何程 隨時收入
 金何程 湯屋税
 内
 金何程 納期豫定
 金何程 隨時收入
 以下同
 右之通候也
 年月日
 明治何年度何郡市地方税戸數割送納仕譯書
 一金何程 戸數割
 内譯
 金何程 納期豫定
 金何程 隨時收入
 右之通候也
 年月日

○地方税收入金報告様式

明治二十六年十月十日 八日訓令第三三號

○雜收入金額豫定期日

明治二十七年六月廿一日 訓令乙第二七五號

○紙屑、糞尿、公賣ノ件

明治二十二年七月二日 訓令第七十六號

○地方税、備荒儲蓄金、送金爲替ノ件

明治二十七年三月三十日 全日訓令乙第一八四號 一八五號

訓令乙第一八五號 明治廿七年三月三十一日

○會計検査官吏派遣ノ件

明治二十六年四月五日 訓令乙六號

會計検査トシテ検査官吏ヲ派出セシメタルトキハ検査官吏ノ需メニ應シ検査ヲ受クル義ト心得ヘシ

但検査官吏ハ其辭令書ヲ携帶ス

官第三十二號 明治二十五年七月一日

直税署 間税署

内國稅徵收費所屬物品取扱順序別冊ノ通相定メ本日ヨリ施行ス但本年一月官第二號ハ同日ヨリ廢止ス

内國稅徵收費所屬物品取扱順序

第一條 物品出納ノ命令ハ直税署ニ於テハ收税長ニ全分署(水戸ヲ除ク)ニ於テハ該分署長ニ之ヲ委任ス

第二條 各直税分署(水戸ヲ除ク)ニ物品會計官吏ヲ置キ該地直間稅分署豫備並需用物品ノ保管及出納ノ事ヲ取扱ハシム

第三條 物品會計官吏物品ノ出納ヲ要スルハ証憑書類ニ據リ之ヲ出納シ各様式ニ倣ヒ其時々帳簿ニ記入スヘシ

第四條 直間稅署及其分署各員執務上通常交付ス可キ第一類物品ハ左ノ品目數量以內トス

- 一 卓子 一名ニ付一個
- 一 椅子 全

一 擔當書類容器 全

一 茶碗 全

一 算盤(水器必要ノ者ニ限ル) 全

一 簿記臺全 全

一 算盤臺全 全

一 官 印全 全

一 權 衡全 一名ニ付二個

一 印版箱全 全

一 肉 池全 全

一 火 鉢全 全

一 火 鉢入トモ 收税署長課長分署長ハ各一個其他ハ二名ニ付一個

右ノ外必要ヲ生シタル物品ハ特ニ之ヲ交付スルコトアル可シ

第五條 各自專用ノ物品ハ其專用者各課又ハ各分署供用ノ物品ハ其課長又ハ分署長保管ノ責ニ任シ課署員中幾部供用ノ物品ハ其共用者中ノ上席者保管ノ責ニ任スヘシ

第六條 凡ソ物品需用ノルハ物品出納命令官ニ請求書(第一號様式)ヲ差出スヘシ

直間稅分署需用ノ物品ハ直稅分署長(水戸ヲ除ク)ニ於テ需用高ヲ見積リ之ヲ請求スルコトヲ得

第七條 概算渡ヲ請スルハ請求書ニ其期限並概算請求ノ旨ヲ明記ス可シ

概算渡ノ物品ニ付テハ其期限滿レハ遺拂精算書(第二號様式)ヲ製シ物品出納命令官ニ差出ス可シ

出納命令官前項ノ精算書ヲ正當ト認ムルトキハ之ヲ物品會計官吏ニ交付シテ帳簿ニ記入セシム
第八條 使用ニ供シタル物品中不用屬セシルハ毎品各別ニ返納書(第三號樣式)ヲ製シ物品出納命令官ニ差出ス可シ

反古紙及紙屑ノ類ハ各課又ハ各分署ニ於テ量目及見積代價ヲ記シタル調書(第四號樣式)ヲ製シ物品出納命令官ニ差出ス可シ

第九條 各管守スル所ノ物品亡失毀損シタルハ其品名數量及事由ヲ証明シテ縣知事ニ届出テ(第五號樣式)認定ヲ受ク可シ但其事實故意怠惰ニ係ルト認ムルハ之レカ辨償ヲ命スルハ勿論トス

第十條 凡ソ物品ヲ送付スルハ物品會計官吏ヨリ送付書(第六號樣式)ヲ發ス可シ
第十一條 凡ソ物品ヲ授受スルハ受取人ヨリ受領証書(第七號樣式)ヲ交付ス可シ

第十二條 物品會計官吏物品受ノ入支出又ハ第一類品ノ供給ヲ要スルハ物品出納命令官ノ命令ヲ受ク執行ス可シ

第十三條 物品出納ノ命令ハ物品出納命令官ニ於テ納付書送付書返納書請求書ノ類ニ納品出納命令官ト朱書シテ認印押捺スルヲ以テ程式ト看做ス

第十四條 物品會計官吏前條ノ命令ヲ執行シタルハ其命令書ニ年月日受入又ハ支出供給ト記入シテ認印ヲ押捺スヘシ

第十五條 貯藏ノ物品ハ鎖鑰アル倉庫又ハ戸棚ノ類ニ藏メ毎品ニ區別シ点檢ニ便ナラシムヘシ

物品貯藏ノ倉庫戸棚等ハ物品會計官吏又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ノ臨場スルニアラザレハ開閉スルコトヲ得ス其鎖鑰ノ鍵ハ物品會計官吏便宜之ヲ保管ス可シ

第十六條 物品會計官吏ノ管理スル帳簿ノ種類並樣式ハ左ノ如シ

第一類 物品出納簿 第八號樣式

第二類 物品出納簿 第九號樣式

第一類 物品各自管守書留簿 第十號樣式

概算渡品書留簿 第十一號樣式

修繕品書留簿 第十二號樣式

第十七條 物品會計物品ハ毎年五月ニ於テ其帳簿ト現品トヲ照合シ其顛末ヲ縣知事ニ具申ス可シ

第十八條 前各條ノ外物品會計規則及内國稅徵收費所屬物品出納規則其他ニ於テ規定セラレタル事項ハ各其規程ニ從フ可シ

第一號樣式 (請求書ノ例)

記

一品名

數量

何々用(自何年何月何日至何年何月何日又ハ何月中需用概算高)
右備減有之度候也

年月日

何署何課(何分署長)(何分署何係)
何々官 氏 名 印

收税長又ハ直税分署長宛以下同シ

備考

一每品各別ニ調製スルモノトス 以下皆同シ
一但書ニハ用途ヲ可成的精密ニ記入スルヲ要ス

第二號様式 (概算渡品遣拂精算ノ例)

自何年何月何日
至何年何月何日 遣拂精算書

品名	摘要	借	貸	残
何々	前期ヨリ繰入高	何程		
全	何年何月何日概算ヲ以受取高	何程		
全	本期遣拂高		何程	
全	後期ハ繰入高		何程	

右精算相違無之候也

何署何課(何々)

年月日

官 氏 名

第三號様式 (返納書ノ例)

記

一品名 数量

右返納候也

年月日

何署何課(何々)

官 氏 名 印

第四號様式

記

一反古紙 何貫何百匁

此見積代價金何程

一紙屑 何貫匁

此見積代價金何程

右之通候也

年月日

何署何課又ハ何分署名印

第五號様式 (証明書ノ例)

証明書

一品名 数量

右ハ年月何所ニ於テ何々ノ際何々(亡失毀損セシ當時ノ事實ヲ詳記スヘシ)ニ相違無之ニ付御認

定相成度候也

年月日

縣知事宛

何署何課(何々)

官

氏

名印

第六號様式 (送付書ノ例)

記

一品名

數量

但何年何月何日何某ヨリ請求ノ分又ハ何々右送付候也

年月日

官氏名宛

何署物品會計官吏

官

氏

名印

第七號様式 (受領証ノ例)

證

一品名

數量

但何々用(自何年何月何日至何年何月何日又ハ何月中概算高)(何々)右正ニ受取候也

年月日

何署何課(何々)

官

氏

名印

官氏名宛

官第八十三號 廿三年五月廿七日

來ル六月一日ヨリ國稅ニ關スル鑑札用品出納ノ義ハ内國稅徵收費所屬物品會計官吏ニ於テ取扱フヘシ

官第廿號 廿二年十一月十二日

内國稅徵收費所屬ノ不用物品賣却方從來收稅部ヨリ縣廳會計主務官(引繼該官ニ於テ賣却スルノ手續ニ候處自今徵收費所屬物品會計官吏ニ於テ賣却ノ手續ヲ爲シ其代金ノ徵收及納入方ハ從來ノ通り縣廳會計主務官ニ於テ取扱フヘシ

○物品出納順序

明治二十七年七月十日 官第廿四十八號

本縣物品出納順序別紙之通改正ス

茨城縣物品出納順序

第一章 物品出納 帳簿

第一條 凡購入轉入及生産ノ物品ハ証憑ニ照合シテ之レヲ受領シ其形質數量價格ヲ帳簿ニ記入スヘシ

第二條 各室名課ヨリ物品ノ請求アルルハ其需用ノ當否ヲ調査シ至當ト認ムルモノニシテ物品出納

規程第六條ニ定メラシムル範圍内ノモノハ物品會計官吏ノ決判其他ハ知事ノ裁決ヲ得テ渡方ヲナシ其時々帳簿ニ記入スヘシ

第三條 物品出納規程第十條ニヨリ消耗品仮渡ノ要求アルトキハ前回渡品ノ殘額ヲ調査シ至當ト認ムルニハ前條ニ準シ渡方ヲナズヘシ

第四條 前條仮渡ノ物品ニ對スル決算書ハ之ヲ精査シ物品會計官吏ノ檢閲ヲ經テ帳簿ヲ更訂スヘシ

第五條 各室各課及其他ヘ交付シタル物品不用又ハ毀損ノ爲メ返納マルトハ返納書及證明書ト照合ノ上物品會計官吏ノ檢閲ヲ經テ之ヲ受領シ直ニ帳簿ニ記入スヘシ

第六條 各種ノ身元保證金トシテ國立銀行預リ證券若クハ公債證書ヲ以テ納付又ハ下戻ノ請求アルトキハ其事由ヲ調査シ各證憑書ト照合ノ上知事ノ裁決ヲ得テ之ヲ受授シ直ニ帳簿ニ記入スヘシ

第七條 稅則違反ニ係ル沒收物品保管證ヲ以テ引繼テ受ケタルトキハ其證憑書ニ依リ直ニ帳簿ニ記入スヘシ

第八條 前各條ノ物品受授ノ際ハ其證書ヲ徵收若クハ交付スヘシ

第九條 拾得品賊贓去品ハ各主任者ノ告ニ依リ其出納ヲ帳簿ニ記入スヘシ

第十條 返納品ノ内毀損ニ係ルモノハ毀損品書留簿ニ記入シ置キ其修繕ヲ得ヘキモノハ修繕ヲ加ヘ他日ノ需用ニ供スヘシ

第十一條 修繕ノ爲メ物品ヲ支出シタルトキハ修繕品書留簿ニ記入シ修繕費領收シタルトキハ全簿及備品出納簿ニ記入スヘシ

第十二條 物出納規程第十三條ノ帳簿ハ左ノ區別ニ依リ記入スヘシ

備品出納簿

本簿ハ備品ノ形質數量價格單價出納年月日保存年限離權ノ事由納人受拂人等ヲ詳記スルモノトス

消耗品出納簿

本簿ハ消耗品ノ品目數量出納ノ年月日價格納人及交付先等ヲ詳記スルモノトス

保管品官沒品拾得品賊贓去品其他ノ出納簿ハ前二項ニ準據スヘシ

第十三條 前條外ニ左ノ補助簿ヲ設クヘシ

備品内譯簿

本簿ハ各所及品目毎ニ口座ヲ設ケ出納ノ都度數量及年月日等ヲ記入スルモノトス

仮渡簿

本簿ハ各所及ヒ品目毎ニ口座ヲ設ケ出納若クハ精算ノ都度其數量及年月日等ヲ記入スルモノトス

毀損亡失品書留簿

本簿ハ毀損亡失ニ大別シ尙品目毎ニ口坐ヲ設ケ數量處分ノ頗末年月日等ヲ記入スルモノトス
修繕書留簿

本簿ハ各品目毎ニ口坐ヲ設ケ授受ノ都度數量及年月日等ヲ記入スルモノトス
賣却品書留簿其他必要ノ補助簿ハ前各項ニ準據スヘシ

第二章 保管ノ責任

第十四條 貯藏ノ物品ハ鎖鑰アス倉庫ニ納入シ每品ニ區画配置シ点檢ニ便ナラシムヘシ

第十五條 前條ノ倉庫ハ毎戶番號ヲ附シ其番号ノ物品入記目錄ヲ備置キ物件ノ出入毎ニ必ス之ヲ訂正スヘシ

第十六條 倉庫ハ物品會計官吏若クハ物品會計官吏ノ委任シタル官吏ノ臨場アルニアラサレハ開閉スルゴトヲ得ヌ其鎖鑰ノ鍵ハ物品會計官吏便宜之ヲ保管ス

第十七條 徵兵署徵兵檢査所及種種檢査所ハ備付ノ物品ハ特ニ郡書記ヲ尋常師範學校中學校貸付スル小銃ハ學校書記ヲ特ニ取扱主任ト定メ之ヲ保管セシム

但徵兵署徵兵檢査所ノ備品ヲ便人宜民ニ保管セシムル場合ハ保管料ヲ給シ而シテ亡失毀損ノ辨償等ヲ契約シ其書面ヲ復スルモノトス

第十八條 物品出納規程第十九條第二十條ノ官吏故意怠惰ニアラスシテ物品ヲ亡失毀損シタルハ

本人ヨリ證明書ヲ差出サシメ毎月之ヲ取纏メ知事ノ檢閱ニ供スヘシ

第十九條 前條ノ場合ニ於テ若シ故意怠惰ニ係ルモノアルハ其顛末ヲ詳細ニ取調ヘ知事ノ裁定ヲ請フヘシ

第三章 計算書

第二條 計算書ハ物品出納規程第二十二條第二十三條ノ期限内ニ調製シ知事ヘ差出シ知事ハ檢査ノ官吏ヲ命ジ之ヲ調査セシメ會計檢査院ヘ送付スルモノトス

第二十一條 前條計算書ニ添付スヘキ証憑ハ毎月各目ニ區分仮綴シ置キ年度經過後之ヲ合綴シ計算書ト照合スルニ便ナラシムヘシ

第四章 不用品 沒收品

第二十二條 不用又ハ毀損シテ修補ヲ加ヘ難キ物品ハ倉庫中別所ニ藏置シ毎年二回及エユ三四回内務部第四課員立會ノ上其調査ヲナシ全ク不用ト認ムルモノハ品目數量ヲ取調物品出納規程第廿四條ノ手續ヲナスヘシ

第二十三條 前條ノ物品賣却ノ手續ヲ了シ物品ヲ拂受人ヘ交付スルハ其受領証書ヲ徴シ第十二條第十三條ノ帳簿ヘ記入スヘシ

第二十四條 第七條ノ汲收品第十七條ノ徵兵署徵兵検査所及ヒ蠶種検査所不用物品ヲ賣却セントス
ルハ其時々部下ノ官吏ニ命令シ賣却所分チナサシムルモノトス
官第五號 二十八年二月十九日官五號 (警)

國庫經濟ニ屬スル物品取扱順序

國庫經濟ニ屬スル物品取扱順序別冊ノ通相定メ本年四月一日ヨリ施行ス
但明治二十二年九月官第七十六號物品取扱規程細則ハ同月ヨリ廢止ス

物品取扱順序

- 第一條 國庫經濟ニ屬スル物品ハ總テ本則ニ據リテ取扱フヘシ
- 第二條 備品ノ供給ハ備品類別表及ヒ備品定數内譯表ニ記載シタル品種及定數ヲ以テ定限リス
前項品種及定數外ノ物品ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳悉シテ認可ヲ請フヘシ
- 第三條 官房及各課ニ於テハ各二名以上警察部及度量衡檢定所ニ於テハ各一名ノ物品取扱主任ヲ置
キ所屬物品出納保管ノ責ニ任セシム
但專用ニ係ルモノハ專任者其保管ノ責ビ任スベシ
- 第四條 知事書記官參事官ノ各室及知事付屬室ヘ備付ノ物品ハ知事官房物品取扱主任其他主擔ヲ定
メサルモノハ内務部第四課物品取扱主任ヲシテ其出納保管ノ責ニ任セシム

第五條 物品取扱主任變更シタルトキハ前任者及ヒ後任者立會ノ上現品ト帳簿ヲ對照シ受渡目錄ヲ
調製シ連署捺印シ之ヲ物品會計官吏ヘ提出スヘシ

第六條 物品取扱主任ハ備品現在簿及備品内譯簿ヲ調製シ備品ノ出納ヲ詳記シ其員數ヘ捺印スヘシ
但備品内譯簿ニ就キテハ專用者其用品ハ共用官房者ヲシテ証印セシムベシ

第七條 備品ノ受入返還又ハ引換等ヲ要スルトキハ其品目個數及事由ヲ明記シタル書面ヲ物品會計
官吏ヘ差出スヘシ

但毀換物品又ハ一個ノ物品ニシテ破片ニ破換シタルモノアルトキハ其全形ヲナスベキ破片ヲ取
纏メ專用者ハ專用者ヨリ(物品取扱主任ヲ經由)其用品ハ物品取扱主任其事由ヲ詳悉シタル証明
書ヲ添付スヘシ

第八條 需用ノ消耗品ヲ受取ラントスルトキハ品物取扱主任ハ其需用者ノ請求書ヲ取纏メ毎月十日
廿五日(休暇日ニ相當スルトキハ其翌日)ノ二回ニ物品會計官吏ヘ差出スヘシ

第九條 消耗品ノ仮渡(一週間若クハ二週間使用ノ數量ニ限ル)ヲ受ケタルモノハ其事故ヲ了リ若ク
ハ消費ヲ了リタルトキ精算書ヲ調製シ物品會計官吏ヘ差出スヘシ

但知事官房往復係ニ於ケル郵便切手ハ毎月十五日末日ノ二回ニ區分シ其他出張攜帶ニ據ルモノ
ニシテ一ヶ月以上ニ渉ルモノハ毎月末ニ於テ精算書ヲ提出スヘシ

- 第十條 物品請求書返納書受渡目録又ハ毀損等ニ關スル証明書ニハ當該課長檢印スヘシ
但課長欠席ノトキハ次席者檢印スヘシ
- 第十一條 毎日配付ヲ受ケタル官報及ヒ新聞ハ各一括トシ毎月末日物品取扱主任ヨリ其受取證書ヲ物品會計官吏ヘ差出スヘシ
- 第十二條 請求品中物品會計官吏ニ於テ不必要又ハ過當ト認ムルモノハ其所用ヲ辨明セシメ又ハ數量ヲ減却セシムルコトアルヘシ
- 第十三條 公務出張ノ爲メ行季靴ヲ借用セントスルトキハ其證書ヲ物品會計官吏ヘ差出シ貸與ノ現品ハ歸廳後三日以内ニ邊納スヘシ
- 第十四條 各部課ヘ交付シタル物品ハ擅ニ貸借スヘカラス若シハ務出張ノ爲メ攜帶ヲ要ムルモノアルトキハ物取扱主任ハ證書ヲ徴シ適宜貸渡簿ヘ登記シ置ヘシ其返納方ハ前條ノ例ニ據ル
- 第十五條 物品保管ノ責任アル官吏故意若シハ怠惰ニヨリ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ之レニ對スル相當代價ヲ辨償セシムヘシ保管ノ責ナキ官吏ト雖モ故意怠惰ニヨリ物品亡失毀損シタルトキハ仍ホ前項ニ據ル
- 第十六條 物品取扱主任ハ毎月月末帳簿ト現品ヲ照合シ翌月三日迄ニ其帳簿ヲ物品會計官吏ヘ差出シ照查ヲ受クヘシ

第十七條 部課ノ度合又ハ吏員轉課等ノ場合ニ於テ擅ニ物品ヲ携用スルヲ許サス必ス納受ノ手續ヲナスヘシ

第十八條 物品ノ員數ハ一ニシテ十廿卅ノ文字ヲ用井ス壹貳拾ノ文字ヲ用フヘシ

第十九條 物品ノ出納ハ退廳一時間前限リトス

但臨時急施ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第二十條 第六條、帳簿第七條第八條第九條ノ物品請求書受取書返納書及精算書ハ別紙様式ニ準據スヘシ

第二十一條 毎年一回又ハ臨時ニ検査ノ官吏ヲ命シ現在ノ物品ヲ検査セシム

第六條ノ様式

備考

各室各所ハ其室所毎ニ口坐ヲ設テ登記スヘシ以下倣之

備品現在簿

(各室)(各所)

(部課)

物品取扱主任

品目	年月日	越	高	受入高	返納高	差引現在高
中形	明治何年何月何日	二〇				二〇
角形	明治何年何月何日	二〇				二〇
卓	明治何年何月何日	二一				二一
		二一				一九

第六條ノ様式

備品専用内譯簿

(各室)(各所)

(庶課)

物品取扱主任

品目	個數	受取事由年月日	返納事由年月日	官氏名
革張(生絹布張)椅子	一	(新拜命)(毀損引換)等ニ付何年月何日	他官廳へ轉任又ハ(毀損)ニ付何年月何日返納	專用者證印
抽斗付柵付(並)卓	一	何月何日		專用者證印
文庫	一			專用者證印

何々々々

(第六條ノ様式)

備品共用内譯簿

(各室)(各所)

(部課)

物品取扱主任

品目	年月日	受入高	拂出高	現在高	事由
----	-----	-----	-----	-----	----

第七條第八條ノ様式

第四課長 物品會計官吏 検査掛 會計係 主任

備考

備品ヲ受入又ハ消耗品ヲ各自ニ受取ラシムルトキハ使用ノ目的ヲ詳記シ本書式 據ルモノトス 一生絹布張椅子何脚

但何所備品共用又ハ専用等何々
右御渡相成度候也

(部課)

(物品取扱主任)

(受取人) 官 氏 名

明治何年何月何日
内務部第四課御中

第七條第八條ノ様式

備考

備品ヲ受入又ハ消耗品ヲ各自ニ受取ルトキハ本書式ニ據ルモノトス
但備品類物品取扱主任者ニ於テ備品現在品ト割印スルモノトス
消耗品ニ用ユルトキハ使用ノ目的ヲ詳記スヘシ

印刷

一生絹布張椅子何脚

但何所備付共用又ハ専用等何々

右正ニ受取候也

(部課)

(物品取扱主任)

受取人 官 氏 名 印

明治何年何月何日
内務部第四課御中

第八條ノ様式

第四課長

物品會計官吏

検査掛

會計掛

主任

備考

消耗品ヲ連名ニテ受取ラントスルトキハ本書式ニ據ルモノトス

(部課) 官 氏 名 外 何 名

一 延紙野紙何帖

但事由

右御渡相成度候也

(部課)

官 氏 名

明治何年何月何日
内務部第四課御中

第八條ノ様式

備考

消耗品ヲ連名ニテ受取ルルハ本書式ニ依ルモノトス但常用外ニ係ルモノハ各自ノ受取証トス

証

一 延紙野紙何帖

但事由

内務

- 第三條 物品取扱主任者ヲ定メタル時若クハ變更シタル時ハ其都度官氏名ヲ本廳ヘ報告スヘシ
- 第四條 物品取扱主任者更迭ノ時ハ受渡目録ヲ製シ共ニ署名捺印シ之ヲ知事ヘ差納スヘシ
- 第五條 物品以內毀損ニ係リ修補ヲ要スルモノアルトキハ修繕代價見積書ヲ徴シ毀損ノ事由ヲ詳悉シタル証明書ヲ添ヘ物品取扱主任者ヨリ内務部第四課ヘ照會スヘシ
- 第六條 破損其他ノ事故ニヨリ物品ノ受入ヲ要スルトキハ第一號書式ニヨリ内務部第四課ヘ請求シノ現品ヲ受入タルトキハ第二號式領收證書ヲ差出スヘシ
- 但徴兵署若クハ検査所々在地ニ於テ購買シ得ラル、物品ニ對シテハ當業者ヨリ代價見積書ヲ徴添付スヘシ
- 第七條 徴兵署若クハ検査所々在地ニテ購入セシ物品ヲ受入タルトキハ領收證書ト共ニ第三號式報告書ヲ内務部第四課ヘ差出スヘシ
- 第八條 物品ヲ出納シタルトキハ其元帳ニ品目個數事由ヲ登記シ之ニ捺印スヘシ
- 第九條 郡役所内ニ貯藏スヘキ倉庫ナキカ又ハ遠隔ノ地ニアル物品ハ其所在ノ人民ニ保管セシメ物品取扱主任者ハ第四號式ニヨリ契約ヲ締結シ其擔本ヲ本廳ヘ回付スヘシ
- 第十條 毀損品ノ内修補ヲ加ヘ難キ物品ハ証明書及買受望人ニ各以上ヨリ見積書ヲ徴シ物品取扱主任者ヨリ内務部第四課ヘ照會スヘシ

- 第十一條 物品保管ノ責アル吏員故意若クハ怠惰ニヨリ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ相當ノ代價ヲ辨償セシムヘシ
 - 第十二條 直接ニ保管ノ責ナキモノト雖モ故意若クハ怠惰ニヨリ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ仍ホ前條ニ據ルヘシ
 - 第十三條 郡長ハ毎年三月三十一日ノ現在品ヲ検査シ第五號式ノ保證書ヲ差出スヘシ
 - 第十四條 物品ハ毎年一回以上検査官吏ヲ命ジ之ヲ検査セシム
- 第一號式
- 記
- 一品目 個數
- 但何徴兵署(何徴兵検査所)備品
- 右御渡有之度及請求候也
- 年月日
- 物品會計官吏宛
- 徴兵署物品取扱主任
- 何郡書記 氏 名 印
- 第二號式
- 證
- 一品目 個數

但何徵兵器(何徵兵検査所)備品
右正ニ受取候也

年月日

物品會計官吏宛

徵兵器物品取扱主任

何郡書記 氏

名

印

第三號式

物品受入報告書

郡町村

(買上人) 氏

名

一品目

代金若干

一個金若干

個數

但何徵兵器(何徵兵検査所)備品
右購買ニ付受入相成度及報告候也

年月日

物品會計官吏宛

徵兵器物品取扱主任

何郡書記 氏

名

印

第四號式

契約書

明治何年何月何日何郡書記氏名ト何國何郡町村大字氏名トノ間ニ於テ徵兵検査用物品保管ノ結約
左ノ如シ

- 一 物品ハ別紙保管證書ニ記載スル所ノ若干種ニシテ鄭重之ヲ保管貯藏スヘシ
- 一 物品ハ契約者ヨリ報告アルニアラサレハ之ヲ出納スルコトヲ得ス
- 一 物品保管中ハ保険料トシテ一ケ年金若干ヲ仕拂ヘシ
- 一 物品保管中破損又ハ亡失シタルトキハ保管者ニ於テ相當ノ代價ヲ賠償スヘシ
但天災又ハ不時ノ事變ニ係リタルトキハ臨機ノ處分ヲナスコトアルヘシ
- 一 徵兵器開設中使用ノ物品ニシテ破損又ハ亡失シタルトキハ保管者ハ其責ナキモノトス

年月日

徵兵器物品取扱主任

何郡書記 氏

名

印

國郡町村大字番地

氏 名

印

物品保管證

一品目

個數

一同
一同

同同

(品目限リ列記スヘシ)

右之通保管致置候也

國郡町村大字番地

氏 名

印

年月日

第五号式

保證書

一 品目

個 數

以下列記

但何徵器用品

一 品目

個 數

但何徵兵検査所備品

右明治何年三月三十日ノ現在品書面ノ通相違無之候也

明治何年何月日

知事 宛

部長 氏

名

印

○物品出納規程

明治二十七年八月廿七 全 日

日訓令乙三三八号 官六二号

郡役所 尋常師範學校 尋常中學校

物品出納規程別冊之通相定メ廿七年十月一日ヨリ施行ス

物品出納規程

第一條 本規程ニ於テ物品ト稱スルハ地方費ニ屬スル器具器械書籍備品消耗品其他一切ノ動産ヲ云

ヒ之ヲ大別シテ備品消耗品ノ二種トス但シ備品消耗品ノ區別ハ従前ノ例ニ據ルヘシ

第二條 物品ノ出納ハ一般會計年度ニ據リテ區分シ現ニ物品ヲ出納シタル日ヲ以テ年度所屬ヲ區分

スヘシ

第三條 本規程ニ於テ所長ト稱スルハ内務部長警察部長郡長監獄署長尋常中學校長及尋常師範學校長ヲ云フ

第四條 物品ノ出納ハ證憑書類ニ對照シ所長ノ命令ニ據リ之ヲ執行スヘシ

第五條 共用物品ヲ取扱ハシムル爲メ物品取扱主任ヲ置シ其任免ハ所長專行スヘシ

第六條 物品ノ購入ハ豫算ノ目的ニ定メタルモノハ所長之ヲ專行シ臨時必需ノ物品ハ所長ニ於テ知事ノ許可ヲ請フヘシ但別段ノ規定アルモノハ此限ニアラス

第七條 物品ハ知事ノ許可ヲ得スシテ之ヲ賣却シ又ハ棄却スルコトヲ得ス但別段ノ規定アルモノハ此限ニアラス

第八條 物品ノ賣買ハ總テ公告シテ競争ニ附スヘシ若シ競争ニ附シ難キ場合ニ於テハ其時々知事ノ許可ヲ經ヘシ但價格ノ僅少ナル物品ニ對シハテ細則ヲ以テ一定ノ標準ヲ設ケ隨意契約ノ方法ニ據リ執行スルコトヲ得(明治二十八年三月十五日訓令乙第八七號刪除)

第九條 物品ヲ交付スルトキ其共用ニ係ルモノハ物品取扱主任ヨリ各自專用ニ係ルモノハ各自ヨリ証憑ヲ徴スヘシ

第十條 消耗品ノ内共用ニ屬スル薪炭油ノ如キ日常支消スル物品ハ一乃至ニ週間ノ需用概算高ヲ以

テ仮渡ヲ爲スヲ得

第十一條 使用ノ物品不用ニ属シタルハ其返納書ヲ添へ速ニ還納セシムヘシ

第十二條 修繕其他ノ事故ニ依リ使用物品ノ引換ヲ要スル如キ場合ニ於テハ其事由ヲ詳記セル返納書ヲ添へ之ヲ還納セシムヘシ

第十三條 物品出納整理ノ爲メ左ノ帳簿ヲ備へ出納ノ時々記帳スヘシ

備品出納簿

消耗品出納簿

第十四條 前條帳簿ノ外補助簿ヲ設クルハ便宜ニ任ス

第十五條 貯藏ノ物品ハ品種數量ヲ明瞭ニシ鎖鑰アル容器又ハ倉庫ニ格護スヘシ

第十六條 貯藏物品ハ所長ニ於テ共用物品ハ物品取扱主任ニ於テ各自専用物品ハ各自ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第十七條 所長ハ共用若クハ専用ノ爲品交付シタル物品ト雖モ其取締上ニ關シテハ總テ監督ノ任アルモノトス

第十八條 物品保管ノ責アル官吏該物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其保管上避ケ得ヘカテサリシ事實ヲ証明シ知事ノ認可ヲ經ルニテラスノハ辨償ノ責ヲ免ル、ヲ得ス

第十九條 所長交替ノ際ハ特ニ命ザル検査員立會ノ上目録ト現在品ノ照合ヲナサシメ其調書ヲ作リテ事務ヲ引繼ヲナスヘシ

第二十條 所長ハ毎年一回以上現在物品ノ検査ヲ執行スヘシ但物品取扱主任交代ノ際ニ於テハ其都度本條ノ検査ヲ執行スヘシ

第二十一條 所長ハ一周年度ノ物品出納計算簿ヲ製シ毎年六月三十日迄ニ本廳ニ提出スヘシ但出納ニ關スル證憑書類ヲ徴スルコトアルヘシ

第二十二條 本規程ニ關スル細則ハ所長ニ於テ規定シ知事ノ認可ヲ請フヘシ

第二十三條 本規程ニ於ケル所長ノ職務及職權ノ一部若クハ全部ハ警察部長ニ於テハ署長又ハ分署長ニ監獄署長ニ於テハ支署長ニ委託スルコトヲ得

但本條ノ委任ハ知事ノ認可ヲ經ルヲ要ス

第二十四條 前條ニ依リ委任ヲ受タル署長其職務ヲ執行スルニ方リ知事ノ認許ヲ要スル場合ニ於テハ警察部長又ハ監獄署長ヲ經由スヘシ

○物品出納簿同計算書様式

明治二十七年九月五

日訓令乙第三五一號

本年八月本縣訓令乙三三八號物品出納規程第十三條出納簿及第廿一條物品出納計算簿様式別紙ノ通相定ム

(別紙零ス)

○警察署保管物品取扱規程

明治二十六年七月十七日官第四十二號

内務部 警察部 警察署 警察分署

明治二十四年九月官第八十二號達物品取扱規程別冊之通り改正本年九月一日ヨリ施行ス

警察署保管物品取扱規程

- 第一條 警察署同分署ニ於テ保管スル物品ハ署長之ヲ保管スヘシ
- 第二條 保管ノ物品ハ衣類雜品ノ二科目ニ區分シ其數量ハ点数ヲ以テ整スヘシ
- 第三條 物品ノ出納ハ第一號式ノ出納簿ヲ製シ品目点数價格其ノ他ヲ詳記シ出納毎ニ署長之ニ捺印スヘシ但犯罪ノ證據品トシテ出納スルモノハ別簿ヲ以テスルモ妨ケナシ
- 第四條 前條出納簿ノ外補助簿ヲ設ケ之レニ品目個數價格受渡年月日人名及事由ヲ登記スヘシ但領置品等帳ヲ以テ補助簿ニ兼用スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二號式ノ如ク領置品等帳ニ每品目点数價格ヲ詳記シ衣類雜品價格ノ合計ヲ付スヘシ
- 第五條 物品ヲ他ノ官署ニ送付シタルトキハ其領收證書ヲ徴シ普通下渡品ニ對シテハ第三號式ニ依リ署長之ヲ証明スヘシ
- 第六條 保品ノ物品賣却スヘキ事故ノ生シタルトキハ隨意契約ヲ以テ第四號式ノ見積及第五號式ノ

明細表ヲ添ヘ經向ノ上處分ス可シ

- 第七條 前條物品見積價格一處十圓以内ノモノハ署長限り直ニ賣却スルコトヲ得
 - 第八條 物品賣却ノ處分ヲ了シ代金收入簿ノ上現品ヲ買受人ニ交付シタルトキハ其領收證書ヲ徴スヘシ
 - 第九條 物品下渡ニ際シ下渡ヲ望マス官沒ヲ請フモノアルトキハ其書面ヲ徴スヘシ
 - 第十條 物品ノ價格ナク買受人ナキモノ又ハ賣却スヘカラサル物品ハ燒却若クハ廢棄ノ處分ヲナスヘシ
 - 第十一條 署長交代ノトキハ保管ノ物品ヲ出納簿ニ照合受渡ヲナシ而シテ出納簿ニ其年月日等ヲ詳記シ前任者後任者共ニ證明スヘシ
 - 第十二條 前條受渡ヲ了シタルトキハ五日以内ニ第六號式ニヨリ後任者ヨリ報告スヘシ
 - 第十三條 毎月出納シタル物品ハ第四條出納簿ノ結果ヲ第七號式ニ據リ翌月五日限り報告スヘシ但一ヶ月内ニ於テ出納ナキトキハ其旨本條期限ニ報告スルモノトス
- 本條報告書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
- 一 第五條ノ領收證書并ニ證明書
 - 一 第七條ニ依リ賣却セシ物品ニ對スル買受見積書并ニ現品請取證書

第十四條 本規程ニ於テ衣類ト稱スルハ左ノ如シ

單衣 袴 綿入 羽織 半天 靴下 法被 襦袢 シヤツ 胴着 帷子 合羽 洋服 股引
脚半 袴 足袋 前掛 頭巾 帶 褌 法衣 手袋 手指 腹掛

第十五條 毎年三月三十一日ノ現在品ハ第八號式ニヨリ保證書ヲ製シ翌月五日マテニ差出スヘシ
第十六條 怠慢ニ依リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ其代價ヲ辨償セシム

第一號式出納簿

衣類之部

年月日	領置番號	領置點數	價格	下渡及拂出點數	價格	殘點數	價格	事由
明治何年何月何日ヨリ越高		五〇、五〇〇						署長檢印以下同
年月日	何號	一〇、一〇〇						何郡何町村某拾得届出ノ分受入
年月日	同			一〇、一〇〇				證據物トシテ何裁判所へ回付ノ分拂出
年月日	同			一〇、一〇〇				何郡何町村某へ給與ノ分拂出
計								署長交迭ニ付年月日現品ヲ受授ス〇〇後任者印 前任者印

備考

- 一 雜品ノ部ハ口取ヲナシ鋼製スルモノトス
- 二 領置番號ハ領置簿へ登記シタル番號ト符合スル爲メニス

第二號式

物	品	價格
皮茶色財布一個	一點	價格
早付木三箱十本	四點	價格
足袋片足	一點	價格
何々單衣二枚	二點	價格
合計何個	雜品	價格
	五點	價格

第三號式

明治何年何月拾得品(賊拾置品)下渡證明書	事由
----------------------	----

衣類 幾點 何郡何町村拾得者某へ給與ス

雜品 幾點 同物主某へ下戻ス

右ハ明治何年何月中領置品管帳へ調印セシメ拾得品(賊拾置品)下渡書面之通相違無之候也

年月日

備考

何警察署長官 氏名印

一賣却ノ指令ヲ得處分シタル物品ニ對シテハ證明ヲ要セス

第四號式

見積書

一品目

何個 (品目ハ現品目ヲ記載スルモノトス)

代金若干

但一個金何程

一同

同

代金

右代價ヲ以テ買受可申候也

年月日

住所

氏名印

何警察署御中

第五號式

官沒品明細表

品目	數量	點數	單價	小計
----	----	----	----	----

右之通有之候也

年月日

何警察署長官 氏名印

備考

一品目ハ現品目ヲ記入スルモノトス

二單價ハ當初受入ノ際見積タル一点ノ價格ヲ記入スルモノトス

三賦置去品ト拾得品トヲ區別シ明記スヘシ

(明治廿七年八月訓令
乙三三四號改正)

遺失物品明治何年何月中出納計算報告

品目	稱呼	何年何月 ヨリ越高	代價	受入高	代價	下渡高	代價	賣却高	代價	何年何月 ヨリ越高	代價
----	----	--------------	----	-----	----	-----	----	-----	----	--------------	----

衣類 点

雜品 点

備考 (例)

明治何年何月ヨリ何月ニ至ル拾得品領置期限ヲ經過シ物主無之ニヨリ官沒シタル何々物何個何々
品何個隨意契約ツ以テ賣却ノ手續ヲナシタルニ見積價格一品十錢以内ナルヲ以テ規程第七條ニヨ
リ其處分ヲナシタルモノ
右及報告候也

何警察署長

年月日 物品會計官吏宛

官 氏 名 印

備考

一 贓物等品ノ出納報告ハ本表ニ準シ調製スルモノトス
一 裁判所其他ニ送付シタル第品又ハ規程第七條第十條若シクハ遺失品取扱手續第九條第二項遺失
物取扱規則第七條ニ依リ處分シタル物品アルトキハ各相當ノ欄ヲ設ケ揭示シテ備考ニ其事由
ヲ登記スルモノトス

第十號式

保證書

一 衣服類

何 點

一 雜品

何 點

但拾得品保管ノ分

一 衣服類

何 點

一 雜品

何 點

但贓物去品保管ノ分

右ハ明治何年三月三十一日ノ現在書面之通ニ相違無之候也

年 月 日 知事 宛

何警察署長 官 氏 名 印

監獄署領置品出納順序

明治二十七年三月十四日 同月十五日官

日副令乙第一四三號 第二十二號

監獄署領置品出納順序別紙ノ通知定メ本年五月一日ヨリ施行ス

但明治二十六年十月官第五十二號監獄署保管物品取扱規程ハ同日ヨリ廢止ス

監獄署領置品出納順序

第一條 監獄署又ハ監獄支署ニ於テ領置スル在監人所持品ハ監獄署又ハ監獄支署物品會計官吏之ヲ

保管スヘシ

第二條 領置品ハ衣服類雜品ノ二科目ニ區分シ點數ヲ以テ整理スヘシ

第三條 領置衣服類ト稱スルモノハ左ノ如シ

- 單衣 袴 綿入 羽織 半天 襦袢 シヤツ 胴着 帷子 合羽 洋服 靴下 法被 股引
- 脚半 袴 足袋 前掛 頭巾 帶 揮 手衣 祭服 手袋 手指 腹掛

第四條 領置品ノ出納ハ證憑書類ニ對照シ署長ノ判決ヲ經テ執行スヘシ

第五條 領置品ノ出納ハ別紙様式ノ出納簿ニ記帳スヘシ

第六條 領置品ハ各別ニ番號ヲ付シ鎖鑰アル倉庫ニ格納スヘシ

第七條 前條倉庫ノ鍵ハ物品會計官吏之ヲ保管スヘシ

第八條 外役所へ送致スル物品ハ該所監督ノ官吏ニ保管セシメ其取締上ニ關シテハ物品會計官吏監

督ノ任アルモノトス

第九條 外役所監督ノ官吏ハ適宜ノ帳簿ヲ設ケ該所ト監獄署又ハ支署間ニ於ケル物品ノ支拂ヲ登記スヘシ

第十條 物品保管ノ責アル官吏其故意怠惰ニヨリ該物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償責ニ任スヘシ

第十一條 物品保管ノ責アル官吏故意怠惰ニアラスシテ之ヲ亡失毀損シタルトキハ其証明書ヲ添ヘ知事ノ裁決ヲ請フヘシ

第十二條 物品會計規則第十五條第一項ノ計算書ハ會計検査院ニ於テ定メタル程式ニ據リ年度後三ヶ月以内ニ調製シ証憑書類ヲ添ヘ之ヲ本廳ニ提出スヘシ

同條第二項ノ計算書及証憑書ハ事故ノ生シタルトキヨリ一ヶ月以内ニ差出スヘシ

第十三條 物品會計規則第十五條第一項ノ計算書ニ添付スヘキ証憑書類ハ毎日之ヲ整理シ計算書ノ對照ニ便ナラシムヘシ

第十四條 監獄則第二十四條ニ依リ物品ヲ處分スルモ知事ノ裁決ヲ請フヘシ

第十五條 物品賣却ノ手續ヲ經テ現品ノ買受人ニ交付スルトキハ其領收證書ヲ徴スヘシ

第十六條 本順序ニ關スル出納細則ハ監獄署ニ於テ規定シ知事ノ認可ヲ請フヘシ

○生徒兵式体操小銃付属品取扱心得 明治二十六年十二月六日官七十二号

内務部 尋常師範學校 尋常中學校

生徒兵式体操用小銃及付属品取扱心得別紙之通相定ム

(別紙)

小銃及付属品取扱心得

第一條 尋常師範學校尋常中學校生徒兵式体操用ノ爲メ交付シ置ク小銃及付属品ハ校長之レヲ監督シ書記ヲシテ保管ノ責ニ任セシム

第二條 前條保管任主者ヲ定メタルトキ若クハ變更シタルトキハ其都度官氏名ヲ本廳ヘ報告スヘシ

第三條 保管主任者更迭ノトキハ其保管ノ現品ヲ察帳ニ照合受渡ヲナシ前任者後任者共ニ捺印スヘシ

第四條 小銃及付属品ハ察帳ヲ設ケ目限個數及交付ノ年月日等ヲ登記スヘシ

第五條 小銃及付属品ハ學校ノ經費ヲ以テ其修繕ヲナスヘシ

第六條 保管ノ懈怠ニ依リ現品ヲ亡失毀損シタルトキハ相當ノ代價ヲ辨償セシム

○地方稅經濟文具ノ件 明治二十四年五月廿 全月廿三日官 各部署郡 六日副令第四十七號 第五十五號 師範中學

地方稅經濟ニ屬スル左ノ文具ハ特別事務上必要ト認ムルトキハ共用トシテ備置隨時使用セシムルコトヲ得

- 保存品
- 一文鏡
 - 一ヨシバ
 - 一鳥口
 - 一定才
 - 一尺度
 - 一筆
 - 一鉛筆
 - 一ペン先
 - 一墨
 - 一イソキ
- 製圖用特種ノモノ
- 全上
 - 全上
 - 全上
- 製圖用特種ノモノ及復寫版用
- 製圖上特種ノモノ
 - 全上
 - 全上
- 製圖用特種ノモノ又ハ標本等大文字認メ用ノ類
- 製圖上特種ノモノ
 - 全上
 - 全上
- 製圖上特種ノモノ及復寫版用
- 全上
 - 全上

○地方税經濟ニ属スル不動産調表様式

明治二十八年二月四日訓令乙第三十號

地方税經濟ニ属スル不動産調表様式別紙之通り相定候條明治廿七年度以降本表ニヨリ調製シ毎年四月十五日限リ報告スヘシ

但土地建物(平家階家等ヲ明記ス)ハ明治廿七年度ニ限り廿八年三月三十一日現在明細圖ヲ製シ本表ニ添付シ爾後異動ヲ生シタルトキハ其時々異動ニ係ル圖面ヲ提出スヘシ

廿一年四月縣令號外及廿五年三月縣令號外地方税經濟ニ属スル財産調表ノ件自今廢止ス

明治何年度 何年三月三十一日現在 地方税不動産調表

區別	受之部		拂之部		差引殘
	買上計	賣却計	棄却計	計	
土地	坪數或反別格	前年度 坪數或反別格			
建物	坪數				
建物	價數				
器具	價數				
樹木	價數				
合計	價數	格量			

備考

- 一 本表類別ニ入ラサルモノハ適宜欄ヲ設ケ掲載スヘシ
- 一 本表價格ノ欄ハ原價ヲ掲載スヘシ
- 一 人民ヨリ寄付シタルモノアルトキハ買上ノ下ヘ寄付ノ區ヲ設ケ價格ノ欄ハ時價見込額(原價明瞭ナルモノハ其原價)ヲ掲クヘシ
- 一 四賣却棄却ノ物品ハ備考ヲ以テ品目及理由ヲ明記スヘシ

○巡查被服器具支給順序

明治二十一年九月廿四日官第七十九號

(警)

巡查被服器具支給順序別紙之通改正來ル十月一日ヨリ施行ス
但施行前渡付タル物品ノ保存期限ハ従前之達ニ據ル

巡查被服器具支給順序

第一條 被服支給期月及其保存期限ヲ定ル左ノ如シ

品目	支給期月	保存期限	員數
日履	毎年六月	一ヶ月	一枚
夏服上下	毎年六月	一ヶ月	二組
冬服上下	毎年十月	一ヶ月	一組
雨覆	隔年十月	二ヶ月	一枚
外套	隔年十月	二ヶ月	一枚
肩掛	隔年十月	三ヶ月	一枚(明治廿二年二月官)
帽子	毎年十月	一ヶ月	一個
靴	毎年四月十月	一ヶ月	二足
肌着	毎年四月十月	六ヶ月	一組
手袋	毎年四月十月	六ヶ月	二双
短靴	毎年四月十月	六ヶ月	一足
長靴	毎年十月	一ヶ月	一足

第二條 支給スル被服屬長靴短靴及肌着股引手袋靴下ハ別表ニ照シ代金ヲ其他ハ現品ヲ以テ支給ス

第三條 手帖捕繩常章帽子提灯胴締劍ハ用ニ堪ヘサルヲ待テ換與ス

第四條 支給物品破損スト雖モ職ニ關シ職務ニ關シ事狀已ムヲ得サルモノハ檢査ニ上換與スルコトヲ得

第五條 第一條ノ物品ニシテ保存期限ヲ經過シタルモノハ本人ニ付與スルコトヲ得

第六條 支給物品保存期限ヲ經過セサル中轉死死亡シタルモノハ總テ現品ヲ返納セシム其代價ヲ以テ支給シタルモノハ別表ニ照シ其殘額ヲ返納セシム但末月ハ端日數ト雖モ還納セシムルニ及ハス
第七條 第一條ノ支給期月後ニ拜命セシモノ又ハ交換スヘキモノアルトキハ其期節迄現品還納ノ分ハ還納品ヲ代價還納ノ分ハ別表ニ照シ相當代價ヲ支給ス

被服屬其代價並還納表

品目	長靴	短靴	肌着	股引	手袋
支給還納期月	初月支給	二月日支給	初月日還納	二月日支給	初月日還納
支給還納代價	二圓	一圓	五十錢	十二錢	十錢
支給還納代價	一圓八十三錢四厘八十三錢四厘	四十一錢七厘			

三月目支給二月目還納	一圓六十六錢七厘六十六錢九厘	三十三錢三厘	八錢
四月目支給三月目還納	一圓五十錢	五十錢三厘	二十五錢
五月目支給四月目還納	一圓三十三錢三厘三十三錢二厘	十六錢六厘	四錢
六月目支給五月目還納	一圓十六錢六厘	十六錢六厘	二錢
七月目支給六月目還納	九十九錢九厘	八錢三厘	
八月目支給七月目還納	八十三錢二厘		
九月目支給八月目還納	六十六錢五厘		
十月目支給九月目還納	四十九錢八厘		
十一月目支給十月目還納	三十三錢二厘		
十二月目支給十一月目還納	十六錢六厘		

○巡查轉免ノ者被服屬具返納期限

明治十四年一月十七日日本乙六號

(警)

巡查轉免ノ者被服屬具本人ヨリハ三日以内ニ還納爲致本署ハ五日以内ニ必ス送付可致此段相達候也

○巡查夏服着期限

明治廿五年五月十三日官第三十號

(警)

巡查夏服着期限自今六月一日ヨリ九月三十日マテト改正ス

○看守(押丁)被服屬具支給規則

明治廿六年一月十七日官第三號

(監)

看守(押丁)被服屬具支給規則更ニ別冊之通相定ム

但本文ニ概觸スル達ハ総テ廢止ス

看守(押丁)被服屬具支給規則

第一條 看守(押丁)ニ給與スル被服屬具ハ左表ニ依リ現品又ハ代金ヲ以テ支給ス

看守	冬服	夏服	帽雨覆	長靴	短靴
押丁	冬服	夏服	帽日覆	靴	手袋
	帽雨覆	帽日覆	雨衣	草鞋	(明治廿八年三月七日官第九號追加)

第二條 看守(押丁)ニ貸與スル物品ハ左表ノ如シ

但シ本條ノ物品ハ實際使用ニ堪ヘサルニ至ラサレハ引換テ許サス

看守	劍	ザンサヨロン	劔總	提灯	呼子笛	縛繩
押丁	手帖	勤務心得	呼子笛	手帖	勤務心得	

第三條 看守(押丁)ニ給與スル被服屬具ニシテ左ノ期限ヲ經過シタルモノハ之ヲ本人ニ付與スル事

ヲ得

保存期限

看守 冬服一組夏服二組一年 帽子一ケ一年 帽日覆一枚一年 帽雨覆一枚二年
 外套一枚二年 長靴一足一年 短靴一足六ヶ月 肌着二組六ヶ月 靴下
 一足半ヶ月 手袋一組六ヶ月(明治廿八年三月七日官第九號追加)
 押丁 冬服一組夏服一組一年 帽子一個一年 帽日覆一枚一年 帽雨覆一枚一年
 雨衣一枚二年

第四條 保存期限ハ其物品現ニ渡シタル月ヨリ起算ス

第五條 給與品及貸與品ヲ亡失若シクハ破損シタルモノ職務執行上相當ノ事由アリト認メタルトキハ更ニ給與又ハ貸與スヘシト雖モ其原因自己ノ不注意ニ出ルモノハ代價ヲ辨償セシム

第六條 給與ノ物品ハ保存期限ヲ經過シ更ニ給與ノキト雖モ欠勤中及ビ轉免死亡ノモノヘハ給與セ

第七條 保存期限經過セザル中轉免死亡ノモノハ總テ現品ヲ還納セシム其代金ヲ以テ給與シタル物品ハ給與品價還納表ニ照シ殘金ヲ還納セシムヘシ

第八條 前條給與品及貸與品ノ還納日限ハ總テ五日以内トス

第九條 保存期限滿ツキトキハ其本人ヨリ請求書ヲ指出サシメ主務者ハ其物品並ニ下渡月日ヲ帳簿

ニ登載シ請求人ヲシテ一品毎ニ認印ニ捺サシメ現品ヲ渡スヘシ

第十條 被服着用期限前三十日内ニ拜命ノ者ハ一時還納品ヲ貸與シ置キ交付期節ニ至リ新調品ヲ換與ス

第十一條 第五條ニ依リ臨時給與品ノ引換又ハ新ニ拜命シタルモノニ對シテハ外套雨衣帽子ハ時機ニヨリ還納品ヲ以テ適宜保存期限ヲ定メ給與スルコトアルヘシ

第十二條 靴下草鞋代ハ十五日前ニ拜命ノモノハ全額十五日後ニ拜命ノモノハ半額ヲ給ス但轉免モ本文ノ區分ニ準ス

第十三條 靴下代並ニ草鞋代ハ俸給渡日ヲ以テ支給ス

給與品價還納金割合表

一長靴 一足

看守

此定價金二圓 但シ解職ノ者ハ左ノ割合ヲ以テ還納スヘシ十二月ハ還納ニ及バズ

渡シ月	金一圓八十三錢四厘	二ケ月	金一圓六十六錢七厘
三ケ月	金一圓五十錢	四ケ月	金一圓三十三錢三厘
五ケ月	金一圓十六錢六厘	六ケ月	金九十九錢九厘
七ケ月	金八十三錢二厘	八ケ月	金六十六錢五厘

九ヶ月 金四十九錢八厘
十一月 金十六錢六厘

十月 三十三錢二厘

一短靴 一足

看守

此定價金一圓 但シ解職ノ者ハ左ノ割合ニテ還納スヘシ六ヶ月ハ還納ニ及バズ

渡シ月 金八十三錢三厘

二月 金六十六錢七厘

三ヶ月 金五十錢

四月 金三十三錢三厘

五ヶ月 金十六錢七厘

一肌着 一足

看守

此定價金五十錢 但シ同上

渡シ月 金四十一錢七厘

二月 金三十三錢三厘

三ヶ月 金二十五錢

四月 金十六錢七厘

五ヶ月 金八錢三厘

一靴下 二足一ヶ月分

看守

此定價金十一錢 但シ一足金五錢五厘

一手袋 一組

此定價金十二錢 但シ解職ノ者ハ左ノ割合ヲ以テ還納スヘシ六ヶ月ハ還納ニ及ハズ

渡シ月 金十錢

二月 金八錢

三ヶ月 金六錢

四月 金四錢

五ヶ月 金二錢

○看守被服着用期限

明治二十六年二月十日官第九號 (監)

看守(押丁)被服着用期限ニ左ノ通相定ム

但明治十四年六月廿一日日本乙第六十九號達ハ廢止ス

看守 押丁 被服着用期限

一冬服ハ十月一日ヨリ五月三十一日迄夏服ハ六月一日ヨリ九月三十日迄トス

一看守外套ハ寒防ノ爲メ十一月十五日ヨリ四月三十日迄ハ職務上着用ヲ許ス

○小使被服貸與及保存規程

明治廿八年二月十二日官第四號

(監)

第一條 被服貸與及保存期限ヲ定ムル左ノ如シ

但期間レハ給與スルモノトス

品目	貸與期月	保存期限	員數
夏法被股引	每年六月	一ヶ月	一組
冬法被股引	每年十月	一ヶ月	一組

第二條 期限中辭職解職又ハ死亡シタルモノハ其被服ヲ還納セシムルモノトス
 第三條 期限中ト雖モ非常ノ場合ニ際シ職務ノ爲破損シタルトキハ更ニ貸與スルコトヲ得
 ○雇員俸給支給規則 明治二十六年一月 二十七日官第四號
 備員俸給支給規則別紙之通改正ス

明治廿六年一月廿七日

英城縣知事 牧野伸顯

(別紙)

備員俸給支給規則

第一條 月給ハ毎月廿一日日給ハ毎月末日ニ支給スルモノトス
 但休日ニ當ルトキハ繰下トス (明治廿六年三月二十
 二日官第十三號改正)
 第二條 日給ハ総テ出務日數ニヨリ支給スルモノトス
 第三條 新ニ雇入シタル者及増俸減俸トモ總テ令發ノ翌日ヨリ計算スルモノトス
 第四條 解雇又ハ死亡ノトキハ當月分ノ俸給金額ヲ支給スルモノトス
 第五條 他職ニ轉シタルモノハ第一條ノ支給日ニ拘ハラズ日割計算ヲ以テ發令ノ當日マテニ係ル俸
 給ヲ支給スルモノトス
 第六條 病氣ノ爲メ職務セサルコト六十日ヲ踰ユルモノ及私事ノ故障ニヨリ職務セサルコト三十日

ヲ踰ユルモノハ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲傷疾ヲ受ク若クハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クルモノ
 ハ此限リニアラス減給ノ者解雇又ハ死亡ノトキハ其減給ニ係ル當月分ノ全額ヲ支給ス
 第七條 傷疾忌引ノ場合ハ病氣若クハ私事ノ故障ト連續スルモ減俸トナルヘキ欠勤日數中ニ算入セ
 ス又州氣ト私事故障ト連續スル場合ニ於テハ之ヲ通算セス
 第八條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ルモノトス日割計
 算ノ誤ハ其月ノ現日數ニヨルヘシ

○郡書記俸給支給規則

明治二十六年十二月十日訓令乙第二八七號 (郡)

郡書記俸給支給定日ハ自今毎月廿一日トス

但休日ニ當ルトキハ繰下トス

○地方稅支辨雇員俸給支給規則

明治二十七年十一月全日官第八十號全第
二日訓令第三九六號 十一二號全第十二號

地方稅支辨ニ屬スル雇員俸給支給規則別冊之通相定ム

雇員俸給支給規則

第一條 雇員ノ月給ハ毎月末日ニ支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ繰上クトス
 第二條 解雇又ハ死亡ノ時ハ當月分ノ俸給全額ヲ支給ス
 第三條 雇員ノ日給ハ總テ出務日數ニ依リ翌月一日ヲ以テ支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ繰

下トス女監取締ニシテ明治廿七年官第七十四號ニ依リ賜リタル休暇日數ハ出務日數ニ算入ス

第四條 新ニ雇入ル、モノノ月俸及増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ支給ス

第五條 他屬へ轉シタルトキハ發令ノ當日迄ヲ甲屬ノ負擔トシテ翌日以降ノ分ハ乙屬ニ於テ支給スルモノトス

第六條 轉職解雇又ハ死亡者ノ俸給ハ第一條第三條ニ拘ハラヌ其際支給ス

第七條 病氣ノ爲メ執務セサルモノ日數六十日ヲ踰ユルモノハ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹タルモノハ此限ニアラス

第八條 前條ノ外私事ノ故障ニ依リ執務セサルモノ日數三十日ヲ踰ユルモノハ俸給ノ半額ヲ減ス

第九條 第七條ノ場合ト第八條ノ場合ト相續テ起ルトキハ其日數ハ前後ヲ通算シ六十日ヲ踰ユルトキハ俸給半額ヲ減ス但第一條ノ期限ヲ過キ己ニ減俸ノモノ病氣ノ爲メ尙ホ引續キ欠勤スルトキハ大俸ニ復セサルモノトス

第十條 賜暇又ハ忌引ノ日數ハ第七條第八條ノ期限ニ算入セス

第十一條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ルモノトス

第十二條 日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ルヘシ

第十三條 監獄醫教誨師女監取締及檢檢所幹事並ニ醫員ノ俸給支給ハ本則ニ準據スヘシ

○地方稅支辨給仕ト使給料支給規則

明治廿四年七月十六日官第六十六號

地方稅辨ニ屬スル雇員並ニ仕小使等給料支給規則左ノ通相定ム

稅丁給仕小使給料支給規則

第一條 月給ハ毎月末日日給ハ翌月一日之ヲ支給スルモノトス

但休日當ルトキハ月給ハ繰上ケ日給ハ繰下ケトス

第二條 日給ハ總テ出勤日數ニ應シ支給スルモノトス

但押丁ニシテ自己ノ疾病及父母看護忌引等ニ係ルトキハ第五條ヲ適用ス

第三條 増給減給支ハ辭令發付ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第四條 新ニ雇入タルトキハ出勤シタル日ヨリ解職ノトキハ辭令拜受ノ日死亡ノトキハ其當日マテ日割ヲ以テ支給スルモノトス

第五條 自己ノ疾病及父母ノ看護又ハ忌引等ニ依リ不參スルモノ十日以後ハ日割ヲ以テ其日數ヲ扣

除スルモノトス

但公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ重病ニ罹リタルモノハ此限ニアラス

第六條 押丁守丁授業手其他職工等ノ給料ハ總テ此規則ニ依ル

○管内出張旅費額

明治廿七年十月十日官第七十七號

明治廿五年十月官第五十三號全廿七年一月官第六號管内出張旅費額左ノ過更正本年十一月一日ヨリ施行ス

區別	一馬車賃	一漚車賃	一漚船賃	日當
勅任官	金十六錢	金五錢	金七錢	金二圓
奏任官	金十二錢	金四錢	金五錢	金二圓二十錢
技師	金十錢	金四錢	金五錢	金八十錢
判任官	金九錢	金三錢	金四錢	金六十錢
備員	定額	金二錢	定額	金四十錢

○土木ニ關スル出張旅費支給額

明治二十八年五月一日官第三十五號

土木旅費支給方

- 一 土木工事特區へ出張旅費ハ月額ヲ以テ判任官ハ金拾貳圓雇員ハ金拾圓ヲ支給ス
- 二 前項月額ハ出發ノ日ヨリ歸屬ノ日マテ執務日數ニ應シテ支給シ其一ヶ月ニ滿タサル端日數ハ月額三十分ノ一ノ割合ヲ以テ日割支給ス
- 三 出發歸屬及甲乙特區ヲ轉スルモ又ハ特區外ニ旅行セシムルモハ月額ノ外漚車賃車馬賃ヲ支給ス

但用務打合等ノ爲メ縣廳ニ往復スルモノハ此限ニアラス

四特區ヲ定メス出張セシムルモ判任官日當ニ金五拾錢雇員同金四拾錢及漚車賃車馬賃ヲ支給ス

但出張中陸路六里未滿ノ旅行及用務打合ノ爲メ縣廳ニ往復スルモノハ漚車賃車馬賃ヲ支給セス

○間稅檢査員旅費月額

明治廿七年四月三十日官三十四號

間稅檢査員所轄内巡回旅費ハ明治廿七年六月一日ヨリ月額金九圓ヲ支給ス

但宿泊スルトキハ一泊金二拾錢ヲ増給ス

○内國稅徵收員支辨雇員旅費支給額

明治廿四年九月十日官第八十六號

内國稅徵收費支辨雇員旅費支給額左ノ通相定メ明治廿四年十月一日ヨリ施行ス

漚車賃一哩毎ニ 漚船賃一海里毎ニ 車馬賃一里毎ニ 日當一日毎ニ 月額

三錢 四錢 八錢 五拾錢 拾貳圓

一月額旅費ハ土地檢査員助手トシテ出張ノ者ニ支給ス

○警察官吏日當月額支給法

明治廿一年八月三十日官第七十三號

警察官吏日當月額並支給法別紙ノ通定ム

但九月一日ヨリ施行ス

警察官吏日當月額支給法

第一條 日當月額ハ定規ノ巡回臨時ノ出張及其他ノ費用充ツ
 第二條 警部警部補及巡查ハ左表ノ等級ニ依リ之ヲ支給ス
 警部警部補月額表

一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等	七 等
五圓	四圓五十錢	四圓	三圓五十錢	三圓	二圓五十錢	二圓

(廿三年十二月一日達ヲ以テ七等ヲ追加ス)

巡查月額表

一 等	二 等
二圓四十錢	二圓十錢

第三條 左ノ場合ニ於テハ日割ヲ以テ支給ス

- 一 給與ノ初月端日數ニ係ルトキ
- 二 轉署
- 三 轉任又ハ免職
- 四 死亡
- 五 私事ノ爲メ欠勤又ハ事故ニ依リ給與ヲ止メタルトキ

第四條 左ノ場合ニ於テハ日數七日迄ハ全額ヲ給シ八日以上ハ其日數ヲ除キ日割ヲ以テ支給ス

- 一 緊氣引ノ職務上負傷傳染病等ニ罹リタル場合共

三 恩 引

第五條 賜暇又ハ管内外へ出張ノトキハ其日數ヲ除キ日割ヲ以テ支給ス

但管内外出張ト雖別ニ日當又ハ車馬賃ヲ支給セサル場合ハ此限りニ非ラス

第六條 補欠官ニシテ臨時受持員ノ補助ヲ爲シタル者ハ相當月額日割ヲ以テ支給ス

(廿七年四月三十日官第三十五號ヲ以一條ヲ追加シ七條以下繰下ケ)

第七條 日割計算法ハ一ヶ月三十日ノ割ヲ以テスヘシ

第八條 所轄警察署分署又ハ隣接警察署分署一管内外トモ一先受渡ハ持區内ニ準シ別ニ日當車馬賃ヲ支給セス

第九條 持區内出張等ニシテ急行ヲ要スルト雖正實費ヲ支給セス

○警察官吏日當月額支給細則

明治廿一年八月三十一日第四十一號

今般官第七十三號ヲ以テ警察官吏日當月額支給法達相成候ニ付該細則別冊之通相定メ來ル九月一日ヨリ施行ス

警察官吏日當月額支給細則

第一條 支給法第二條月額警察署長分署長及在勤警部全補ノ等級ヲ定ムル左ノ如シ

(廿四年四月廿四日官第四十九號ヲ以テ改正)

四圓五十錢 水戸警察署

四圓 土浦警察署

三圓五十錢 太田 菅谷 下妻警察署

三圓 古河 麻生 笠間 取手 松原 鉦田 谷田部 水海道 楢 龍ヶ崎警察署

二圓七十五錢 江戸崎 結城警察署

二圓五十錢 下館 大子 東下分署

石岡 石塚 堅倉 柿岡 眞壁 小里 澗來 玉造 岩間 平瀧 高鈴 鹿

島 大宮 小淵 北條 岡田 岩井 牛久 下市 磯濱 下中妻 佐賀 布

川 東那珂 幸島 湊 長岡 守谷分署

次席者

巡查月額

一等 監督巡查

二等 外勤巡查

第三條 支給法第三條ノ日割計算方左ノ如シ

一 一頂ハ勤務ニ度ナル當日ヨリ他ハ轉シタルモノ又ハ給額變更アルモノモ之ニ準ス

二 二項三項ハ辭令拜受ノ日迄

三 四項ハ其當日ヨリ

四 五項ハ其勤日迄

第三條 支給法第三條第二項第三項第四項ノ場合ハ其都度其他ハ毎月末日ニ之ヲ給與ス

○死体検案ノ爲醫師出張旅費額 明治廿五年三月 卅日官十六号

警察分署ニ於テ死体検按等ノ爲メ出張スル醫師ノ旅費ハ明治廿五年四月一日ヨリ左表之通り支給ス

但支給ノ方法ハ明治十九年閣令第十四号内國旅費規則ニ據ル

海船賃一哩毎ニ 車馬賃一里毎ニ 日當一日毎ニ

金三錢 金四錢 金七錢 金五拾錢

○看守長囚徒外役所出張旅費支給額 明治二十四年一月廿八日官五号 (監)

看守長囚徒外役所出張中ノ旅費當分ノ内左ノ通相定メ廿四年二月一日ヨリ施行ス

一 看守長囚徒外役所常時出張中ノ旅費ハ月額金六圓ヲ支給ス (廿四年十月廿四日官第 九十二号ヲ以テ改正)

一 外役所へ出張往復ノ旅費ハ旅費規則第二條ニ據リ支給ス

一 旅費月額ハ外役所出張ノ月ハ其着ノ翌日ヨリ歸郷ノ月ハ其出發ノ前日其月現日數ニ依リ日割ヲ以

テ之ヲ支給ス

○看守月手當支給法

明治二十七年一月十五日官三號 (監)

明治廿四年四月廿一日官第四十七號看守(押丁)月手當支給法別紙之通相改ム

看守(押丁)月手當支給法

第一條 看守(押丁)監獄外役所出張中ハ手當トシテ一ヶ月金三圓毎月末日支給ス

但休日ニ當テハ翌日ニ繰下ク

第二條 月手當ハ出張ノモ、ハ到着翌日ヨリ歸署ノモ、ハ出發前日迄免職死亡ノモノハ其常日迄其

日現日數ニヨリ日割ヲ以テ支給ス

○監獄醫及教誨師日當減額ノ件

明治廿八年三月七日官第十號

監獄醫及教誨師旅費ノ内日常ニ限リ來ル四月一日ヨリ一日金五拾錢ニ減額ス

○戒讓ニ從事スル者賄料ノ件

明治二十一年十二月十一日官百五號 (監)

府縣費支辨ニ屬スル者ニシテ戒讓ニ從事スル看守長看守副長及月俸拾貳圓未満以下ヲ除クノ外
明治二十一年十二月十五日限リ賄料ノ支給ヲ廢ス

○監獄看守以下賄料定額

明治二十一年二月十六日官第九號 (監)

各監獄看守以下賄料定額別表ノ通來、四月一日ヨリ改正ス

賄料支給表

職名	不寐	番	宿	直	居	殘
看守	二飯金六錢	〇	〇		一飯金三錢	
押丁	二飯金五錢	〇			一飯金二錢五厘	
女監取締	〇				二飯金六錢	
使丁	〇				二飯金五錢	
醫師	〇				一飯金二錢五厘	
					二飯金六錢	

但内勤看守(押丁)ニシテ人員配置ノ都合ニヨリ宿直ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ各二飯ツ、支給スヘシ

○郡長管内出張旅費額

明治廿七年十月十九日訓令乙第三八二號

明治廿五年十月訓令第一五二號郡長管内出張旅費額左ノ通更正本年十一月一日ヨリ施行ス

區別	車馬賃	漚	車賃	漚	船賃	日當
一里	馬	一	漚	一	海	日
每	賃	漚	賃	漚	里	當
二	二	一	二	一	每	
金十二錢		漚	金四錢	漚	二	
		漚		漚	日	
		漚	金五錢	漚	當	
		漚		漚		
		漚	金一圓二十錢	漚		

○郡書記出張旅費額

明治廿七年三月廿八日訓令乙一七八號 第一一七號

明治廿七年度ヨリ郡書記旅費郡内出張ニ限リ、當一日金五十錢車馬賃一里ニ付金八錢ニ減額ス

○郡役所雇出張旅費額

明治廿七年三月廿八
日訓令乙一七七號

明治廿七年度郡役所雇ノ旅費ハ日當二日金四十錢車馬賃一里ニ付金七錢ニ減額ス

○郡吏宿直辨當料收正ノ件

明治廿七年三月廿八
日訓令乙一七九號

明治廿四年三月茨城縣令丙第十四號中郡書記以下食料給與ニ關スル件來ル四月一日ヨリ左ノ通改定ス

一郡書記ノ宿直ハ食料ヲ給與セス

一小使ノ宿直ハ一宿ニ付食料金五錢ヲ給與ス

一徹夜勤務ノ者ニハ食料一夜ニ付郡書記雇員ハ金十錢五厘給仕小使ハ金七錢五厘ヲ給與ス

○市吏出張旅費ノ件

明治二十三年五月十
日訓令第四十八號

市吏ヲシテ國庫支辨ノ用務ニ付旅行セシムルトキハ明治十九年内務省令第十一號警察官吏其他内國旅費概則甲號表面ノ旅費ヲ全年閣令第十四號内國旅費規則ニ據リ支給ス

○賞勳年金思給金交付手續

明治二十三年三月十
三日縣令甲第一四號

賞勳年金思給金交付方自今左ノ通相定ム

第一項 年金思給ヲ受クルモノハ該金交付期月ノ初日(休日ニ當ルトキハ次日)年金證書思給證書及

生存證書(本令附屬書式第一號)ヲ水戸市及東茨城郡住居者ハ縣廳ニ其他ハ所轄郡長ニ差出シ檢閱ヲ受ク(本令附屬書式第二號)請求書ヲ差出スヘシ

第二項 前項ノ年金思給ハ水戸市及東茨城郡居住者ハ交付期月十五日ヨリ二十日マテノ間ニ縣廳ヨ

リ受取ルヘシ其他ハ仕拂命令書又ハ爲替手形等ヲ以テ本人ハ交付スルモノトス

第三項 前項ノ年金思給ヲ受領シタルトキハ即日(本令附屬書式第三號)領收證ヲ差出スヘシ

第一號書式

生存證書

郡市町村大字番地

勳何等(勳等ハ年金受領者ニ限

リ記載スルモノトス) 氏名

官氏名某(寡婦孤兒)

氏名

當何年何月何年何ヶ月

右生存タルハ現ニ檢スル所ニシテ當市町村ノ住居ニ有之(寡婦ハ再嫁セサル證據ノ爲メ孤兒ハ丁年未滿ノ證據ノ爲メト明記スヘシ)則(親戚)(同郷戶主二名)連署ヲ以茲ニ證明候也
但其自宅ニ就キ之ヲ檢ス

茨城縣管下郡市町村大字族籍

年月日

本人何某兄弟等

氏

名

印

全

本人同郷

氏

名

印

右ハ戸籍ニ徴シ相違無之ニ付調印候也

市町村長 氏

名

印

第二號書式

記

年額何程

一金何程

但明治何年何期分(年金文官恩給ハ一月ヨリ六月マテ陸軍恩給ハ一月ヨリ三月マテ第一期トス以下全)

右(賞勳年金恩給金)御渡有之度此段請求候也

茨城縣管下郡市町村大字番地

勳何等(年金請求書ニ限リ記載スヘシ)

年月日

官

氏

名

印

(寡婦孤兒)

故官氏名(寡婦孤兒)

氏

名

印

知事宛

第三號書式

證

年額何程

一金何程

但明治何年何期分(年金文官恩給ハ六月迄陸軍恩給ハ一月ヨリ三月マテ第一期トス以下同)

右(賞勳年金恩給金)御渡相成正ニ受取候也

茨城縣管下郡市町村大字番地

勳何等(年金受取證ニ限リ記載スヘシ)

年月日

官

氏

名

印

(寡婦孤兒)

故某官氏名(寡婦孤兒)

氏

名

印

知事宛

○恩給請求報告ノ件

明治二十三年三月十日(郡)東茨城ヲ除ク

縣令甲第十四號ヲ以テ賞勳年金恩給金交付方相定ノ際ニ就テハ同令第一項ニヨリ請求アルトキハ年

金證書恩給證書及生存證書ヲ檢閲シ年金證書恩給證書ハ本人へ返付シ生存證書及請求書ヲ取纏メ五

日以内ニ別紙書式ニヨリ當廳へ報告スヘシ

(別紙書式)

證票番號	勳等	年額	支給金額	住所郡市町村 大字番地	官氏名
------	----	----	------	----------------	-----

但以上何件明治何年何期分(年金文官恩給ハ一月ヨリ六月マテ陸軍恩給)ハ一月ヨリ三月マテ第一期トス以下全シ)右檢閱辦ニ付生存證書及(年金恩給)請求書相添ヘ此段及報告候也

年月日 知事宛 郡長氏 名 印

勳等ヲ記載スルハ賞勳年金ノ分ニ限ル 死亡等ニヨリ遺族者請求ニ係ルモノハ官氏名ノ區ヘ受恩典者官氏名及遺族者氏名ヲ記載スルモノトス

新規下賜及停止解停ニ係ルモノハ年月日新規下賜ニ付年月日ヨリ月日マテ又ハ年月日死亡或ハ何々ニ付年月日停止解停ニ付年月日ヨリ月日マテ日割ノ分ト次ノ區ヘ記載スルモノトス

○扶助料交付ノ件 明治二十五年十一月五日縣令甲第六三號

明治廿四年十二月法律第四號ニヨリ受クタル扶助料交付方ハ明治廿三年三月本縣令甲第十四號ノ通

○陸軍恩給轉給請求等ノ件 明治二十六年十月廿五日訓令甲第二十一號 (郡市町村)

陸軍恩給及ヒ明治廿四年法律第四號ニ據リ扶助料ヲ受クタルモノ死亡其他ノ事故ニヨリ權利消滅ニ係ル屬ハ第一號ノ書式ニヨリ其轉給ヲ請求スルモノハ第二號書式ニ依リ前者ノ證書ト市町村長ノ證明シタル現在戶籍調書明治(廿四年法律第四號ニ係ルモノハ明治廿五年閣令第三號第五條ノ申立書)各二通宛又轉給ヲ受クヘキ權利者ナク證書還納スルモノハ第三號書式ニ依リ差出サシムヘシ

明治廿六年十月廿五日

茨城縣知事

書式 第一號書式

届書

茨城縣郡市町村大字番地 故官職若クハ(故官職氏名寡婦(孤兒)(遺父母祖父母) 氏 名

右者(明治何年陸軍恩給令明治廿四年法律第四號又ハ何々)ニ依リ(恩給又ハ扶助料)御下賜相成居候所明治何年何月何日死亡(又ハ何々權利消滅)ニ付此段御届申上候也

年月日 知事宛 氏 名 印

前書之通相違無之候也

年月日

右
市町村長 氏 名 印

第二號書式(用紙半紙若クハ野紙)

扶助料轉給請求書

故官職若クハ(故官職氏名寡婦)(孤兒)(遺父母祖父母) 氏 名

右者(明治何年陸軍恩給令明治廿四年法律第四號又ハ何々)ニ依リ(恩給又ハ扶助料)御下賜相成居候所明治何年何月何日何々ニ付爾後私へ轉給被成下度前者ノ證書及ヒ別紙書類相添親族二名(親族ナキトキハ隣佐二名)(後見人アレハ其後見人)遺業ヲ以テ此段請求仕候也

故官職氏名寡婦(孤兒)(遺父母祖父母)

茨城縣郡市町村大字番地

族籍

氏 名 印

全上

族籍

氏 名 印

全上

全上 氏 名 印

知事宛

前職之通相違無之候也

年月日

右
市町村長 氏 名 印

第三號書式

返納書

茨城縣郡市町村大字番地

故官職若クハ(故官職氏名寡婦)(孤兒)

(遺父母祖父母)

氏 名

右者(明治何年陸軍恩給令明治廿四年法律第四號又ハ何々)ニ依リ(恩給又ハ扶助料)御下賜相成居候處明治何年何月何日何々ニ付權利消滅ノ處轉給ヲ受ケヘキ權利者無之ニ付別紙何々證書返納仕候也

右戸主

氏 名 印

知事宛

年月日

前書之通相違無之候也

年月日

右
市町村長 氏 名 印

○巡查看守給助金計算法

明治廿年二月
八日官第十號

(鑒監)

巡查看守給助金計算法

巡查看守退職傷疾死亡ノ時ハ左ノ區別ニ從ヒ給助金ヲ支給スルモノトス

退職給助

勤續滿五年ノ者ハ一時金二十五圓ヲ給シ滿六年以上九年迄ハ一ケ年毎ニ五圓ヲ増給ス勤續滿十年ノ者ハ年金三十圓ヲ給ス滿十一年以上ハ一ケ年毎ニ金一圓ヲ増給ス

傷疾給助

一等傷ハ年金四十圓ヲ給ス

二等傷ハ年金三十圓ヲ給ス

死亡給助

寡婦孤兒アルトキハ其遺族ヘ年金四十圓ヲ給ス寡婦孤兒ナク祖父祖母又ハ二十歳未滿ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ者アルトキハ一時金百圓ヲ給ス孤兒癡篤疾ナルトキハ年金廢止ノ際一時金百圓ヲ給ス

療治料

輕重ノ度ヲ計リ之ヲ給ス

祭祀料

奉職一年未滿ニシテ死亡スルトキハ一時金十五圓ヲ給ス滿一年以上ハ一ケ年毎ニ金五圓ヲ増ス職務ノ爲メ死亡スル者ハ前項ノ外一時金百圓ヲ給ス

右年金支給方ハ退職死亡及傷疾等ノ翌月ヨリ支給シ其給ヲ止ムルトキハ日割計算スヘシ

○巡查看守給助年金受領者心得書

明治二十六年一月
十六日縣令丙一號 (市町)

巡查看守給助例ニ依リ年金受領者心得左ノ通り相定ム

巡查看守給助年金受領者心得書

第一年金ハ兩年度(三月五月)ニ分テ半額宛テ交付ス

第二年金受領者ハ交付期月ノ初日ヨリ十日マテノ間ニ於テ年金證書ヲ本人居住地ノ市長村長ニ差出シ第一號書式ノ證明書ヲ請求シ第二號書式ノ請求書ト共ニ本縣廳(巡査ハ警察部看守ハ監獄署)ニ差

出スヘシ

第三年金ハ本縣水戸市及東茨城郡居住ノ者ハ交付期月ノ十五日ヨリ二十日マテニ縣廳ニ於テ交付ス

其他ハ爲換券等ヲ以テ本人ヘ送付ス

第四年金ノ送付ヲ受ケタルトキハ即日第三號書式ノ受領證ヲ差出スヘシ

第五代理人ヲシテ年金ヲ受取ラントスルトキハ委任届ヲ差出スヘシ但委任狀ヲ以テ代用スルモ妨ケ

ナシ

第六左ノ各頂ニ該ル者ハ給助廢止スルヲ以テ請求スルヲ得ス

一公權剝奪セラレシ者

二寡婦再縁シタル者

三孤兒二十歳ニ至リシ者

第七左ノ各頂ニ該ル者ハ其時間給助ヲ停止スルヲ以テ請求スルヲ得ス

一俸給ヲ受クル官職ニ就キタル者

二公權ヲ停止セラレシ者

三失踪シタル者

四許可ヲ得スシテ外國ニ出テ一年以上歸朝セサル者

第八左ノ各頂ニ係ル者ハ届書ニ第一ハ其管屬其他ハ居住地市町村長ノ證明ヲ受ケ(巡查ハ警察部看

守ハ監獄署)ニ差出スヘシ但改姓改名シタルトキハ給助年金證書ノ書替ヲ請求スヘシ

一俸給ヲ受クル官職ニ就キ又ハ免職シタルトキ

但辭令書寫ヲ添ヘシ

二公權ヲ停止セラレタル時

三本籍並ニ住居ヲ轉換シタルトキ

四改姓改谷シタルトキ

五年金給助ノ證書ヲ遺失又ハ水火盜難ニ罹リシトキ

六改印シタルトキ

第九第六項第二第三ニ該ルトキハ本人ヨリ同第一ニ該ルトキ並ニ死亡シタルトキハ家族或ハ親戚ヨリ

(親戚ナキトキハ故舊ヨリ)第八項ノ手續ニ依リ給助年金證書ヲ返納スヘシ

第十第七項第三第四ニ係ルトキハ家族或ハ親戚ヨリ(親戚ナキトキハ故舊ヨリ)第八項ノ手續ニ依リ届

出ツベシ

第十一職務ノ爲メ負傷後其傷痕ニ原シ死亡スルモノ又ハ孤兒廿歳ニ至ルモ癩疾ナルトキハ公立病院

若クハ開業醫師ノ診斷書ヲ添ヘ第八項ノ手續ニ依リ相當ノ給助ヲ出願スヘシ

第一號書式(用紙半紙)

證明書

何府縣都市町村大字番地族籍

元茨城縣 巡查看守 何 某

又ハ故(巡查看守)何某(寡婦孤兒)

何

某

右ハ現今肩書ノ地ニ本籍(寄留)居住受領者心得書第六項第七項ニ該書不仕候此段證明候也
明治何年何月
何市町村長 何 某 印

茨城縣知事宛

第二號書式 (用紙半紙)

記

年額金若干

一金

(退職、寡婦、傷痍、孤兒)給助金
但何年何月ヨリ何月迄半期分(又ハ躰止停止ノ前日迄)

右御渡有之度候也

年月日

何(府縣郡市町村)大字番地(寄留)
元茨城縣(巡查看守) 何 某印
又ハ故(巡查看守)何某(寡婦孤兒)
何 某 印

茨城縣知事宛

第三號書式 (用紙半紙)

証

年額金若干

一金

(退職、寡婦、傷痍、孤兒)給助金

但何年何月ヨリ何月迄半期分(又ハ躰止停止ノ前日迄)

右正ニ受取候也

年月日

何(府縣郡市町村)大字番地(寄留)
元茨城縣(巡查看守) 何 某印
又ハ故(巡查看守)何某(寡婦孤兒)
何 某 印

茨城縣知事宛

○地方稅事業ニ金穀等寄附ノ件

明治廿一年七月十日訓令第七十號

從來地方稅所屬ノ起業ニ對シ寄附スル金穀物件ハ縣廳限リ取扱來候處客年十一月勅令第五十六號ヲ以テ本ノ度以降ハ縣會ノ決議ヲ要スルニ至リ萬一前縣開屆ク現物未納ノ際取消願差出候者有之ニ於テハ地方稅全休ニ異動ヲ生シ乃豫算増減ノ都度臨時縣會ノ開設ヲ要スル等不都合不少候條今後有志者ヨリ寄附セントスル金穀物件ハ總テ現物戶長役場ニ預ク入レ該證相添へ出願候様可取扱旨管下各戶長ヘ訓示スヘシ

○地方稅ノ起業ニ係ル寄附金徵收ノ件

明治二十一年四月十九日訓令第四十一號 (郡)

地方稅ノ起業ニ係ル寄附金ハ郡役所ニ於テ收入可致ノ處其距離遠隔候ヨリ寄附者ノ不便不勘趣相聞候條明治十八年乙第七十二號達戶長役場金錢收支順序第八條第四項及第十條ニ據リ戶長役場ニ於テ

徵收シ郡役所へ送付候様戸長へ訓令スヘシ

但従前指令濟ノ分ト雖モ本文ノ通り取扱ハセシムヘシ

○備荒儲蓄法施行規則

明治二十四年一月二十二日縣令甲九号

備荒儲蓄法施行規則

第一條 備荒儲蓄金ノ管守支給及利殖ノ方法ハ此規則ニヨリ取扱フモノトス

第二條 儲蓄金ノ内壹萬五千圓ハ其年度ノ支出豫算ニ充テ現金ヲ以テ備置キ其餘ハ悉皆公債証書ニ

交換スルモノトス

但本文ノ豫算金ニ不足ヲ生スルトアル時他ノ儲蓄金及公債証書ヲ賣却シテ支辨スルモノトス

第三條 豫算金ノ内壹萬圓ハ縣廳ニ備置キ五千圓ハ郡市役所ニ配付シ置クモノトス

第四條 儲蓄金ノ支出殘餘金ハ翌年度ノ儲蓄金ニ組入ルベモノトス

第五條 公債証書買入ニ關スル費用其他諸費ハ總テ其年度ノ豫算金ヨリ支出スルモノトス

第六條 非常ノ災害ニ罹リタル者ニ食料ヲ給スルハ左區別ニヨル

第一 災害ハ爲目下飢餓ニ迫ルノ事實明瞭ナル時一人一日白米三合 割合トシ其地前月下白米

相(相場)立無之所ハ最寄ノ相場ニヨルヲ以テ二十日以内食料ヲ給ス

但國稅五圓又ハ地方稅三圓以上納ムル者ハ此限ニアラス

第三條 非常ノ暴災ニシテ自炊ヲ行フ能ハサル場合ト認ムル時ハ時間ニ據リ日數十日以内焚出米ヲ給與スル事ヲモハシ

第七條 非常ノ災害ニ罹リタル者ニ小屋掛料ヲ給スルハ左ノ區別ニヨル

第一 家屋ヲ失ヒ雨露ヲ凌ク能ハサル者ニ小屋掛料ヲ給スルハ一戸八口以上金六圓以内五口以上

金五圓以内四口以下金四圓以内ヲ給ス

但國稅五圓又ハ地方稅三圓以上ヲ納ムル者其他同居及借住ノモノハ此限ニアラス

第二 非常ノ暴災ニシテ立退場ニ差支アリト認ムル時ハ時宜ニヨリ避難所ヲ設ケ一時ノ急ヲ救フ

事ヲモハシ

第八條 非常ノ兇荒不慮ノ災難ニ罹リ農具及種穀ヲ失ヒ自ラ購フ能ハサルモノニ農具料及種穀料ヲ

給與スルハ左ノ區別ニヨル

但地租五圓以上納ムルモノ又ハ反別一町歩以上所有スルモノハ此限ニアラス

第一 農具料ハ反別五反歩以上耕耘スルモノハ一戸金六圓以内五反歩未滿耕耘スル者ハ一戸金四

圓以内ヲ給ス

第二 種穀料(米麥黍稗菽)ハ反別五反歩〇上耕耘スル者ハ一戸金三圓以内全五反歩未滿耕耘スル

者ハ一戸金四圓以内ヲ給ス

第二種 穀料(米麥黍稷)ハ反別五反歩以上耕耘ハルモノハ一斤金三圓以内同五反歩未滿耕耘スルモノハ一斤金二圓以内ヲ給ス

第三 農具料種穀料ハ農ヲ以テ專業トスルモノニアラサレハ之ヲ給セス

第九條 非常ノ兇荒不慮ノ災害ニ罹リ土地又ハ家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地租ヲ納ムル能ハサルモノニ地租ヲ補助シ若クハ貸與スルハ左ノ區別ニヨル但地租五圓以上納ムルモノ及耕地反別一町歩以上所有スルモノハ此ノ限ニアラス

第一 オ條ノ場合ニ遭遇シ收護皆無ニ屬スルモノ全所有耕地反別ノ半以上ニ至ル時ハ其皆無ニ屬スル地租ノ全額又ハ幾分ヲ貸與シ返納ハ其翌年ヨリ無利足七少年賦トシ毎年十月返納セシム

第二 貸與年賦中本條ノ場合ニ遭遇シ第一項ノ趣旨ニ該當スル時ハ其收護皆無ニ屬スル耕地ノ租額又ハ幾分ヲ補助シ其年納ムヘキ年賦金ハ免除ス

第三 土地又ハ家屋ヲ賣却讓與スル時ハ貸與金チ一時ニ返納セシム但家督相續者ニ讓與スルカ又ハ滞納處分ニ係ルモノハ此限ニアラス

第十條 罹災ノ爲メ給與補助貸與ヲ出願スルハ左ノ日限内トス

食料小屋掛料農具料 十五日以内

種穀料地租貸與及補助 六十日以内

但作物收護以前トス

第十一條 家族ノ所有地及稅額ハ第六條第七條第八條第九條中ノ地租賦稅地方稅及反別中ニ合算スルモノトス

○種穀料ハ被害反別ニヨリ區分ス 明治二十六年四月廿一日訓令乙第二三號 (郡市)

備荒儲蓄法施行規則第八條第二項種穀料ハ被害反別ニ依リ區分スルモノト心得ヘシ

○罹災者救助ノ件 明治廿三年九月五日訓令第八八號

罹災者救助方之儀ニ就テハ是マテ再應一部長ヨリ通牒爲致候儀モ有之候處元來備荒儲蓄法施行規則中ニ明文アル通食料ニシテハ飢餓ニ迫ルノ事實明瞭ナルモノ農具料種穀料ニシテハ之ヲ亡失シ自ラ購フ能ハサルモノ地租ノ補助ニ付テハ土地又ハ家屋ヲ賣却スルニアラサレハ納稅スル能ハサル者ニ限リ救助スヘキハ勿論ノ儀ニ有之候處萬一出願ニ任セ稍自活ノ途アルモノニ迄給助ヲ執行スル向有之ニテハ不都合不勘畢竟規則中納稅額等ノ制限ヲ設ケタルモノ豫メ給否ノ程度ヲ指示シタルニ過キスヲ地租五圓以内反別一町歩以下ノ者ト雖モ實際究迫ニ陞ラサルモノニハ素ヨリ救助スヘキ限リニ無之候條調査方精々注意シ貧民救助ノ趣旨ニ背カサル豫取計フ

但救助人民ハ己ニ執行濟ノ分ト將來給助スヘキモノトヲ區分シ仍ニ納稅額等ヲ記載シ速カニ届出ツヘシ

○罹災者救助ノ件

全月六日訓
令第八九號

罹災者救助方ノ儀ハ備荒儲蓄法施行規則ノ制限モ有之素ヨリ其範圍内ヲ以テ施行スヘキハ勿論之義ニ候得共最下点ヲ給スルト最高点ヲ給スルトハ大ニ權衡上ニモ關係シ且其給否ヲ區別スルニ當リテモ篤ト罹災ノ厚薄 計下等ノ如何等ニ注目シテ査定セザレハ甲乙權衡ヲ失スルニ付食料ニシテハ飢餓ニ迫ルノ事實明瞭ナルモノ農具料種穀料ニシテハ之ヲ亡失シ自ヲ購フ能ハサルモノ地租ノ補助ニ付テハ土地又ハ家屋ヲ賣却スルニアラザレハ納税スル能ハサル者ニ限り救助シ規則ノ制限即チ地租五圓以内反別一町歩以下ノ者ト雖モ稍自活ノ途アル者ハ一切之ヲ排除シ勉メテ濫給ノ弊ヲ防キ貧民救助ノ趣旨ニ悖ラサル様注意執行スヘシ

但救助人名ハ已ニ執行濟ノ分ト將來給助スヘキ者トチ區別シ仍ホ納税額等ヲ記載シ速ニ届出ツヘシ

○窮民救助事故消滅具申ノ件

明治十八年九月十日
九日郡甲第十九號

(郡)

郡究民恤救金請求之義明治十四年郡甲第六十四號ヲ以テ相達置候處右ハ救助ヲ受クヘキ事故消滅シタルトキハ其旨具申スヘシ此旨相達候事

○救助取締注意ノ件

明治廿六年一月十日訓令第三號

(郡)

恤救者○ヲ受クヘキ事故消滅シタル時ハ其旨具申スヘキ旨明治十八年郡甲第十九號ヲ以テ相達

置候處從實例ニ徴スルニ幼弱者ノ外ハ恤救者死亡ニ至ラサル限りハ其事故消滅セサルモノ、如クニ候得共若シ其事故當初救助ヲシタル如クナラサルニ尙其儘救助シ置候テハ濟貧恤救ノ趣旨ニ反シ不都合ニ候條助救後取締方篤ト注意スヘシ

○備荒儲蓄地租貸與免除處分ノ件

明治廿六年七月廿七日訓令第十八號

(郡市)

備荒儲蓄金地租貸與免除處分ノ義ニ付本年二月第二六號ヲ以テ及訓令置保處自今經伺ヲ要セス處分スヘシ

○備荒儲蓄金地租貸與金借用證書書式

明治二十六年十二月二十日訓令乙第三百七號

(郡市)

備荒儲蓄金ノ地租貸與金ニ對シテ爾後別紙書式ニ據リ借用證書ヲ徴スヘシ

(別紙)

附

一金何程也

地租貸與金

但至所有耕地反別何程 又ハ耕地反別何程ノ内何程ノ收獲皆無此地租金何程(又ハ此地租金何程ノ内何程)

右金員利子七ヶ年賦ヲ以テ拜借仕候處實正也返納ノ義ハ來明治何年ヨリ何年迄金何程宛(若シ年賦割ニ厘位長滿ノ端散ヲ生スルトキハ末年金何厘増減)ト割註ス) 毎年十月限り無相違返納可仕候若シ土地家屋ヲ賣却讓與候トキハ御規則ノ通一時ニ返納可仕候仍テ證書如件

何年月日

府縣郡市町村番地

郡市長宛

氏名印

○備荒儲蓄豫備金還納領收書式

明治二十八年三月九日訓令乙卯八十一號 (郡市)

備荒儲蓄豫備金ノ儀從來拂出證書ニ以テ納受致來リ候處自今別紙書式ニ準シ毎年度四月一日付テ以テ還納書及領收證書ヲ差出シ之レト同時ニ收支ノ手續ヲナスヘシ

(別紙)

記

一金何程

但何年度備荒豫備マシテ交付ノ分

右還納候也

年月日

知事宛

郡市長氏

名

印

一金何程

但何年度備荒豫備金

右正ニ領收候也

年月日

知事宛

郡市長氏

名

印

○備荒儲蓄救助費及地租貸與金精算報告

明治二十六年一月十六日訓令第二號 (郡市)

備荒儲蓄救助費及地租貸與金ハ二十五年以以降別紙様式ニ據リ翌年度七月十五日限り報告スヘシ

別紙

何年度 罹災ノ年度ニヨル何郡備荒儲蓄金精算報告書

救助費(食料ハ戸數小屋掛料以下ハ延人員及現人員掲載ニ不及)

科目	町	數	延人員	現人員	戸數	金	員
----	---	---	-----	-----	----	---	---

水災救助

食料

屋掛料

農具料

何災救助

何々

合計

地租貸與

貸下年度

貸與額

前年度返納額

本年度返納額

免除額

未納額

何年度

何年度
合計

右之通相違無之候也

年月日

知事宛

郡市長印

○罹災者精算救助金ノ件

明治二十五年二月十日訓令第十一號 (郡市)

豫備金ヲ以テ繰替拂チナシタル罹災者救助金ヲ請求シ及救助金概算渡ニ對シ精算ノトキハ正當證書ヲ添付スヘシ

但廿四年度ニ屬スル正當證書ハ此際取纏メ差出スヘシ

○罹災者救助金ハ正當證書ヲ要ス

明治二十五年三月廿三日訓令第廿六號 (郡市)

罹災救助金ハ自今別紙書式ノ正當證書ヲ徴シ差出サルヘシ

但避難所諸費正當證書ハ仕譯書ヲ添付スヘシ

(別紙)

證

一金

何災救助金

内

金

食料

金

小屋掛料

金

農具料

金

種穀料

但田(畑)反別何程(粟黍稗菽)何程一石ニ付何程(此金何程ノ内)

(但田反別何程)何程一石ニ付金何程此代金何程(麥黍稗菽)何程一石ニ付金何程此代金何程(合金何程ノ内)

右ハ明治何年月日何災ニ罹リ御給與ノ分正ニ受取候也

郡市町村大字

明治年月日

氏

名

印

郡市長宛

一金

地租貸與(補助)金

但全所有耕地反別何程(内何程)收穫皆無此地租金何程

右ハ明治何年月日何災ニ罹リ御貸與(補助)ノ分正ニ受取候也

郡市町村大字

明治何年月日

氏

姓

印

郡市長宛

○地方備荒儲蓄金仕拂領收證書ノ件

明治二十六年十一月十日 同月廿一日

六日訓令乙第二四五號 官六十一號

地方稅備荒儲蓄金ノ仕拂ニ對スル領收證書ノ內代理者ノ領收證書ニハ自今委任狀ヲ添付セシメ證書ト共ニ進達スヘシ

但委任狀ヲ添付スルヲ得サル事故アルモノハ副書ヲ出サシメ割印ヲ爲シ之ヲ添付スヘシ又委任狀ノ數口ニ涉ルモノハ主任者ニ於テ領收證書ノ余白ヘ委任狀何證書ニ添付シアルコトヲ朱記證明スヘシ

○電信電話柱敷地手當金交付手續

明治二十六年六月十日
六日訓令第一五號

電信電話柱敷地手當金交付手續

第一條 電信電話柱敷地手當金ハ調査手續第二第三項ニ依リ報告セル金額ヲ縣廳ヨリ送付スルモノトス

第二條 前條現金ノ送付ヲ受タルトキハ明治二十二年丁月大藏省令第十三號第一條ニ依リ金庫ヘ委
托スヘシ

第三條 債主ニ對シ仕拂ヲナストキハ明治二十三年四月遞信省告示第六十八號手當金請求式ニ準シ
受領證ヲ徴スヘシ

但誤拂又ハ過渡金アルトキハ第一號書式ノ歳入調書ヲ製シ縣廳ヘ差出スヘシ

第四條 仕拂了ノ上殘余ヲ生セシトキハ第二號書式ノ返納證ニ通テ製シ縣廳ヘ差出スヘシ

第五條 切離ヲ受ケタル返納金領收證書ハ証憑書類トシテ仕拂計算書ヘ添付スヘシ

第六條 會計規則第九十八條ニ依リ差出スヘキ仕拂計算書ヘ毎月一回トシ明治二十二年十一月會計

検査院ヨリ各廳ヘ通達シタル規程ニ依リ前月分翌月十日迄ニ第四號書式ノ明細書及証憑書類ヲ添

ヘ縣廳ヘ差出スヘシ

第七條 新設廢止ニ係ルモノハ月割計算ヲ用ヒス總テ一ケ年分ノ手當金ヲ支給スヘシ

第八條 現金出納簿各目ノ詳細ヲ明ニスル爲メ第三號書式ニ依リ内譯簿ヲ設備スヘシ

第一號

記

一金何程

郡町村大字

某

但何年何月ヨリ何月迄(電信電話)柱敷地手當金年月日拂渡ノ處何々ノ事故ニ依リ誤拂又ハ過
渡發見ニ付歳入ヘ納付スヘキ分

右報告候也

年月日

某郡長 氏

名

印

知事宛

第二號

記

高金何程
一金何程

現金前渡

殘額

外金何程

仕拂濟額

但何年何月ヨリ何年何月ニ至ル(電信電話)本支柱線共何本分敷地手當金郡町村大字何々某
外何名及期分ヨリ手當金不望或ハ何々ノ事故ニ付支給ヲ廢止スルニ依リ殘額ノ分
右返納候也

年月日

某郡長 氏

名

印

知事宛

第三號 (簿記ニ付略ス)

第四號

電信柱敷地手當支拂明細書

本柱	電信柱	支線	支線	金額	摘要
一〇	五	三	〇	七二〇	明治何年四月ヨリ同何年三月迄十二ヶ月分 何國何郡某何人渡
五	三	二	〇	四〇〇	同上 何國何郡某何人渡
二〇	五	五	一	二〇〇	明治何年何月ヨリ同何年何月マテ何ヶ月分 何國何郡某何人渡
五	一〇	八	〇	九二〇	同上 何國何郡某何人渡
計	四〇	二三	一八	三、二四〇	

右之通候也

年月日

現金前渡ヲ受ケタル官吏
官 氏

名

知事宛

○電信電話柱敷地及民有地ニ係ル手當金調査手續

明治二十六年六月十
五日訓令乙九十六號

郡市町特任條件第五十二電信電話柱敷地及民有地ニ係ル手當金調査手續左ノ通り心得ヘシ

電信電話柱敷地及民有地ニ係ル手當金調査手續

一官有地ニ建設セル電信電話本支柱線敷地新設又ハ異動ヲ生シタルトキハ其市町村大字々番號地目
等ヲ調査シ別紙第一號書式ニ據リ縣廳ヘ報告スヘシ

但河川堤塘道路並木敷用悪水路等ニ係ルモノハ其修理保存費負擔者ヘ通報スヘシ

一民有地ニ係ル本支柱線敷地ヲ當(一本ニ付金四錢)ハ交付期限四十日前別紙第二號書式ニ依リ縣廳
ヘ報告スヘシ

但手當金ヲ不望モノアルトキハ本人ヨリ其届書ヲ徵シ別紙第四號書式ニ依リ縣廳ヘ報告スヘシ

一前項報告後新ニ手當金ヲ要スルモノアルトキハ第三號書式ニ依リ其都度縣廳ヘ報告スヘシ

一電信電話本支柱線敷地ハ臺帳ヲ備置キ異動アル毎ニ加除スヘシ

第一號

第一號(何所何所間)(電信電話柱官有地ニ係ル(新設或ハ異動)調書

柱番號	柱區別	市町村大字	本支	柱線	建設	番地	地號	地目
-----	-----	-------	----	----	----	----	----	----

右ハ明治何年何月中(新設或ハ異動)ニ係ル敷地前記ノ通ニ有之候條此段報告候也

年月日

郡市長 氏

名

印

知事宛

備考

異動證書ハ地目ノ下ヘ事由ノ一欄ヲ設ケ異動ノ事由ヲ掲記スヘシ

第二號

記

郡市町村大字

某外何名

一金何程

但何年何月何日ヨリ何年何月ニ至ル(電信電話)本支線共何本一本ニ付金四錢

右明治何年度(電信電話)柱敷地手當金何年何月ニ於テ支給ヲ要スル金額前記ノ通候條此段報告候也

年月日

郡市長 氏

名

印

知事宛

備考 敷郡ニ涉ルモノハ郡毎ニ内譯記載スルモノトス

第三號

記

郡市町村大字

某外何名

一金何程

但何年何月中新設ニ付同月ニ屬スル一ケ年分(電信電話)本支柱線共何本一本ニ付金四錢

右明治何年度(電信電話)柱敷地手當金支給ヲ要スル金額前記ノ通候條此段報告候也

年月日

郡市長 氏

名

印

知事宛

備考

敷郡ニニ涉ルモノハ郡毎ニ内譯記載スルモノトス

第四號

(明治何年何月明治何年何月新設)以降(電信電話)柱敷地手當金不望者明細書

番

號

本(支)柱敷本敷

郡市町村大字

債

主

氏

名

合

計

右之通候條此段報告候也

年月日 知事宛

郡市長氏 名 印

○茨城縣令甲第十號 (明治廿六年三月八日)

地方約東郵便規則左ノ通改正シ來ル四月一日ヨリ施行ス

地方約東郵便規則

- 第一條 縣廳、警察部、警察署、全分署、直稅署、全分署、間稅署、全分署、監獄署、全支署、全外役所ヲ除ク、及其吏員ヨリ一管内ヲ限、往復シ、ハ諸向ヘ達スル公用郵便物ハ郵便切手ヲ貼用セサルモノトス
- 第二條 前條ノ公用郵便物ト雖、凡書、切手、數料、別配、達料、配達、証明、手、數料、ハ郵便切手ヲ貼付スルモノトス
- 第三條 公用郵便物ハ一箇毎ニ表面ニ公用ノ二字ヲ朱記スルモノトス
- 第四條 公用郵便物ハ縣名、部名、課名、係名ヲ併記シ、又ハ官職氏名ヲ併記スルモノトス

○約束郵便取扱手續更正

明治十八年七月三十一日 日本甲第五十二號

明治十五年本甲第四十七號、約束郵便取扱手續別紙之通更正條、此段相達候也。但縣會全議員常置委員會、全委員、縣立學校病院ニ於テモ、本文手續ニ準據スヘキ旨、其主管ノ科課ヨリ

通達スヘシ

約束郵便取扱手續

- 第一條 管内約束郵便規則(明治十五年乙番外及十八年甲第六十一號)布達ニ列載セル間ニ往復スルモノニ據リ差出スモノハ其發達簿ヲ設備シ豫メ各種(第一第三第四種ヲ云)ヲ部番シ置キ記載スヘシ、但シ各科課ニ於テハ庶務課往復掛ニ送付シ全係之ヲ履行スヘシ
- 第二條 郵便物ヲ郵便局又ハ函場ニ差出サントスルハ種類毎ニ其個數及量目ヲ精査シ各其計數ヲ記載シ置クヘシ
- 第三條 發遣セシ郵便ノ物數、量目ハ後年度ノ締約上ニ於テ專ラ稅額ニ關係スルヲ以テ豫メ注意シテ可成丈ク數件又ハ數個ヲ合セ一封(事ノ緩ナルモノハ二日乃至三日目ニ取纏メ合封スルヲ要ス)トナシ精々個數ヲ減省スヘシ、但シ異種類ノモノハ合封スヘカラス
- 第四條 前條ノ個數及量目ハ一ヶ月毎ニ計査シ翌月十日ヲ限リ左式ノ如ク庶務課ヘ報告ヲナスヘシ
- 第五條 縣會全議員及常置委員會全委員、縣立學校病院ニ於テ發遣セシモノハ其主管ノ科課ニ於テ取纏メ前條ニ從ヒ報告ヲナスヘシ
- 第六條 吏員派出先ニ於テ發遣セシ分ハ其科課署(派出連月ニ涉ルキハ翌月二日迄)ニ報告セシメ、ニ於テ取纏メ科課ハ往復係ニ移牒シ署ハ第四條報告ノ數量ニ合算スヘシ

何月分約束郵便報告表 各科課(縣會學校病院分)ト明記スヘシ

種類	個數	量	目
第一	幾	于	又
第三	全		
第四	全		

右之通ニ候條此段及御報告候也

年月日

庶務課宛

何科課署

○郡甲第四號 (明治十八年一月十五日)

郡役所郵便之儀ハ國家公益ノ事業ニ官民相共ニ專テ郵便ニ依リ書狀ヲ送達スルヲ以テ上下始メテ其便益ヲ享受シ得ルモノニ付實際郵便ニ依リ支障ナキ書狀印刷物ノ類ヲ若シ特使雇人等ヲシテ送達候様ノ義旨之候テハ郵便條例ニ背戾シ公衆ノ便益ヲ妨クルコト不少候條特ニ急速ヲ要スル歟又ハ別段成規アリテ郵便ニ付シ難キモノ、外ハ渾テ郵便ニ依リ送達候様注意可致此旨及内達候事

○茨城縣訓令第六十二號 (明治廿四年七月)

書狀ノ送達ハ郵便條例第六十七條特例各項ノ外ハ總テ必ス郵便ニ依ラサル可カラザルハ今更及訓令候迄モ無之ニ付常ニ注意シ部内テ戒飭シ所屬小使或ハ受員人夫ノ類ヲ使用シ書狀ノ送達ナサシムル

樂ノ儀ハ普テ無之等ニ候得共萬一非法ノ送達ヲ爲シ處分セラル、様ノ儀有之候テハ甚ダ不都合ニ候條必ス右等ノ義無之様厚ク注意スヘシ

○茨城縣訓令第五十二號 (明治廿一年五月十日)

三等郵便局長採用ニ關シ東京遞信管理局長ヨリ照會有之件ハ便宜處辨スヘシ
但本文ノ義直チニ局長へ照會有之時モ全様心得ヘキ旨局長へ達示スヘシ
(各郡長宛)

統計

○内閣統計材料様式

明治二十二年十二月廿三日縣令第五十四號

(郡市)

内閣統計材料別紙様式ニ據リ明治廿二年中ノ分ヨリ精確取調毎年二月十五日限り第一部へ指出スヘシ (様式略ス)

附言

- 一 此表ハ毎歲二月十五日限り指出スモノトス
- 一 此表指出ノ節誤寫或ハ違算アリテ内譯ト合計ト總計ト符合セサル等ノ事アリテハ往復訂正ノ手續ヲ要シ候ニ付誤寫違算ナキ様注意スヘシ
- 一 此様式ニハ各表連續シテ記載スト雖モ各表別紙ニ製スルモ便宜ニ任ス
- 一 其年中事實ナキモノアラハ事實欄内ヘリヲ填シ事實ナキヲ表スヘシ

○農商務統計報告規定

明治廿七年六月廿五日訓令第十一號

農商務統計報告規定左ノ通り相定ム

農商務統計報告規定

第一條 郡市長及町村長ハ毎年左ノ定規報告ヲ爲スヘシ

- 一 農商務統計表
- 一 米作開花ノ景況

一 全成熟ノ景況
一 麥作成熟ノ景況

第二條 郡市長及町村長ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ臨時報告ヲ爲スヘシ但緊急ノ場合ニハ電報又ハ脚夫ヲ以テスヘシ

一 蟲害

一 風雨水旱霜雹ノ害

一 森林ノ火災

一 漁業者ノ遭難

一 其他各種ノ災害及産業上著ルシキ影響ヲ生スヘキ事件ノ發生シタル場合

第三條 統計報告ハ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ報告スルモノトス

但町村長ニ於テ緊急ヲ要スルモノト認メタル事件ハ直ニ知事ニ報告シ同時郡長ヘモ報告スヘシ

第四條 郡市長及町村長ハ部下吏員ノ内統計報告主任ヲ定メ農商務統計調査ニ従事セシムヘシ

但主任者任免ノ都度其人ノ名ヲ當廳ニ報告スヘシ

第五條 市町村ニハ其市町村内ニ於テ相當ノ地位名望ヲ有シ實業ノ狀況ニ精通シ且ツ統計調査ニ適

スル者ノ内ヨリ若干ノ統計調査委員ヲ設ケ市役所及町村役場ノ統計調査ノ事務ヲ補助セシム

但統計調査委員ハ郡市長ノ推選ニ依リ知事之ヲ採擇囑托スルモノトス

第六條 農商務統計調査委員ノ事務左ノ如シ

一 統計材料ノ蒐集ニ補助ヲ與フルコト

一 蒐集調査セシ統計ノ適實アルヤ否ヤノ協議ニ與カルコト

一 統計調査ニ關シ意見アルトキハ知事又ハ農商務省統計主任ヘ之ヲ開申スルコト

○統計取調ノ件

明治十五年七月廿五

日郡甲第八十八號

統計ハ政治上其他諸般事物ノ結果ヲ證明スル重要ノ事件ナルニヨリ材料ノ計査最モ正確ナラサル可
ラス而シテ正確ノ事實ヲ得ルハ其役所ニ於テ材料蒐集ノ際注意ノ周到ナルト否トニ關スル儀ニ候條
一層慎重ニ取扱候様可致此旨相達候事

○統計取調ノ件

明治十五年七月廿

八日丙第四十五號

(兵)

統計ハ政治上其他諸般事物ノ結果ヲ證明スル重要ノ事件ナルニヨリ材料ノ計査最モ正確ナラサル可
ラス元來正確ノ事實ヲ得ルハ當初材料蒐集ノ際注意ノ周到ナルト否トニ關スル儀ニ候條一層慎重ニ
計査可致此旨相達候事

○統計主任ヲ定ム

明治十八年四月廿

五日長甲第廿四號

(郡)

統計ハ政治上其他諸般事物ノ結果ヲ證明スル重要ノ事件ニ有之就テハ郡書記ノ内統計主任者ヲ撰定
シ一層慎重ニ取扱正確調理候様可致且ツ主任者撰定ノ上ハ其官姓名ヲ届出ヘシ此旨相達候事

○統計主任心得

明治十八年八月十日 郡甲第百五號 (郡)

統計主任者心得別冊之通相定候條此旨相達候事

統計主任者心得

- 一 統計ハ政治上其他諸般事物ノ結果ヲ證明スル要具トス
- 一 統計材料ノ科目ヲ概別シテ地積人口行政司法宗教教育慈善保險財政陸軍海軍農業工業商業通運郵便電信日用品ト爲ス
- 一 各主任者ハ其主擔ニ屬スル統計樣式ニ就キ其年分翌年四月十五日限り毎年調製シ之レヲ庶務課統計掛ヘ報告スル
- 一 各主擔ニ係ル材料ノ外他ニ緊要ノ事項アルハ其事由ヲ詳悉シ之レヲ庶務課統計掛ヘ報告スルモノトス
- 一 計査ノ年度ハ歲入出等金穀ノ出納ヲ主トシテ計査スルモノニ限り會計年度其他ノ事物ハ總テ曆年「一月ヨリ十二月迄」ヲ以テ調査ス。モノトス
- 一 會計年度調ハ(甲年四月ヨリ乙三月迄)ノ事實ヲ掲クルモノトス依テ明治十九年中(曆年調)ノ事實ヲ掲クルハ全十八年度會計年度調ノ事實ヲ載スルガ如シ
- 一 郡ノ内二郡以上ヲ併テ一地役所ヲ置ケルモノモ其事實ハ一郡毎ニ掲載スルモノトス

- 一 市街準市街ヲ問ハス人口三千以上群居セル地ヲ以テ市街ト爲ス
- 一 方里ハ地籍編成迄ノ間暫ク現在ノ反別ヲ改算シ其數ヲ取ルモノトス
- 一 表中排列スル所ノ文字ハ總テ數字ヲ用ユルモノトス
- 一 數位記入方ハ此例ニ係ル事實ハ厘位ニ止メ其他ハ總テ四捨五入ノ法ヲ用ヒ一位ニ止ムルモノトス
- 一 數量ノ句點ハ一位ノ傍必ラス厘歩勿合等ノ字ヲ明記スヘシ
- 一 調査未了ノ事實アラハ其欄ヘ「乙」ヲ記入シ登記スヘキ事實ナキモノハ其欄ヘ「一」ヲ記入スルモノトス (以下主擔項目ハ略ス)

○統計表樣式

明治十七年十月三十一日 郡甲第百三十四號 (郡)

客年郡甲第百六十四號ヲ以テ相達置候統計表樣式別冊之通り改定候條毎年四月十五日限り無延滞可差出此旨相達候事

但十六年分ハ本年十二月十五日限り差出スヘシ (樣式略ス)

○雇外國人統計樣式

明治二十年三月十四日 縣令丙第二十號 (郡)

明治十九年以降統計材料左ノ書式ニ據リ毎年一月三十一日限り(十九年分ハ三月廿五日限り)調製差出スヘシ

様式

何郡内僱外國人

毎年十二月三十一日調

國名	人名	勤務場所	職業	月給	雑給
米合衆國		何々製造所	器械力		
何國		何々所	何々々		
何國					
總計					

一 雜給ハ食料宿料地代等ノ月給ニ準スルモノ、一ヶ月分金額ヲ掲載スヘシ

一 年給ノモノハ月給ニ改算シ四捨五入シテ圓位ニ止メ記載スヘシ金銀貨ヲ以テ支給スル者ハ之ヲ區分シテ記載スヘシ

○學事諸表取扱心得

明治二十五年十二月十日 六日縣令乙第十三號

(郡市町村)

學事年報取調條項及諸表様式別紙之通制定ス曆年ノ調査ニ依リ左ノ學事諸表取扱心得ニ準シ調製シ町村長ハ毎年一月十五日限り郡役所ニ差出シ郡市長ハ毎年二月十五日限り縣廳ニ差出スヘシ

學事諸表取扱心得

一 學事年報但學事年報取調條項ニ依リ分類記載スヘシ

一 學事統計表

一 公學費出納表公學所有品及學資寄附表

此三表ハ郡市役所ニ於テ調製シ毎年一回縣廳ニ申報スルモノトス

一 公私立專門各種學校表

一 公私立幼稚園表

一 公私立圖書館表

此三表式ハ公私立專門各種學校及幼稚園圖書館年末調査表ト同様ナルモノナシ郡市役所ニ於テハ調査表ヨリ移記統計シ(公立ト私立ト別表ニスヘシ)毎年一回縣廳ニ申報スルモノトス

一 學齡人員調査表

一 公私立小學校年末調査表

一 公私立專門各種學校年末調査表

一 公私立幼稚園年末調査表

一 公私立圖書館年末調査表

一 公學費出納表

一 公學所有品及學資寄附表

此七表ハ町村役場ニ於テ毎年一回都市彼所ニ差出スモノトス

(別紙)

學事年報取扱條項

一 郡内學事ノ狀況

學事施設ノ要領及學事ノ現狀ヲ概記スヘシ

一 學齡兒童

修學兒童増減ノ緣由就學實資ノ實施其他學齡就學ニ係ル狀況等ヲ記載スヘシ

一 小學校

公立學校設置區域ノ數及校數位置設備等適否ノ況狀單級小學校ノ數其狀況私立學校ノ代用補習科專修科徒弟學校實業補習學校ノ設置及狀況生徒業ノ狀況及父兄ノ職業關シ在學ノ長短學業進否ノ狀況ヲ記載スヘシ

一 教員

教員待遇ノ狀況

一 專門學校及技藝學校設置廢止ノ緣由

教授ノ要旨教員ノ資格生徒ノ増減生徒學業ノ進否卒業生ノ數其他各學科ニ關スル狀況等ヲ記載スヘシ

一 盲啞學校及各種學校

學校設置廢止ノ緣由教授ノ要旨教員ノ資格生徒ノ増減生徒養成ノ狀況生徒學業ノ進否等ヲ記載スヘシ

一 幼稚園

幼稚園設置廢止ノ緣由保姆ノ資格幼兒ノ増減幼兒保育狀況等ヲ記載スヘシ

一 圖書館

圖書館設置廢止ノ緣由圖書ノ増減開館日數閱覽人ノ増減等ヲ記載スヘシ

一 教科用圖書

教科用圖書ノ適否需用供給ノ關係等總テ教科用圖書ニ係ル狀況ヲ記載スヘシ

一 公學資

公立學校等經濟ノ要領授業料徴收ノ方法寄附金等ノ増減學校資財ノ増減學資蓄積ノ方法及増減經費收支ノ方法等總テ學校維持並理財上得失ニ係ル狀況ヲ記載スヘシ
授業料ヲ徴收セスモチテ維持スル學校アルトキハ其校數並維持ノ狀況ヲ記載スヘシ

一 郡會及市町村會

學事ニ係ル議事ノ梗概ヲ記載スヘシ

一 教育會

組織並事業ノ梗概ヲ記載スヘシ

一 學事關係職員

學務擔任郡吏郡視學市町村長學務委員等總テ學務關係職員ノ事務ヲ指揮スル狀況等ヲ記スヘ

學事監督及獎勵

學務擔任郡吏郡視學等巡視監督ノ狀況並滋養生徒等獎勵ノ要領ヲ記載スヘシ

一其學事ニ付申報スヘキ條件ハ便宜類聚記載スヘシ

○一右各項中計數ニ係ルモノハ詳ニ表示スヘシ

○學事統計表公學費出納様式

明治二十六年十二月廿八日訓令乙第三百十六號

(郡市)

學事諸表様式中學事統計表及公學費出納表別紙之通り改正ス自公學費出納表ニ限リ會計年度ニ依リ取調毎年五月限リ差出スヘシ (表式略ス)

○公立學校職員在職年數、年齡、罷免、在職年數表

明治二十五年十二月廿二日縣令丙第三十八號

公立學校職員在職年數及年齡並罷免者在職年數等ノ儀自今左ノ甲乙號表式ニ依リ調製毎年一月三十日限リ縣廳ニ差出スヘシ (表式略ス)

○公學費出納表、公學所有品、學資寄附表調製ノ件

明治二十七年一月十三日訓令第十三號 (町村)

學事諸表様式中公學費ニ關スルモノハ會計年度ニ依リ調査セシムヘキニ付テハ明治二十五年縣令乙第十三號學資諸表取扱心得中町村役場ニ於テ取調ヘキ公學費出納表並ニ公學所有品及學資寄附表ハ

客年十二月訓令乙第三百十六號ノ表式ニ準シ調製シ毎年四月限リ郡役所ニ差出スヘシ

但明治廿六年一月ヨリ三月ニ至ル公學費ニ關スル事項ハ客年十二月訓令乙第三百十七號ノ表式ニ準シ歷年ノ調査ニ依リ同時迄ニ差出スモノトス

○公學費出納表調製ノ件

明治二十七年一月九日官第二號

(師、中)

學事表公學費出納表別紙ノ通改定ス自今會計年度ニ依リ取〇毎年五月限リ差出スヘシ(別紙略ス)

○公私小學校教授者類別、俸額、校費統計表式

明治廿七年五月八日訓令乙第二百三十二號

(郡、市)

本縣統計資料表式トシテ別紙ノ通り相定メ候ニ付第一二表ハ毎年二月第三四表ハ毎年五月限リ本廳ヘ差出スヘシ

但本年ニ限リ第一表ヨリ四表迄五月限リ差出スモノトス

(別紙略ス)

○戶籍表式

明治廿三年十二月十二日縣令乙第十一號

戶籍表式甲乙號之通改正候條毎年十二月三十一日調テ以テ町村役場ハ甲號表ニ據調製翌年一月廿日限リ郡役所ヘ市役所ハ乙號表 據リ同二月廿日限リ差出スヘシ (表式略ス)

○死亡表調製手續 (郡市町村)

明治二十七年六月十日訓令甲第九號

死亡月表及死亡者年齢區別表製手續左ノ通相定ム
但明治十八年十月郡甲第四百三十三號全月乙第一百十二號全年十一月郡甲第五百五十號及二十年四月縣令丙第四十三號達ハ廢止ス

死亡表調製手續

- 第一條 町村役場ハ毎月第一號表式ニ據リ死亡表ヲ調製シ翌月十日限り所屬郡役所へ差出スヘシ但死亡者ハ其町村ニ於テ埋火葬認許証ヲ下付シタル數ニ據ル
- 第二條 郡市役所ハ毎月第二號表式ニ據リ死亡月表ヲ調製シ翌廿日限り又死亡者年齢區別表ハ第三號表式ニ據リ年表トシテ翌年二月十五日限り縣廳ニ進達スヘシ
- 第三條 行倒人又ハ死体ノ棄兒アルトキハ其男女ノ區別及推測ノ年齢ヲ各表欄外ニ記入スヘシ

○雜部

○縣令郡令公布方法

明治二十六年十一月廿四日縣令三十三號
明治廿六年十月勅令第九拾九號ニ依リ縣令郡令公布ノ方法左之通り相定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス

一縣令ハ縣報以テ公布シ郡令ハ郡役所揭示場ニ掲ケ公布ス

○訓令登載ノ件

明治二十四年四月一日縣令乙三號
訓令ハ自今縣報へ登載スルモノトス但都合ニ依リ持ニ配付スルコトアルヘシ

○告示告諭報告公式

明治二十六年十一月廿四日縣令三十四號
本縣告示告諭報告ハ縣報へ登載スルヲ以テ公式トシ來ル十二月一日ヨリ施行ス

○縣報配付ノ件

明治二十六年十一月廿四日訓令甲二十二號 (郡市町村)
來ル十二月一日ヨリ縣令ハ縣報ヲ以テ公布シ告示告諭報告ハ縣報へ登載スルヲ以テ公式ト相定メ候ニ付テハ縣報ハ發行毎ニ各一部ヲ配付ス

○縣令郡令等揭示場へ掲クルノ件

明治二十六年十一月廿四日訓令甲二十三號 (郡市町村)

今般縣令第三拾三號ヲ以テ縣令郡令公布ノ方法並ニ縣令第三拾四號ヲ以テ告示告諭報告ノ形式相定メ候ニ付テハ該令等ハ揭示場へ掲ク又ハ適宜回覽其他ノ方法ニ據可成人民ニ知ラシムル様取計フヘシ

○郡令町村役場へ配付ノ件

明治二十六年十一月廿四日訓令乙二百五十号 (郡)

郡令ヲ公布シタルトキハ同時ニ其印刷物又ハ謄本ヲ町村役場へ配付スヘシ

○訓令適用ノ件

明治二十二年十月十四日訓令百号 (郡)

省訓令ニシテ官報ニ登載アルモノハ自今直ニ其訓令ヲ適用スルコトヲ得

公文例

- 第一條 管内一般又ハ其一部ニ命令スルモノヲ縣令トス
- 第二條 管内一般又ハ其一部ニ告知スルモノヲ告示トシ事ノ諭示ニ屬スルモノヲ告諭トス
- 第三條 官公史學校長等ハ官公署學校ニ令達スルモノヲ訓令トシ事ノ機密ニ係ルモノヲ内訓トス
- 第四條 神職僧侶又ハ會社公共團體等ノ代表者若クハ神社寺院會社公共團體等ニ令達スルモノヲ達トス
- 第五條 願届上申開中等 對シ指率命令スルモノヲ指令トス

- 第六條 訴訟ノ裁決ヲ裁決トシ議員當選ノ判定ヲ判定トス
- 第七條 縣令告示告諭訓令内訓達ニ誤字落字第アリテ之ヲ正スモノヲ正誤トス
- 第八條 縣令告示告諭訓令内訓達ハ各其番號ヲ付スルモノトス
但訓令ノ番號ハ郡市役所町村役場ヲ通シテ發スルモノヲ甲號トシ其他ハ總テ乙號トス事ノ甲乙丙號ニ涉ルモノハ甲號ニ屬スルモノトス
- 第九條 番號ハ毎年之ヲ改メ逐次之ヲ付シ又其番號ハ一般ニ發スルモノト一部ニ發スルモノトヲ區分セス
- 第十條 指印裁決判定モ又各其番號ヲ付スルモノトス
但裁決ト判定トハ其番號ヲ通シ區分セサルモノトス

管内一般ニ發スル縣令告示告諭ノ例

茨城縣令(告示告諭)第何號

何々

年月日

知

事

管内一部ニ發スル縣令告示告諭ノ例

茨城縣令(告示告諭)第何號

何々 (何郡市町村沿海郡市町村)

何々

年月日

訓令甲第何例

茨城縣訓令甲第何號

何々

年月日

訓令乙號何例

茨城縣訓令乙第何號

何々

年月日

官公吏學校長へ發スル訓令ノ例

訓第何號

何々

右訓令ス

年月日

官職氏名宛

知

事

何々 (郡市役所町村役場學校)

知

事

何々 (何部署何郡市役所何町村役場學校)

知

事

内訓ノ例

内訓第何號

何々

右内訓ス

年月日

官職氏名宛

神社寺院會社公共團體へ發スル達ノ例

茨城縣達第何號

何々

年月日

神職僧侶會社公共團體ノ代表者へ發スル達ノ例

茨城縣達第何號

何々

右相達ス

年月日

何々氏名宛

指令ノ例

知

事

何々 (官國弊社何之會社)

知

事

知

事

茨城縣指令第何號

何々(何郡市役所何町村役場官職氏名何々會社)

明治何年何月何日願(届)(第何號伺)(上申)(開申)何々ノ件聞届(聞届何々)候條何々スヘシ(聞置)

(認可ス)(許可ス)(難聞届)(難聞置)(認可セス)(許可セス)(伺(前段)(後段)之通)左之通心得ヘシ

第一條 何々

第二條 何々

年月日

茨城縣指令第何號

明治何年何月何日上申何々ノ件(何郡市町村何々ノ件)

右何々ニ依リ之ヲ認可ス(許可ス)(認可セス)(許可セス)

年月日

裁決判定ノ例

茨城縣裁第何號

裁決(判定)書

何郡市町村大字番地

族籍

訴願人 何

某

右訴願(申立)ハ何々

依テ何々ニ依リ之ヲ受理シ審査スルニ何々右ノ理由ナルヲ以テ裁決(判定)スル左ノ如シ

何々ハ區々ニシテ(取消ス)(取消スヘキ限リニアラス)(又ハ何々(又却下ノ所ハ))
右訴願ハ何々法律勅令ニ訴願ヲ許スノ明文ナキヲ以テ訴願法第九條(申立ハ何々)ニ依リ之ヲ却下
ス

年月日

知

事

正誤ノ例

明治何年何月茨城縣何第何號中何々ハ何々ノ誤(何ノ下何々ノ何字ヲ脱ス)

年月日

書

記

官

○指令書式

明治二十二年一月 十日訓令第一號 (郡)

本年告示第一號ヲ以テ人民ヨリ差出ス諸願届書等ノ副本ヲ廢シ候ニ付テハ其指令ヲ要スヘキモノハ
自分別紙ヲ以テ指示スヘシ

但指令文ハ別紙書式ニ準據シ尙其官戸長(モ諭示スヘシ)

指令書式

何郡役所指令第何號

何府縣何郡區何町村

某

(外何名)

本書ト原書 明治何年何月何日願何々何郡何町村何番字何々地(外何々所合反別)若干拜借ノ件聞
ト割印 届(雜聞届)ヲ一ヶ年料金何圓ヲ以テ明治何年何月ヨリ全何年何月マテ何ヶ年季貸渡
候條明治十八年本縣甲第八十九號及甲第九十一號布達遵守スヘシ
但何々(本文ニテ盡シ難キ場合ニ記載スヘシ)但何年何月ヨリ同何月迄料金何圓ト
心得ヘシ

明治何年何月何日

郡

長

○各課署ニ官報通報担任者ヲ定ム

明治十六年六月廿
七日本甲第廿八號

今般官報發行相成候ニ付テハ各(科)課署ニ於テ通報担任者ヲ定メ各主管ノ事項ニシテ該報ヘ登載ス
ヘキモノト認ムルモノハ其事項ヲ詳記シ(調査科)ヘ送付スヘシ此以相達候也

○官報々告手續

明治十八年二月廿
三日本甲第廿五號

明治十六年本甲第廿八號ヲ以テ官報通報担任者ヲ定メ報告事項通報可致旨達置候得共通報方免角緩
慢ニ流シ不都合候條自今左之通相心得厚ク注意致スヘシ別紙担任者心得書相添此旨更ニ相達候事

官報々告手續

第一官報々告方ハ判任官ノ内正副二名ヲ以テ之ヲ擔任セシメ其姓名ヲ本局ヘ届出且庶務課ヘ報知ス
ハシ

第二官報々告擔任者ハ其主務ノ事項ニシテ官報ヘ登載スヘキモノハ速ニ庶務課ヘ報知スヘシ

第三郡役所ノ官報々告書ハ總テ其主務ノ課ヘ送付スヘシ主務課其送付ヲ得ハ調査ノ上庶務課ヘ報告
スヘシ

第四庶務課ニ於テハ官報々告簿ヲ製シ各科課署ヘ配付スヘシ各科課署ニ於テハ之ニ登記シ毎翌朝
庶務課ヘ回送スヘシ

第五官報々告書ハ要ヲ掲ク費ヲ剛ルヘキハ勿論其認メ方モ官報々告ノ体裁ニ文案スヘシ

官報擔任者心得書

一官報々告書ハ別段ノ事情アルモノヲ除ク外添書ヲ要セス只發遣ノ月日名宛ヲ記シ封紙ノ上發郵
スヘシ

一通常ノ報告ハ普通ノ郵便ニ付シ書留ニ及ハス

一報告書ニハ其事柄ニ關係アル人名場所時日等ヲ詳記スヘシ

一報告事件ノ種類ニ依リ始終連續セサレハ報告ノ用ヲナサハルモノアリ例ヘハ前ニ早魁ノ景況ヲ報
シテ後ニ潤雨ヲ得タルルノ景況ヲ報セス又巡察使等ノ來着ノミヲ報シテ其出發ヲ報セサル如キノ
類是ナリ其他是ニ類スルコト多シ故ニ其始終ニ注意スヘシ

一新聞紙又ハ雜誌ニ於テ本縣ノ公務上若クハ本縣ノ利害ニ關スル重大ノ件ニ就キ誤謬ノ説ヲ掲載シ
タルルハ速ニ其詳悉ヲ報スヘシ

報告事項

- 第一雜事ノ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ
- 一 府知事縣令書記官警部長收稅長ノ上京歸縣又ハ巡回出張等其發着ノ地名時用向及出張巡回ニ付視察ノ狀況
- 二 郡長ノ異動
- 三 勅奏任官以上ノ巡回視察等ニ付到着及出發ノ地名時日及其視察ノ狀況
- 四 緊要ナル諭告諭達ノ類
- 五 廳舎ノ新築移轉等
- 六 較著ナル行爲ニ因リ褒賞ヲ與ヘタルモノ、住所姓名及其行爲ノ顛末
- 七 社寺ニ關スル重要ノ件
- 八 外國人ノ雇入解約
- 九 府縣會ノ開閉並其決議ノ要略及認可不認可ノ項目
- 十 府縣會議員ノ改撰(議員ノ總數並正副議長常置委員ノ姓名)
- 第二兵事ノ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ
- 一 兵事課ニ於テ取扱フ事項

- 二 徵兵使徵兵醫官又ハ鎮台營所アル府縣ニ在テハ檢閱使ノ來着並出發及其徵兵又ハ檢閱ニ係ル狀況
- 三 軍艦ノ出入(港アル府縣)
- 第三學事ノ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ
- 一 師範學校中學校ノ盛衰生徒ノ増減其原由並教則校則ノ制定改正等
- 二 師範學校中學校生徒ノ卒業証書授與及卒業生徒ノ員數
- 三 學務委員會ノ決議又ハ委員ノ報告
- 四 教育會ノ興廢會員ノ増減並其報告
- 五 一般公私立學校其他各種學校ノ教育上ノ景況及生徒ノ増減其原由等
- 第四農事ノ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ
- 一 諸作物ノ景況
- 二 旱害水害蟲害其他作物ノ被害ノ景況
- 三 農業ノ改良又ハ開墾等ノ景況
- 四 特有物産ノ產出高及收納金高並増減其原由等
- 五 種子交換並肥料等ノ得失
- 六 有益ナル農會又ハ農事相談會ノ景況

- 七老農ノ實檢訖其他農事ニ關スル古來慣習ノ參考トナルヘキモノ
- 八山林又ハ水産ニ關スル一切ノ事項
- 第五商業ノ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ
 - 一貿易市場ノ商況(開港場アル府縣)
 - 二急劇ナル物價ノ變動並其原由(臨時報告)
 - 三特有物産ノ市價並其賣捌地方等(毎月報告)
 - 四毎半年間公債證書ノ賣買出入高
 - 五西洋形並日本形船舶(日本形ハ五十石積以上)出入(毎月報告要港アル府縣)
 - 六商法會々議等ノ議決ノ要旨
 - 七商業上慣習ノ參考トナルヘキモノ
- 第六工事ノ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ
 - 一工作製造場等ノ景況並盛衰其原由
 - 二發明工夫ニ係ル事項
 - 三美術ノ景況
 - 四開鑿其他諸般ノ新工事又ハ古來大工事ノ參考トナルヘキモノ

- 右事項ノ外農工商ニ屬スル報告事項ハ左ノ如シ
 - 一農工商諮問會及博覽會共進會等ノ開閉其開會中ノ景況
 - 二勸業委員ノ緊要ナル報告
 - 第七衛生事項ノ報告スヘキ事項左ノ如シ
 - 一傳染病及流行病患者及中毒者ニ係ル報告並停船檢疫等
 - 二地方病ニ係ル記事
 - 三飲食物汚染家屋等ニ關スル衛生事項
 - 四牛馬及鳥畜類等ノ流行病
 - 第八警察事項ノ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ
 - 一警察ニ關シテ褒賞及思給ヲ得タルモノ
 - 二物類ノ事項
 - 三人事々故
 - 四賊難事故
 - 五捕拿罪犯
- 以上ノ諸項ハ一ヶ月毎ニ其概略ヲ報告スヘシ但警察上拔群ノ功勞アルモノ(例ヘハ強盜捕縛方ニ

付)ハ其都度ニ詳細ノ事實ヲ報告スルヲ要ス

六監獄署 景〇囚徒ノ増減種類脫獄等)

七天災並事變等

八火災(官舎學校病院銀行等ノ火災其他通常民家ノ火災ハ凡百戸以上ノ火災ニ至ルモノ)

○官報購求ノ件

明治十八年三月廿八日長甲第十六號 (郡)

官報ハ各戸長役場ニ於テ永遠ニ保存可致モノナルニ據リ自今總テ戸長役場費ヲ以テ購求可爲致此旨訓示候事

○官報購續代價納付ノ件

明治二十四年七月九日隴令第六十一號 (郡)

官報購續代價納付之儀ハ明治二十三年三月内閣訓令第三號ニ準據シ納付スヘキ筈ニ候処右納期ヲ經過スルモ納付ノ遲ニ至ラサル向有之故ニ未納ノ金額多數ニシテ官報局整理上不都合不少趣ニ付該訓令ノ旨ニ趣體シ息納等ノ義無之様厚ク注意スヘシ

○縣報發行ニ付報告ノ件

明治廿四年三月十八日訓令第二十八號 (郡)

來四月ヨリ縣報發行候ニ付テハ郡市會衛生會教育會水利土功會聯合會議事ノ概況並ニ農商工業學事等ノ景況ニシテ公報上必用ト認ムルモノハ其都度報告スヘシ

○縣報原稿報告手續

明治二十四年三月十七日官第三十一號 (部署)

縣報原稿報告手續別紙之通相定ム

縣報原稿報告手續

縣報ハ掲載スヘキ事項左ノ如シ

- 一 訓令
- 二 訓令諭告
- 三 告示
- 四 普通試験報
- 五 官吏叙任及辭令
- 六 公吏進退
- 七 彙報
- 八 廣告

第一縣令訓令諭告々示ハ主務課ニ於テ淨寫シ官房首席ノ認印ヲ受ケ内務部第一課ニ送付スヘシ

第二文官普通試験ニ關スル報告ハ文官普通試験委員長ノ認印ヲ受ケ内務部第一課へ報告スヘシ

第三官吏叙任及辭令公吏進退彙報公告等縣報へ掲載スヘキ事項ノ原稿ハ各主務又ハ官房ニ於テ取調内務部第一課へ報告スヘシ

第四彙報ノ報告スヘキ事項ノ大要左ノ如シ

廳中事項

- 一 官吏ノ發着
- 一 官吏ノ死去及忌引
- 一 非職滿期
- 一 恩給扶助料
- 一 退官賜金
- 一 賞與
- 一 公文毎月受付發布ノ數
- 一 會議ニ關スル事項
- 一 縣會ノ開閉及景況
- 一 常置委員會全上
- 一 郡長會全上
- 一 警察會全上
- 一 稅務會全上
- 一 衛生會全上
- 一 育會全上
- 一 種委員會全上
- 一 警察ニ關スル事項

警察賞與

- 一 新聞雜誌開廢並ニ停禁止解停
- 一 火災
- 一 犯罪人就縛及逃走
- 一 稅務ニ關スル事項
- 一 諸印紙賣捌ノ數
- 一 公賣處分ノ數
- 一 稅則違犯ノ數
- 一 監獄關スル事項
- 一 死刑執行
- 一 賞票下付
- 一 破獄逃走又ハ其企
- 一 懲戒及減刑
- 一 仮出獄
- 一 在監人員
- 一 教育ニ關スル事項
- 一 學力檢定試驗ノ景況
- 一 小學校教員免許狀ノ下付
- 一 學事年報摘要

農工商ニ關スル事項

- 一 作物ノ景況
- 一 蠶糸ノ検査
- 一 工場ノ景況
- 一 農事講習所ノ景況
- 一 試験田畑ノ景況
- 一 土地區畫改正ノ件
 - 衛生ニ關スル事項
- 一 藥品ノ検査
- 一 傳染病ノ景況
- 一 職業ノ開停
- 一 凍水ニ關スル件
- 一 飲用水ニ關スル件
- 一 屠畜場ニ關スル件
 - 土木ニ關スル事項
- 一 道路橋梁修築ノ件
- 一 水利土功ノ件
 - 天變地異ニ關スル事項
- 一 水害

一 激浪

一 山崩

一 大風暴雨及落雷降雹

一 難破船

一 氣象警報告

雜事

一 伺指令

一 復命書

一 奇特者賞與

一 官公署ノ新築及位置ノ變更

第五彙報ノ報告スヘキ事項大略前項ノ如シト雖モ右ノ外公報上必要ト認ムルモノハ報告スヘキモノトス

第六原稿ハ字格端正ヲ主トシ可成楷行書タルヘシ

第七原稿廻付ハ縣報發行定日前々日タルヘシ

但緊急ノ場合ハ此限リニアラス

第八原稿ハ文ノ長短ニ依リ追號分載スルコトアルヘシ

第九彙報ノ原稿ハ記事文体ヲ同一ナラシムル爲メ旨趣ノ變更セサル限リハ内務部第一課ニ於テ字句

ノ修正ヲナスコトアルヘシ

第十縣報へ掲載スヘキ事項ハ内務部第一課ニ於テ取調へ内務部長ノ決判ヲ經ヘシ

但縣令訓令諭告告示官吏叙任及辭令公吏進退其他廳中事項等ノ如キモノニシテ事ノ已ニ確定セ

シモノハ此限リニアラス

第十一縣報ノ收受發遣ハ往復係ニ於テ之ヲ行フ

○縣報原稿ニ朱記ノ件

明治二十四年七月
二日官第六十一號

(部署)

本縣々令ニシテ司法事務關係スルモノハ本年五月司法省訓令第二號ニ依リ縣報原稿ニ其旨朱書シ第
一課ニ交付スヘシ

○出張巡回中歸廳ノ件

本乙第百
四十八號

出張巡回中不經伺歸廳候モノ往々有之候処自今直ニ具狀ヲ要スル節ハ其顛末ヲ詳悉經伺シ指令ヲ得
テ歸廳候儀下可相心得此段相達候也

但非常ノ事件ハ此限リニアラス

○縣廳事務ニシテ郡役所經由

ノ必要ナキモノ取扱ノ件

明治二十六年五月三
十日官第三十二號

(部署)

縣廳主管事務ニシテ事實調査書而訂正却下等事ノ郡役所ニ關セズ從テ之ヲ經由スルノ必要ナキモノ
ハ可成町村役場若シハ出納人へ直接通達候様取計フヘシ

○郡役所處務細則要領

明治二十四年二月廿
八日訓令第一六號

(郡市)

郡役所處務細則ハ左ノ要領ニ基キ更ニ相定メ届出ヘシ

一 郡役所ニ第一課第二課ヲ置キ其事務左ノ如ク分掌セシムルモノトス

第一課

- 一文書圖書保存ニ關スル事項
- 一文書受付發遣ニ關スル事項
- 印章管守ニ關スル事項
- 會議並議員撰舉ニ關スル事項
- 農商務及土木ニ關スル事項
- 學務及衛生兵事社寺戶籍ニ關スル事項
- 右ノ外第二課ニ屬セサル事項

第二課

- 一 縣稅收入備荒儲蓄金支出並租稅外諸收入徵收ニ關スル事項
- 一 町村ノ經濟ニ關スル事項
- 一 郡役所費並郡町村費ノ豫算決算及收支出納ニ關スル事項
- 一 郡役所費並郡費ノ經濟ニ係ル物品保管及出納ニ關スル事項

一右ノ外金銀ノ出納ニ關スル事項

一各課ニ課長ヲ置キ第二課長ハ會計主務ヲ兼掌セシムルモノトス

○郡長委任條件

明治二十八年八月七日告示第五百五十二號

左ニ掲クル條件ハ本月十六日ヨリ郡市長ヘ委任セリ

一戶籍ニ關スル事

但無籍者編籍誤脱訂正幼童ノ跡相續廢嫡及特許ヲ待ヘキ結婚ハ此限ニアラス

二水車建設ニ關スル事

但河川ニ關スルモノハ此限ニアラス

三佛像他管ヘ持出開帳ノ事

四内國船難破及漂流物處分ノ事

五無告ノ窮民ニ五十日以内恤救ノ事

六天災地變ニ際シ公益上急遽必要ノ場合又ハ障害アル場合ニ於テ官有竹木伐採ノ事

七道路及並木取締ノ事

八縣社以下神社並寺院境内枯損竹木處分ノ事

九官有地ニアル民有ノ建物賣買讓與並書入質入證書與書ノ件

十官有地ニ在ル社寺境内特ニ檢定ノ個所三ヶ月以内使用ニ關スル事

十一國稅外諸收入徵收ノ事

十二備荒儲蓄法ノ諸給與並地租貸與貸補助ニ關スル件

十三地方稅並地租貸與金徵收及不納者處分ノ事

十四國稅及地方稅不納者處分ニ係ル買收物品公賣ノ事

十五行旅病死人ノ救護費又ハ仮埋葬費處分ノ事

十六嬰兒迷子處分ノ事

十七藥賣行商鑑札下付ノ事

十八地方稅支辨ニ係ル道路橋梁堤防一夕所金二十圓以内ノ急破修繕ノ事

十九電信電話線柱官有地ニ係ル敷地調査及民有地ニ係ル敷地手當金下渡ニ關スル事

○郡長委任條件

明治二十八年八月十六日訓令第三十二號

一郡書記以下並ニ町村立學校職員歸省及除服ニ關スル事

一郡書記以下管内出張及巡回ニ關スル事

一郡役所雇員ノ進退ニ關スル事

○迎夫願取扱心得

明治二十六年三月十八日訓令第三三號

(郡市)

有子ノ寡婦夫ヲ迎フル願ハ郡市長特任條件第九項但書ニ包含スル儀ト心得ヘシ

○土地處分報告

明治二十年二月十日訓令第三十號 (郡)

特任條件中土地處分ニ係ルモノハ都テ其時々報告候儀ト心得ヘシ

(二十六年七月訓令乙第百十六號ヲ以テ官有地遺漏編入反別訂正ヲ除ク外報告ヲ廢止ス)

○地方稅支辨ニ屬スル工事委任ノ件

明治二十六年三月十日訓令第二十九號 (郡市)

地方稅支辨ニ係ル道路橋梁堤防一々所金額二十圓以內急破修繕ノ義今般委任候ニ付テハ右ニ該當スル破損所ハ設計豫算書ヲ調製シ其時々伺テ經テ修繕差加竣功ノ上ハ其旨届出檢査ヲ受クヘシ但工費ハ檢査濟ノ上請求スベシ

○郡市長會月期日

明治二十七年十一月十四日訓令第三〇號 (郡)

郡市長諮問會ハ自今毎年三月九月ノ兩度ニ開會候條其月廿五日ヨリ每會三日間ノ際定テ以テ當日例刻會同セラルヘシ

但時宜ニ依リ會期ハ伸縮スルコトアルヘシ又開會初日休暇ニ當ルトキハ順次繰下ク

○市役所處務規程準則

明治二十五年八月九日訓令第百十三號 (市)

市役所處務規程ハ左ノ準則ニ基キ更ニ編製シ認可ヲ受クヘシ

市役所處務規程準則

第一章 事務分掌

第一條 市役所ニ庶務課稅務課會計課ヲ置キ其分掌左ノ如シ

庶務課

- 一 文書物件ノ受發ニ關スル事項
- 一 印章管守ニ關スル事項
- 一 市條例ニ關スル事項
- 一 歲入出豫算及決算報告ニ關スル事項
- 一 營造物並財產管理ニ關スル事項
- 一 證書及公文書類ノ保管ニ關スル事項
- 一 會議並議員撰舉ニ關スル事項
- 一 農工商及土木ニ關スル事項
- 一 學務衛生兵事社寺戶籍ニ關スル事項
- 一 度量衡檢査ニ關スル事項
- 一 統計ニ關スル事項
- 一 濟貧恤救棄兒迷兒及行旅死亡人ニ關スル事項
- 一 罹災並無告ノ窮民救助ニ關スル事項
- 一 右ノ外他課ニ屬セサル事項

稅務課

- 一 國稅地方稅其他諸徵收ニ關スル事項
 - 一 地方稅諸營業ニ關スル事項
 - 一 布稅其他市ノ徵收ニ關スル事項
 - 一 地方稅滯納處分ニ係ル買收物品公賣ニ關スル事項
- 會計課
- 一 歲入出決算ニ關スル事項
 - 一 市ノ經濟ニ係ル金穀物件保管ニ關スル事項
 - 一 金錢物品ノ出納ニ關スル事項
 - 一 物品ノ購入及賣却ニ關スル事項
 - 一 國稅地方稅及市稅其他諸收入ニ關スル事項

第二章 處務順序

- 第二條 凡市役所ニ到達スル文書ハ受付簿ニ其件名ヲ登記シ市長見聞ノ末主務者ニ交付スヘシ
但親展書ハ封ノ儘宛名ノ本人ニ交付スヘシ
- 第三條 執務時間中到達シタル文書ハ即日其後ニ到達シタル文書ハ翌日交付スヘシ
但至急ヲ要スルモノハ此限ニアラス
- 第四條 主務者ニ於テ文書ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ處分案ヲ起草シ市長ノ決判ヲ得テ之ヲ執行スヘシ

- 第五條 回議案ハ字体ノ正格ヲ旨トシ若シ修正改竄ヲ要スルトキハ朱書訂正シ必ス認印スヘシ
- 第六條 退廳後又ハ休日ニ於テ至急ノ事件ヲ處理スル爲メ印章ヲ要スルトキハ市長ノ決判ヲ宿直員ニ示シ立會ノ上押捺スヘシ

第三章 服務心得

- 第七條 吏員登廳セントスルトキハ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第八條 役所昇降時限ハ第一監督官廳ニ準ス
- 第九條 病氣其他事故アリテ出勤スルヲ得サルトキハ其旨届出ヘシ
- 第十條 吏員ハ退出時限ニ至ルト雖モ市長執務中ハ退出スルコトヲ得ス
- 第十一條 非常ノ事變アルトキハ吏員ハ速ニ役所ニ參集シ市長ノ指揮ニ從フヘシ

第四章 宿直心得

- 第十二條 緊要ノ物件ハ主務者ニ於テ封印ノ上日々宿直ニ預クヘシ
- 第十三條 宿直ハ吏員交替シテ之ヲ爲ヌモノトス
- 第十四條 宿直中ハ外出スルヲ許サス但急病若クハ不得止事故出來シタルトキハ次番者ニ通報シ其出勤ヲ俟テ退出スヘシ
- 第十五條 宿直中到達シタル文書ニシテ至急ヲ要スルモノハ直ニ處分ノ手續ヲ爲ヌヘシ

第十六條 非常ノ事變アルトキハ諸帳簿並ニ必要物件等保護スルハ勿論總テ時機時ノ處置ヲ爲スヘシ

○町村役場處務規程準則

明治二十五年八月九日訓令第四百十四號 (郡町村)

町村役場處務規程ハ左ノ準則ニ基キ適宜之ヲ設定シ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

町村處務規程準則

第一條 町村役場ニ庶務係稅務係會計ヲ置キ其分掌左ノ如シ

庶務係

- 一 文書物件ノ受發ニ關スル事項
- 一 印章管守ニ關スル事項
- 一 町村條例ニ關スル事項
- 一 歲入出豫算及決算報告ニ關スル事項
- 一 營造物並財產管理ニ關スル事項
- 一 諸證書及公文書類ノ保管ニ關スル事項
- 一 會議並議員撰舉ニ關スル事項
- 一 農工商及土木ニ關スル事項
- 一 學務衛生兵事社寺戶籍ニ關スル事項
- 一 統計ニ關スル事項

一 濟貧恤救棄兒迷兒及行旅死亡人ニ關スル事項
右ノ外他係ニ屬セサル事項

稅務係

- 一 國稅地方稅徵收ニ關スル事項
- 一 町村稅其他町村ノ徵收ニ關スル事項

會計係

- 一 歲入出決算ニ關スル事項
- 一 町村ノ經濟ニ係ル金穀物件保管ニ關スル事項
- 一 金錢品ノ出納ニ關スル事項
- 一 物品購入及賣却ニ關スル事項
- 一 國稅地方稅町村稅其他諸收入ニ關スル事項

第二條 凡役場ニ到達スル文書ハ受付簿ニ其件名ヲ登記シ町村長閱覽ノ末主務者ニ交付スヘシ
但親展書ハ封ノ儘宛名ノ本人ニ交付スヘシ

第三條 主務者ニ於テ前條交付ヲ受ケタルトキハ速カニ所分案ヲ起草シ町村長ノ決判ヲ得テ之ヲ執行スヘシ

第四條 回議案ハ字体ノ正格ヲ旨トシ若シ改竄ヲ要スルトキハ朱書訂正シ必ス認印スヘシ

第五條 役場昇降時限ハ第一監督官廳ニ準ス

第六條 町村長以下出勤セシトキハ出勤簿ニ捺印スルモノトス

第七條 町村長以下疾病其他ノ事故アリ欠勤セントスルトキハ其旨届出ルモノトス

第八條 町村長以下交齊シテ宿直ヲ爲スモノトス

第九條 緊要ノ物件ハ封印ノ上宿直員ニ領ク置キ宿直員ハ翌朝主務者へ返付スヘシ

第十條 宿直中到達シタル文書ニシテ至急ヲ要スルモノハ直ニ所分ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 宿直中ハ外出スルヲ許サス

但急病若クハ不得止事故出来シタルトキハ次番者へ通報シ其出勤ヲ俟テ退出スヘシ

第十二條 宿直中非常ノ事變アルトキハ諸帳簿並心要物件等保護スルハ勿論總テ臨機ノ處置ヲ爲ス

ヘシ

第十三條 全上ノ場合ニ於テハ役場員ハ速ニ參集シ町村長ノ指揮ニ從フヘシ

○事務受渡手續

明治十八年十月十

五日本甲七十二号

本縣各掛課署並ニ郡役所廢設分合及官吏轉免更迭ノ際事務受渡手續左ノ通相定候條右ニ照準可致候此段相達候也

事務受渡手續

第一條 事務引繼ハ府縣官事務受渡書式ニ照準諸物件受渡目錄ヲ製シ其未定結ニ係ルモノハ手續及

見込共詳細ナル演說書ヲ添ヘ速ニ引渡ヲ爲スヘシ

第二條 引渡事件ノ中繁雜錯雜ニ涉ル敷又ハ金錢收支ニ關スルモノハ一層詳明ニシ疑義ノ廉ハ綿密ニ質疑シ他ト前任者ニ就カサルモ所辨シ得ヘキ様注意受授ヲ了スヘシ

第三條 引渡事件ノ中其所分例規ニ背戾シ引受難キト認メタルモノハ其事由ヲ具申シ縣令ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條 引渡ヲ受ケタル後不都合アル時ハ其責メ後任者ニ歸スヘシ故ニ引渡ヲ受クル際厚ク注意ス

ヘシ

第五條 前各條ノ手續ヲ了シ受授完結ノ上ハ双方連署シ其旨縣令へ届出ヘシ

但各係官吏ハ課長へ届出スヘシ

○茨城縣警察官吏事務受渡規則

明治十七年二月 一日本乙第十號

(警)

茨城縣警察官吏事務受渡規則

第一章 總則

第一條 本則ハ警察官吏轉免交迭ニ際シ事務ノ錯雜ナキヲ要シ其受渡ノ順序ヲ定ムルモノトス

第二條 事務受渡ハ第二章以下ノ區別ニ從ヒ之ヲ爲スヘシ

第三條 受渡ノ書類ハ其確實ナルヲ要スル爲メ眞書ニ記載スヘシ改竄挿入シタルトキハ双方之ニ捺

印スヘシ

第二章 部長警察署長分署長

第四條 部長警察署及分署長ニ於テ轉任又ハ解職セシトキハ辭令ヲ受ケタル翌日ヨリ五日(休暇日
數ヲ算入ス)以内ニ一切ノ事務ヲ調査シ第七條第八條ニ記載スル様式ニ從ヒ新任ノ部長又ハ署長
分署長ニ事務引繼ヲ爲スヘシ

第五條 前條ノ場合ニ於テ新任ノ部長又ハ署長分署長赴任セサルトキハ次席ノ警部(警部補)又ハ上
席巡查ニ其引繼ヲ爲スヘシ

第六條 前條ノ引繼ヲ受ケタルモノハ部長又ハ署長分署長赴任ノ上更ニ其引繼ヲ爲シ受渡書ノ末尾
ニ部長又ハ署長分署長ノ署名捺印ヲ要スヘシ

第七條 事務受渡書及届書ノ様式ヲ示ス左ノ如シ

受渡書

第一 費目

一金何圓 (受渡ノ節現在金額ヲ掲ク)

警部諸費

外

金何圓

假拂未決算高

金何圓

何月ヨリ何月迄精算仕上済

一金何圓 (全上)

警察費

外

金何圓

假拂未決算高

金何圓

何月ヨリ何月迄精算仕上済

一金何圓 (全上)

雜收入

内

金何圓

違警罪科料金

金何圓

密賣淫罰金

金何圓

巡查何ノ誰外何人解職被服代返納

金何圓

巡查何ノ誰懲罰金上納

金何圓

警部巡查積金

金何圓

何々

合金何圓

書籍

第二

一法令彙纂

何冊

一官令新誌

何冊

一刑法治罪法合卷

何冊

一何々

何冊

合計何冊 備付品原簿ト其冊數ヲ異ニスルトキハ其差異アル理由ヲ付記スヘシ

第三

簿册

一文書受付簿

何冊 何年分ヨリ何年分迄

一何々

何冊 全上

一何々

何冊 全上

合計何冊 簿冊ノ存廢ニテ増減アルトキハ之ヲ付記スヘシ

第四 備付品

一卓振

何脚

一椅子

何脚

一書籍箱

何個

一何々

何個

合、何紙 破損等ニテ新規買上ケ若クハ修復中ニテ原簿ト符合セサルトキハ其現由ヲ付記スヘシ

第五 預置品

一金何圓

一何品

何個

右ハ年月日何郡町村某カ何処ニ於テ拾ヒ得届出タル遺失物又ハ何々品ニ付云々處分スヘキ分

一金何圓

一何々

何個

一何々

何々

右ハ年月日何郡町村某方へ賊捨去リタル物品ニシテ某ヨリ届出テ又ハ檢証ノ際發見セシ物品

若クハ何々ノ品ニ付云々處分スヘキ分

合計 金何圓何十錢物品何個

右之通(何部何警察署何分署)ノ事務受渡ヲ爲シ其確實ヲ証スル爲メ左ニ連書捺印セリ

年 月 日

元何部長警察署長分署長 官 姓 名 印

何部長警察署長分署長 官 姓 名 印

第六 事務受渡届書様式

事務受渡ノ儀御届

何部何警察署何分署ノ事務何月日受渡相濟候間此段御届ケ及候也

年 月 日

元何部何警察署何分署長 官 姓 名 印

何部何警察署何分署長

官 姓 名 印

縣 令 宛

第八條 左ニ記載スル事項ハ第四條第五條ノ例ニ從ヒ事件毎ニ演說書ヲ付シ引繼チナスヘシ

但第六條ノ手續ヲ要セス

第一 處分中ノ事件

一何々ノ件

此事件ハ云々 從來取扱ノ手續キ及ヒ從來處分ノ見込等ヲ詳記スヘシ

一何々ノ件

全上

合何件

第二 行政上参考ノ件

- 一 所属人口
- 一 全戸數
- 一 全地形 某地方ハ山間崎嶇ノ間ニ在テ運輸甚ク便ナラス某地方ハ水利盛モ便ニシテ船舶等ノ類
- 一 風俗 某地方ハ一般質掠ノ風アレ共又何々ノ惡弊アリ某地方ハ狡黠ノ風アレモ商業最盛ナリ等ノ類
- 一 政社 全上
- 一 分署派出器ノ便否及ヒ増減ノ意見

第三章 各部各署在勤警部(警部補)

第九條 警察本署及ヒ各警察署在勤警部(警部補)ニ於テ轉任又ハ解職セシトキハ左ノ例ニ從ヒ辭令ヲ受ケタル翌日ヨリ三日(休暇日數ヲ算入ス)以内其擔任セシ事務ヲ調査シ本署ハ各部長ニ警察署ハ其署長ニ差出スヘシ内勤ニ從事スル巡查ノ轉免スル時亦同シ

擔任處分中ノ件

一 何々ノ件

此件ハ云々 從テ取扱ノ手續キ及從來處分ノ見込ヲ詳記スヘシ

一 何々ノ件

此件云々 全上

右ハ今般(轉任解職)候ニ付何部署ニ勤務中擔任處分中ニ係ル事件前書ノ通り取調及御引渡候也

年 月 日

元何部署 官 姓 名 印

第十條 轉任解職ノ者第四條及ヒ第九條ノ日限内ニ引繼チナシ得サル事由アルトキハ警部長ニ具狀

シテ承認ヲ得ヘシ

第十一條 轉任又ハ解職ノ命ヲ受ケタル者未タ其事務ノ引繼チサスト雖モ新タナル事務ハ後任者若

クハ其代理者ニ於テ之ヲ執行スルモノトス

○出納官吏交替事務引繼ノ件

明治二十四年一月廿日訓令四号

(收入官吏)

客年十二月大藏省訓令第五百十三號ヲ以テ全省訓令第五十四號出納官吏交替ノル事務引繼手續中第九條及第四号書式ヲ消除セラレタルニ付テハ自今更迭ノ際後任者ハ事務引繼チ了シタルトキハ其引繼濟年月日ヲ本廳ヘ届出ベシ

○市町村長助役等事務受渡規程

明治二十五年八月九日縣令乙十号

(郡市町村)

市町村長助役收入役及市參事員交代ノ節ハ左ノ規程ニ據リ事務受渡チナスヘシ
但明治廿二年十一月茨城縣令丙第四七號ハ廢止ス

事務受渡規程

第一條 市町村長助役收入役及市參事會員退職シタルトキハ在職中ノ管掌事務ハ市町村長ハ七日以
内ニ其他ハ三日以内ニ引繼ヲ爲スヘシ

第二條 事務受渡ヲ結了シタルトキハ互ニ受渡ノ證書ヲ交換シ新舊吏員運署ノ上市町村長ハ直チニ其
他ハ市町村長ヲ經由第一次監督官廳ヘ届出ヘシ

第三條 事務受渡第一條ノ期日以内ニ結了シ難キ場合ニ於テハ其事由ヲ詳記シ更ニ期日ヲ定メ新吏
員運署ノ上市町村長ハ直チニ其他ハ市町村長ヲ經由第一次監督官廳ノ許可ヲ受ヘシ

第四條 市町村長事務ノ受渡ハ左ノ各項ニ據ル

但市參事會員及助役ニ分掌シタル事務ハ其要項ヲ演說シ收入役ノ主管ニ係ル金穀物品ハ其任譯書
ヲ引繼クヘシ

一 諸法令圖書簿冊其他公文書等ノ類ハ目錄ヲ添付スヘシ

二 國稅地方稅市町村稅等總テ收入金ハ既未納チ區分シタル任譯書及ヒ其事由ヲ明記シタル演說書
ヲ引繼クヘシ

三 金錢ノ出納ニ關スル決算簿ノ受取證書ニハ目錄ヲ添付スヘシ

四 市町村ノ諸證書ニハ目錄及ヒ其事由書ヲ添付スヘシ

五 市町村有ノ財産及ヒ營造物ハ任譯書ニ明細ナル演說書ヲ添付スヘシ

六 處分未結了ノ事件又ハ著手中ノ事業ハ從來取扱ノ順序方法及ヒ將來ノ目的ヲ詳悉シタル演說書
ヲ添付スヘシ

第五條 市參事會員及助役ノ分掌事務受渡ハ前條ノ例ニ據ル

第六條 收入役事務ノ受渡ハ左ノ各項ニ據ル

一 國稅地方稅市町村稅等ハ總テ收入支出ヲ區分シタル任譯書ニ其事由ヲ明記シタル演說書ヲ添付
スヘシ

二 現在ノ金穀物件ハ其種類ヲ區分シタル目錄ヲ添付スヘシ

三 市町村ノ諸證書ニシテ其主管ニ係ルモノハ目錄及ヒ其事由書ヲ添付スヘシ

○市町村長助役事務受渡ニ關スル件 明治二十二年十二月 (郡)

五日訓令第百十二號

市町村長管掌事務受渡規則今般縣令丙第四十七號ヲ以テ相定候ニ付テハ町村長退職ノ事務受渡方

篤ト注意スヘシ

○町村長事務引繼報告 明治二十二年五月 (郡)

八日訓令第六十號

町村長就職町村役場ヲ開設シ及事務引繼チ了シタルトキハ其都度報告スヘシ

○簿書編纂及保管規程

明治二十六年四月 (部署)
六日官第百二十二號

簿書編纂及保管規程左之通相定ム

但明治二十年官第七十一號簿書保存規程及同年官第一百十二號書類保存期限廢止ス

簿書編纂及保管規程

第一條 本規程ニ掲クル簿書トハ法規令達其他一切ノ公文書類ノ編纂セシモノヲ云フ

第二條 簿書ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一種

一 法規令達

一 官廳往復

一 諸願及建言書

一 會計諸帳簿及諸證書

一 諸臺帳

一 諸名簿

一 統計表及諸表

一 褒賞及恤救ニ關スル書

一 刑事ニ關スル書

一 圖書及記錄書

一 其他年ノ徵證トナルヘキモノ

第二種

一 管内外文書發遣受付簿

一 廳中往履及發遣受付簿

一 官吏願及屆書

一 官報々告諸統計表諸取調諸報告材料

一 宿直日誌

一 其他々年ノ徵證トナスニ足ラサルモ參照ニ供スヘキモノ

第三種

一 一時ノ受書及屆書

一 新聞雜誌

一 其他事輕易ニシテ一時ノ處辨ニ止マルモノ

第三條 知事官房各部署式ハ各課毎ニ簿書編纂主任ヲ置キ簿書ノ編纂ヲナサシム (廿六年五月四日)

官第二七号改正

第四條 各課ニ於テ簿書ノ部類ヲ分ケ其名稱ヲ定メ置クヘシ

第五條 處分濟ノ書類ハ其主任ニ於テ餘白ニ種類及部類ヲ朱書シ簿書ハ編纂主任ニ回付スベシ

第六條 簿書編纂主任ハ前條書類ノ回付ヲ受ケタルキハ先ツ之ヲ假綴トナシ一ケ年毎ニ目次ヲ付シ

本綴トナスヘシ其小冊ニ涉ルモノハ二ケ年若クハ三ケ年ヲ連綴スルモ妨ケナシ

但會計年度ニ係ルモノハ其年度ニ據ル

第七條 一事件ニシテ各種運送スルモノハ其重ニ就キ編纂スベシ

第八條 本綴トナシタル簿書ハ種類名稱年月等ヲ表紙及端口ニ記載シ之ヲ簿書保管主任ニ引繼クベシ

第九條 知事官房各部署ニ簿書保管主任ヲ置キ簿書ノ保管ヲナサシム(廿六年五月五日官第二七号)

改正)

第十條 簿書ノ保存期限ヲ定ムル左ノ如シ

第一種 永年

第二種 五十年

第三種 一十年

第十一條 簿書保管主任ハ第八條簿書ノ引繼ヲ受ケタルルハ簿書臺帳ニ登載シ之ヲ文庫ニ藏ムベシ

第十二條 文庫内ハ各課毎ニ區分シ書籍書棚ニ種類年度ヲ付記スベシ

第十三條 文庫内之簿書ヲ閲覧セシムルルハ可成保管主任ニ於テ立會フヘシ

但執務時限外ハ宿直員ニ於テ立會スベシ

第十四條 簿書ヲ貸付スルルハ貸渡帳ニ記載捺印セシムベシ

第十五條 簿書ヲ毎年夏季土用中保管主任ニ於テ蟲害ヲ防クベシ

第十六條 保存期限ヲ過キタル簿書ハ保管主任ニ於テ目錄ヲ作り知事ノ裁可ヲ經テ棄却ノ手續ヲナスヘシ

第十七條 第一種ノ簿書ハ十年毎ニ保管主任各課主務員ト共ニ之ヲ調査シ不用ト認ムルモノハ主務

課ニ合議シ知事ノ裁可ヲ經テ棄却ノ手續ヲナスヘシ但刑事ニ關スル書類ハ訴時効ノ二倍過タルト

キハ直ニ棄却スルコトヲ得

第十八條 警察署分署直間稅分署監獄支署ハ本規程ニ準據スヘシ

○收入官吏簿册保管心程 明治二十三年五月十日訓令第五十一號 (出納官吏)

收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ備フル所ノ諸簿册取扱心得左之通相定ム

簿册保管心得

一收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ備フル所ノ諸簿册ハ渾テ該官吏保管ノ責ニ任スヘシ

一前項諸簿册ヲ故意若クハ怠惰ニヨリ忘失毀損シタルトキハ之ニ對スル相當ノ代價ヲ辨償スヘシ

一直接ニ保管ノ責ヲキモノト雖モ前項ノ場合ニ於テハ其責任ヲ免カル、コトヲ得ス

○郡役所簿册編纂規程 明治二十六年五月三十日訓令乙第八十號 (郡)

郡役所簿書編纂規程ハ左ノ準則ニ基キ更ニ編製シ認可ヲ受クヘシ

簿書編纂規程準則

第一條 本規程ニ掲クル簿書トハ法規令達其他一切ノ公文書類ヲ云フ
第二條 簿書ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一種

- 一 法規令達
- 一 諸願伺
- 一 會計諸帳簿及諸證書
- 一 諸臺帳
- 一 諸報告(町村行政ニ關スル報告中一項五項六項九項十項十三項ノ類)
- 一 各所往復
- 一 其他他年ノ徵證トナラヘキモノ

第二種

- 一 文書發遣受付簿
 - 一 吏員願及届書
 - 一 諸報告(町村行政ニ關スル報告中二項四項七項八項十一項十二項十四項十五項ノ類)
 - 一 統計表及諸報告之材料
 - 一 其他々年ノ徵證トナスニ足ラサルモ參照ニ供スヘキモノ
- 第三種
- 一 一時ノ受書及報告届書
 - 一 新聞雜誌

一 其他事輕易ニシテ一時ノ處分ニ止マルモノ

第三條 各課ニ簿書編纂保管主任ヲ置キ簿書ノ部類ヲ分テ其名稱ヲ定メ之ヲ編纂セシム

第四條 簿書編纂保管主任ハ所分濟ノ書類ヲ纏メ假綴トナシ一ケ年毎ニ目錄ヲ付シ本級ノ簿書臺帳ニ登載シテ保管スヘシ

第五條 簿書ノ保存期限ヲ定ムル左ノ如シ

第一種 永年

第二種 五ケ年

第三種 一ケ年

第六條 簿書ヲ貸付スルハ貸渡帳ニ記載シ捺印セシムヘシ

第七條 簿書ハ毎年夏期土用ヲ期シ出テ爲シ盜害ヲ防クヘシ

第八條 保存期限ヲ過キタル簿書ハ目錄ヲ作り郡長ノ指揮ヲ得テ棄却ノ手續ヲナスヘシ

第九條 第一種ノ簿書ハ十ケ年毎之ヲ調査シ不用ト認ムルモノハ郡長ノ指揮ヲ得テ棄却ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 第二種ノ簿書ニシテ保存期限ヲ過クルモ尙必要ト認ムル者ハ郡長ノ指揮ヲ得テ保存ノ手續ヲ爲ヘシ

○舊記保存ノ件

明治十四年五月二十日長甲十三号

(郡)

舊記類保存之義ハ豫テ公達之趣キ有之候處近來破册或ハ賣却方退々散佚ニ歸シ候向モ不少哉ニ相聞候今後別紙概目ノ書類ニシテ部内人民ノ蓄藏見聞ニ及候ハ、其人名書目並記事之槩旨ヲ錄シ記録科ヘ可指出且ツ平素搜求方之儀ハ郡書記出張之節尋問又ハ戸長等ヘモ豫テ申合メ置キ精々注意致シ毎年未有無共記録科ヘ心ス可届出此旨相達候事

舊記概目

- 一 舊村吏公用留手扣ノ類
- 一 各村古地圖類
- 一 新田開發并分台村名沿革等ノ留記
- 一 江堰橋梁堤防等普請方ノ留記
- 一 貢租割賦方留記
- 一 孝子貞婦奇特者ノ褒賞事蹟等ノ留記
- 一 各村故事古跡等筆記
- 一 舊代官所旗本給所並各藩領地沿革等留記
- 一 各村舊家ノ由緒書古系圖類
- 一 各村社寺由緒並棟札類ノ留記
- 一 但大寺舊社ノ文書已ニ保存法相立候分ハ除ク
- 一 總テ置縣以前郡村ノ地理沿革ニ關係シ並各村規模ヘ可相成書類

右槩目ノ類ニ而荷モ沿革事蹟ノ徵スヘキ留記書類ハ搜求可致事

○市役所町村役場簿册編纂準則

明治二十五年八月九日訓令百十五号

(郡市町村)

市役所町村役場ノ簿册ハ左ノ準則ニ據リ編纂スヘシ
但明治二十五年六月訓令第六四號ハ廢止ス

簿册編纂準則

- 第一條 簿册編纂ハ左ノ類別ニ據ル
 - 一 受付簿 (第一號樣式)
 - 一 發遣簿 (第二號樣式)
 - 一 郵便電信功手受拂簿 (第三號樣式)
 - 一 物品受拂簿 (第四號樣式)
 - 一 財產原簿 (第五號樣式第六號樣式)
 - 一 吏員出勤簿 (第七號樣式)
 - 一 官報綴
 - 一 縣報綴
 - 一 諸令達綴
 - 一 伺司令綴
 - 一 上申及報告綴
 - 一 各所往復綴

- 一 告示並通達按綴
 - 一 豫算書綴
 - 一 決算書綴
 - 一 市町村會關係書綴
 - 其他必要ノモノハ適宜編綴スルモ妨クナシ
- 第二條 郵便電信功手受拂簿物品受拂簿ハ會計年度其他ハ總テ曆年度ニ據ルモノトス
但財産原簿ハ此限ニアラス

第三條 簿冊ハ總テ目錄ヲ付シ番號及ヒ摘要ヲ記載シ索引ニ便ナラシムヘシ

(様式零ス)

○執務時間

明治二十七年四月
十九日告示六五号

自今當廳執務時間左ノ通り

- 四月廿日ヨリ七月十日迄 午前八時ヨリ午后四時ニ至ル
 - 七月十一日ヨリ九月十日迄 午前八時ヨリ正午十二時ニ至ル
 - 九月十一日ヨリ十月九日迄 午前九時ヨリ五時ニ至ル
 - 十月十日ヨリ二月十日迄 午前八時三十分ヨリ午後四時三十分ニ至ル
 - 二月十一日ヨリ四月十九日迄 午前九時ヨリ午後五時ニ至ル
- 但土曜日日曜日ハ從前之通

○郡番記管外出張ノ件

明治二十八年四月
月二日訓令八号

郡番記管外出張ノ義ハ其時々經伺スヘキ等ノ處豫備徵員引率トシテ出張ノ場合ニ限リ特ニ經伺ヲ要セス

○郡吏官印

明治十二年二月十
七日郡甲六十八号 (郡)

郡番記公務上ニ關スル書類ニ相用候印章ノ義ハ明治八年六月第百拾號公達ニ準シ印材ハ黃楊ヲ用ヒ方六分(曲尺)ニ製造シ茨城鐵何々郡番記何某ト彫刻シ各員ヘ可相渡此旨相達候事
但轉免ノ節ハ其郡役所ヘ可爲相納ハ勿論明治六年第二百二拾號公達ノ通私ニ用ユル義ハ不相成候事

○戸長及書記認印寸法

明治二十年一月
九日訓令四号警 (郡)

戸長及書記ノ公簿ニ押捺ス認印ハ自今凡經四分ニシテ姓名トモ彫刻シ使用セシムベシ

○祝祭日參拜ノ件

明治二十二年十月
十五日官第八七號 (各郡)

從來祝祭日ニハ縣廳ニ於テ遙拜式施行致來候處自今左ノ祭日ノ外便宜嚴寄神社ニ於テ參拜スヘシ

- 一月一日 四方拜 二月十一日 紀元節
- 三月三日 神武天皇祭 十一月三日 天長節

○願伺届書等年號月日記入ノ件

明治十年十一月十二日
日乙第百六十四號

諸願伺届トモ総テ年號月日ヲ記載スヘキハ勿論ニ候處中ニハ年號月ノミ記載シ差出候向問々有之右ハ其期限ヲ要スルモノニ至テハ期日内外ヲ以テ取捨スルノ都合モ有之調査上差支候ニ付必年號月日ヲ記載シ可指出如シ期限ヲ要シ相違候届書等ノ内年號月ノミ記載シ指出候分ハ時期ニ依リ期限内ノ効ナキ者ト見做シ候條此旨布達候事

但調印之儀モ本人無印區戸長等ノミ捺印ニテ指出候向モ問々有之ニ付粗漏無之様注意可致候事

○願伺届書ニ表紙ヲ付スルニ及ハス

明治十一年一月十日
日丙第一號

是迄諸願伺届書ニ表紙ヲ附シ差出來候処右ハ輕便ヲ要スル爲メ自今其儀ニ不及候條此旨布達候事但願伺届等書面ノ首行ヘハ必ス其件名ヲ記載可致事

○願伺届白紙ヲ用ルノ件

明治十三年三月廿五日
日乙第百四十三號

人民願伺届用紙ノ儀半紙十行野摺可相用旨明治十年十一月乙第百六十六號ヲ以テ布達オヨビ置候処自今無對半紙相用不苦候條上下可成丈餘白ヲ存シ可致記載此旨布達候事

○公文用紙使用ノ件

明治二十一年二月十日
五日訓令第十七號

諸上申伺書等ニ美濃紙又ハ美濃判西洋紙及半紙等ヲ各郡役所ニ於テ區々ニ使用候ヨリ保存上不整理ナルハ勿論美濃紙等ノ如キハ自然不經濟ニモ相成候條自今成規アル書類及他府縣官衙ヘ應答ニ要ス

ルモノ、外総テ半紙又ハ半紙判西洋紙ヲ使用スヘシ

但永遠保存ニ屬スル書類ハ簿記用ノ外西洋紙ヲ使用スヘカラス

(各郡長宛)

○同上申副本ヲ要セス

明治二十一年十月四日
日縣令乙第二十四號

(郡戸)

○同上申等ハ自今副本ヲ差出スニ及ハス

○願伺届書端書ヲ使用スルノ件

明治二十二年一月十日
告示第一號

本廳並所屬官衙ヘ差出ス諸願伺届書ハ自今副本ヲ要セス

但國稅檢査員派出所ヘ差出スモノハ郵便葉書ヲ用ユルモ若シカラス

○保存文書ニインキヲ用ユヘカラサルノ件

明治十八年七月八日
日乙第七十一號

(郡戸)

保存ニ屬スル文書ニ洋製墨汁(インキ)ヲ用ヒ候儀不相成候條此旨布達候事

○三願書經由ノ件

明治十九年九月四日
告示第廿六號

今般縣令甲第六號同七號ヲ以テ郡長便宜施行ノ件及委任條件相定メ候ニ付テハ縣廳直轄ニ係ル諸願出ハ自今郡長ヲ經由スルニ及ハス

○一書調印ニ代フルニ認印ヲ以テスルノ件

明治廿二年七月四日
日縣令乙第十七號

(郡市町村)

人民請願伺届ノ内成規アルモノヲ除クノ外従前ノ與書訓印ヲ廢シ之ニ代フルニ該書面ノ表欄外ニ市町村長認印スヘシ

但意見アルモノハ其事由別ニ副申スヘシ

○却下スヘキ書類送達ノ件

明治十九年九月十五
日縣令丙第十八號

(戶)

人民ヨリ差出シタル諸願書等指令又ハ却下候節ハ本人所在地戸長役場へ(但或事情ニ依リ他願合町村戸長ノ與書ヲ要シタルモノハ該戸長役場へ)送達候條該戸長役場ニ於テハ直ニ本人へ下渡方取計フヘシ

○郡役所ヲ經由スヘキ書類ノ件

明治十八年四月十六
日長甲第二十一號

(郡)

郡役所ヲ經由スヘキ書類之儀ハ其郡役所ニ於テ調査ヲ遂ケ規則ニ抵觸スル乎若クハ意味ノ不通ナルモノ、如キハ之ヲ訂正セシメ可成完全ヲ認メ進達可致勿論之處近來或ハ不然爲メニ再應往復ヲ要シ其手數云フ迄モ無之全体經由ノ精神ニ悖リ其ヲ不都合ニ候條自今經由書類ハ必ス調査ヲ遂ケ不都合無之ト認ムルモノハ其野外へ郡長ノ認印ヲ要シ進達候條可致此旨相達候事

○進達期限ニ關スル件

明治十八年五月
四日長甲番外

(郡長)

進達若クハ町村會等總テ定期アルモノハ事實不得止モノ、外ハ濫リニ延期不相成勿論ノ處其期限切

迫延敷ニ至テハ期日ノ最終ニ臨ミ延期等申出向往々有之不都合不少以條若シ期限内處理シ能ハサルモノ有之トハ其事實詳細取調(經由ニ係ルモノハ郡長ノ意見書ヲ添へ)遅クモ期限十日以前延期申出以様可致此旨訓示以事

○執行事務ノ件

明治二十一年四月五

(郡)

執行事務ノ確實敏捷ヲ要スルハ施政上至緊至要ノ義ニ有之以處近來往々有期ノ進達ヲ遅延シ又ハ調査ノ疎漏等ヨリ再三三四ノ應答ヲ煩シ僅ニ完了ヲ告クル場合ニ有之如候ハ徒ラニ冗費手數ヲ要スルノミナラス事務ノ果否ニ關係不少義ニ候條尙モ輕忽緩慢ノ取扱無之候様厚ク注意スヘシ

○北海道廳へ書類送送ノ件

明治二十六年七月二
十日訓令甲第十六號

(郡市町村)

郡市役所町村役場ヨリ發送ノ公書ニシテ北海道廳管下戸長役場ニ送付スヘキモノヲ郡役所ニ送付シ郡役所ニ照會スヘキ件ニシテ之ヲ北海道廳ニ照會シ其シキハ町村役場ヨリ直チニ北海道廳ニ照會送付等ノ類セ間々有之趣北海道廳ヨリ通牒有之右ハ新來移民等原籍へ誤認ノ届ヲ爲スニ因スル義ニモ可有之候得共畢竟北海道事情ノ普及セサルニ基ク事ト被認候條向此邊ニ關シ篤ト注意スヘシ但北海道廳郡區町村區畫ハ左記ノ通り二區十五郡役所百十戸長役場又一郡役所ハ三四郡若クハ十餘郡ヲ管轄シ一戸長役場ハ數町村乃至數十町村ヲ所轄スルヨリ隣ツテ某外何郡役所某村外何町村戸長役場ト稱シ而シテ各郡役所ハ其所在町村及近傍町村ヲ直轄スト雖モ隣リ龜田外三郡役所宗谷

外三郡役所ハ直轄町村ナキヲ以テ茲ニ其異例ヲ示ス

(左記區畫ハ略ス)

○訴訟書類取扱ノ件 明治二十五年五月 十日訓令七十一号 (郡)

郵便ニ依リ送達スル訴訟書類ヲ民事訴訟法第四百拾五條第二項ニ據リ町村長へ預ク置キタル書類ニシテ其送達ヲ受クヘキモノアラサル場合ニ於テ町村役場ヨリ返還シ向モ有之趣右ニテハ法文ノ旨趣ニモ相反シ候條其儘該役場へ留置シヘキ旨町村長へ訓示スヘシ

○訴訟書類取扱ノ件 明治廿五年五月十九日訓令七十二号

郵便ニ依リ送達スル訴訟書類ヲ民事訴訟法第四百拾五條第二項ニ據リ市長へ預ク置キタル書類ニシテ其送達ヲ受ヘキモノアラサル場合ニ於テ返還候様ノ儀有之候テハ法文ノ旨趣ニモ相反シ候條其儘役所ニ留置クヘシ

○詞訟ノ爲帳簿寫取ノ件 明治十四年六月九日郡甲五十二号 (郡)

詞訟審判上心要ニ付郡役所及戸長役場所管之帳簿等寫取方各裁判所ヨリ照會有之節ハ右寫本ニ正寫之部トシテ郡役所之印ヲ捺シ同所へ可差廻尤寫本多數ニシテ費用相掛候節ハ其照會有之裁判所ノ仕拂ト相心得且詞訟事件ニ依リ元帳ヲ要スルルハ差廻方可取計豫テ戸長場へモ可達置此旨相達候事

○訴訟熱和解訟スルトキ伺出ノ件 明治十九年一月十一日乙第三號 (郡戸)

人民ヨリ郡長(又ハ戸長)ノ職務上ニ對スル訴訟ノ義ニ付明治十八年乙第三十八號ヲ以テ相達置候次第モ有之處其筋ニ於テ審理中原被告熱和解訟セントスル時ハ像其事實ヲ詳記シ伺出指揮ヲ受クヘシ右相達候事

○地所建物船舶所有者印鑑ノ件 明治二十六年九月五日訓令甲第十九號 (郡市町村)

地所建物船舶ノ所有者ニシテ其印鑑ヲ初メテ所轄登記所ニ差出ス場合ハ郡役所町村役場ノ照査ヲ經ヘキニ付右差出候節ハ寫ト照査ヲ遂ク其證トシテ印鑑紙ノ餘白ニ役所役場印ヲ押捺シテ下付スヘシ

○洋行留學志望者與書ノ件 明治二十年二月 訓令第三十一號 (郡)

洋行留學等ノ爲メ海外旅券下付申出戸長ニ於テ與書致候節ハ其志望目的及資産等ノ大要取調添申ノ上當廳へ送候様戸長へ示達スヘシ

○古墳取調ノ件 明治十四年三月十日乙第三十七號

上世以來御陵墓所在未定ノ分御取調中ニ付荒蕪地開墾ノ節口碑流傳ノ場所其他古墳ト相見候地ハ私有地ナリトモ限リニ發掘致間敷尤自然風雨等ノ爲メ石槨土器等露出シ又ハ開墾中圖ラヌ古墳ニ掘リ當テハ標ノ次第有之候ハ口碑傳説ノ有無ニ拘ハラヌ凡テ詳細ナル繪圖面ヲ製シ其地名並近傍ノ字等

ヲモ取調所管郡役所へ可申出此旨相達候事

○菊御紋章賣物ニ畫ク相成ラサルノ件

明治十三年四月廿七日乙番外

菊御紋章ヲ賣物等ニ畫キ候儀並紛敷品相用候儀モ不相成旨明治元年三月廿八日全四年六月十七日付
公布ノ趣モ有之候處近來往々賣品ニ御紋章ヲ畫キ候向有之哉ニ相聞以條心得違無之様可致此旨諭達
○事

○鐵道線路内歩行ノ件

明治二十二年九月廿日訓令第九十五號

(郡市町村)

鐵道線路内ヲ歩行シ又ハ小兒ニシテ線路内ニ於テ遊戯致シ居リ機關車ニ觸ル、者往々有之趣其筋ヨ
リ照シ之アリ右ハ是迄度々相達置候通生命ニモ關シ最モ危險不少候條心得違者無之様取締方厚ク注
意スヘシ

○樺太島へ漁業出稼志願ノ件

明治十五年四月廿七日郡甲第五十號

(郡)

露國樺太島へ漁業出稼志願ノ者有之節ハ本縣ヨリ外務省へ伺ノ上許否相成リ來候處向後ハ都テ在哥
爾薩領事館ヲ經由露國地方官へ照會ノ上處分相成候ニ付本縣屬ノ添書ヲ以テ直ニ該領事館へ出願可
爲致順序ニ付其旨相心得戶長役場へモ可相達置此旨相達候事

樺太島漁業出稼手續ノ件

明治十八年四月廿二日郡甲第二十三號

(郡)

露國樺太島へ漁業出稼志願ノ者ハ本縣添書ヲ以テ哥爾薩領事館へ出願可致旨明治十五年四月郡甲第
五十號ヲ以テ相達置候處右手續ヲ經ス直ニ漁業場へ渡航スルモノ往々有之由其筋ヨリ申越且露國ニ
於テハ漁業證ヲ所持セス漁場ニ碇泊スル船舶ハ総テ密獵船ト見做シ拘留スルノ成規ナル趣ニ付向後
不都合ノ者無之様諭示可致此旨相達候事

明治二十九年六月十五日印刷
 明治二十九年六月二十五日發行

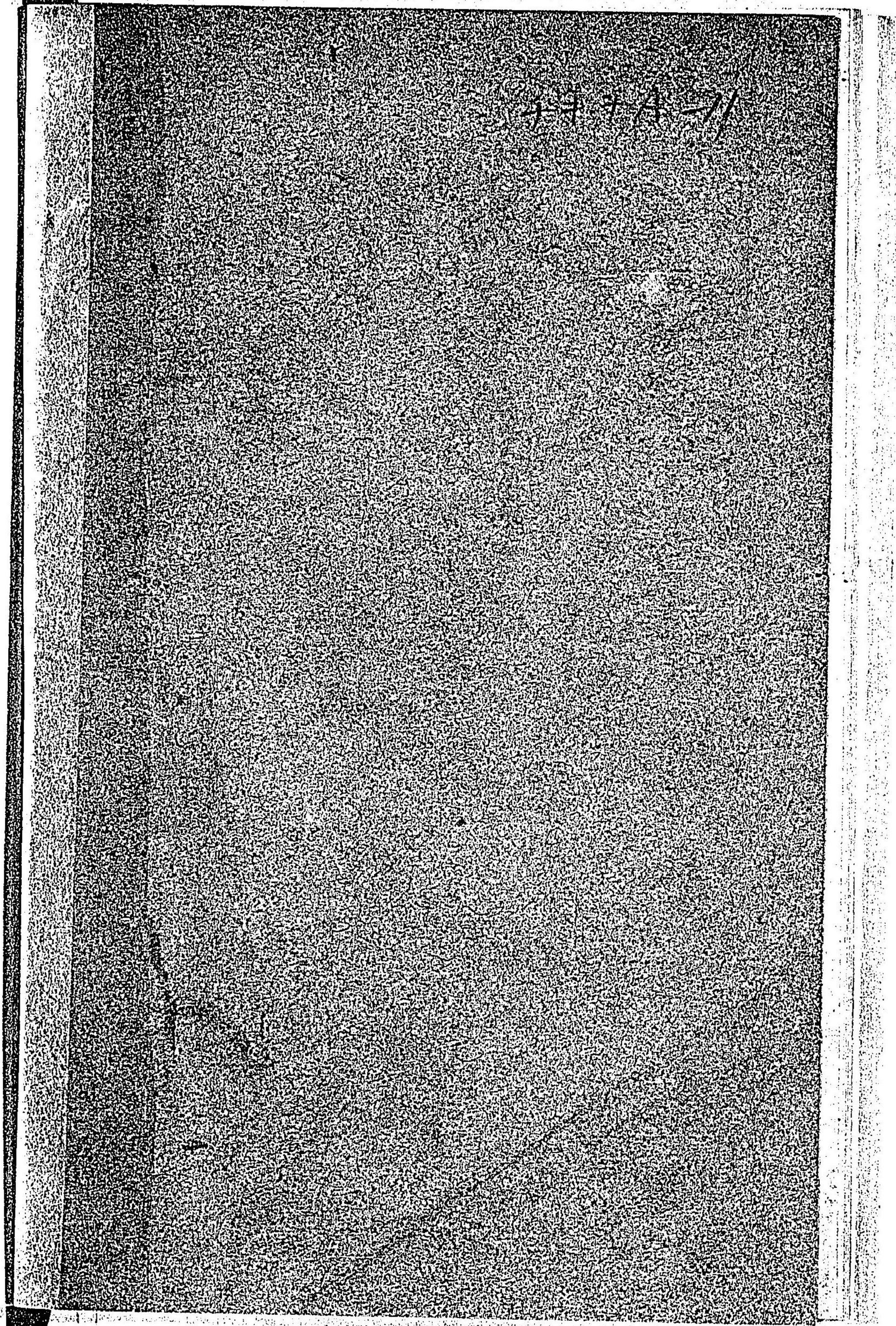
茨城縣知事官房編纂

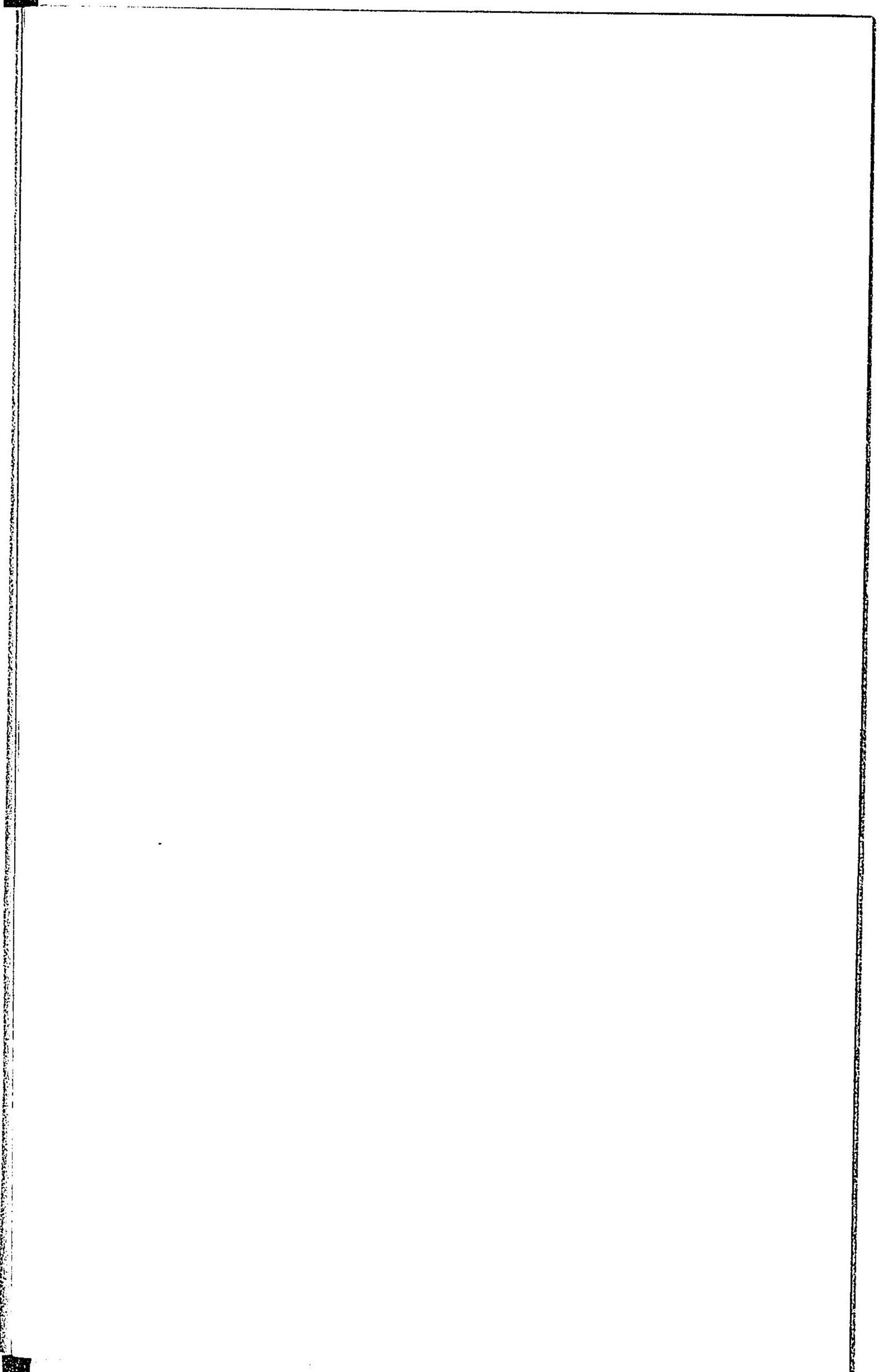
茨城縣水戸市大字上市南町三十一番地

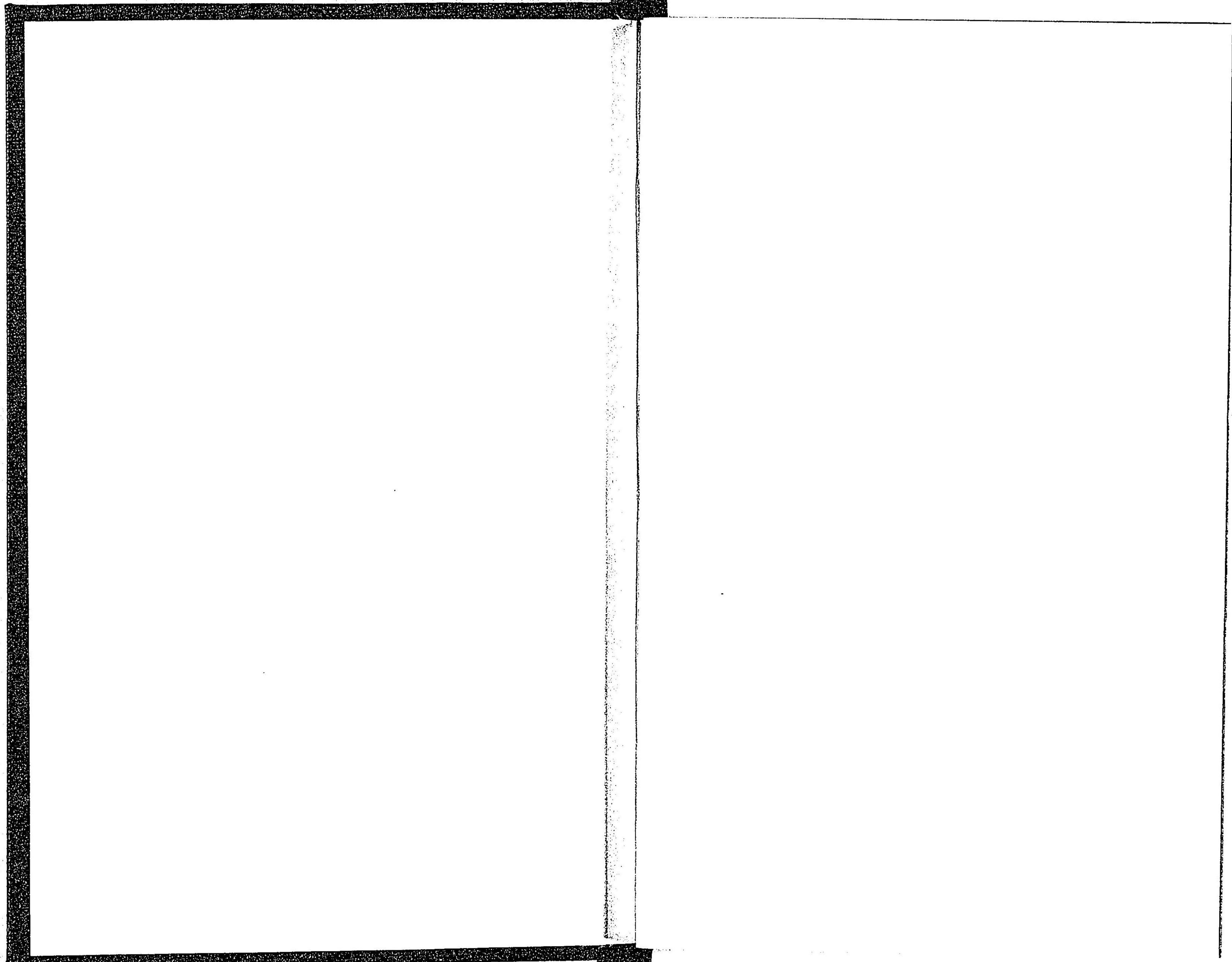
印刷者 田 中 市 郎

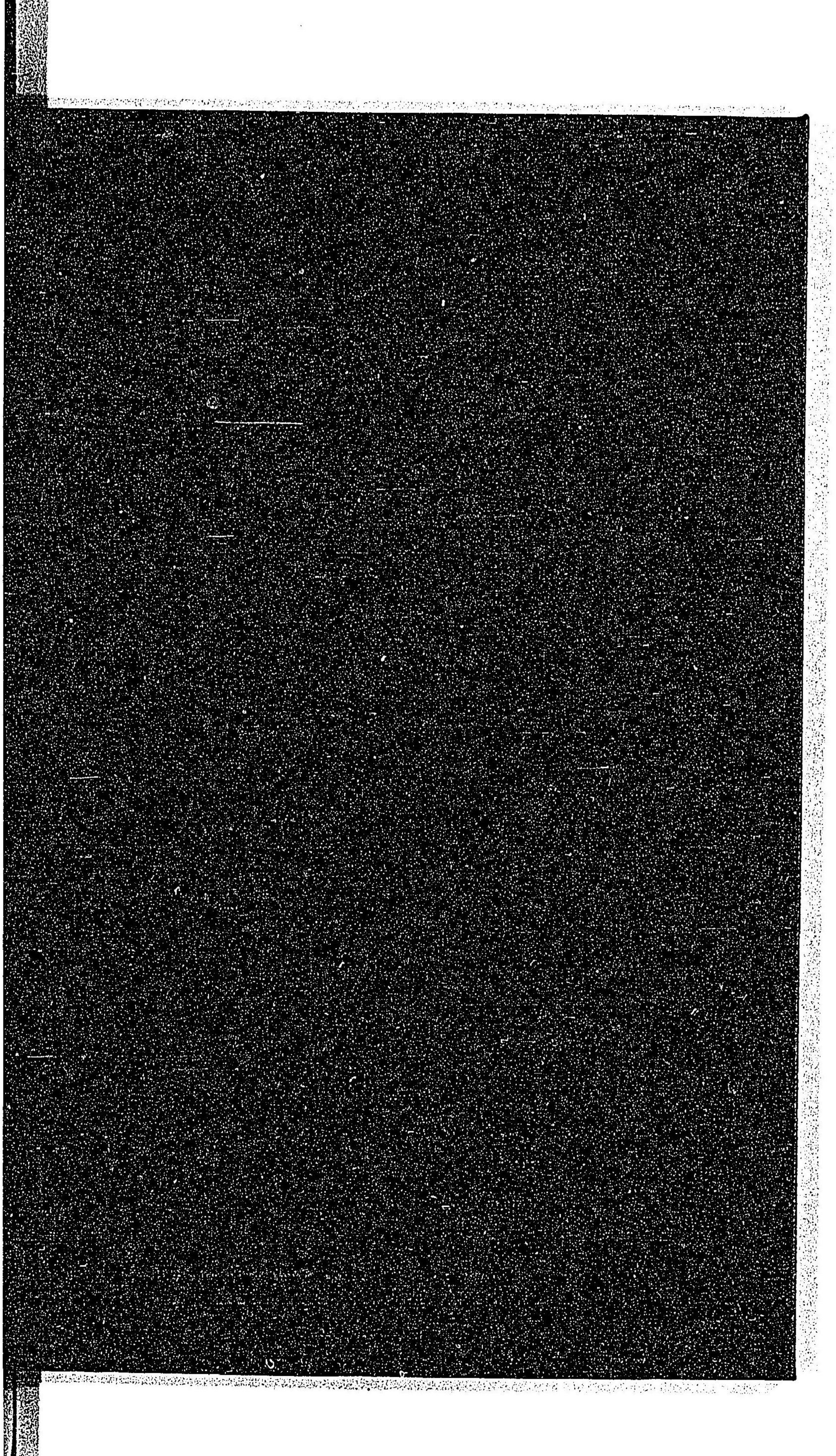
印刷所 同縣同市同町十六番地
 しまら新聞社印刷部

頁數	行數	課	正
九五	一	願ハ	願
一七七	一	自用料家ノ家ハ自ノ下ニ入ル	
三三九	一	方稅ノ上ニ地ヲ入ル	
三四八	一	地方稅ノ上ノ一ヲ削ル	
三九一	一	調順順ハ	調理順序
五六三	一	規程扱ハ	扱規程
六三九	七	員ハ	費
六四六	三	收ハ	改
七〇六	八	續ハ	讀
七二〇	三	材ハ	村
七三五	七	程ハ	得
七四一	一	番ハ	書
七四一	四	宮ハ	官
七四五	一	三願畫ハ	願書
七四五	一	二畫ハ削ル	
七四七	八	癸ハ	發
七四九	五	般ハ	船









禁電子式複写

